

大館市立総合病院年報

第 1 2 号

R4.4~R5.3



大館市立総合病院

ODATE MUNICIPAL GENERAL HOSPITAL

大館市立総合病院の理念と基本方針

理念

私たちは、患者さんが安心と満足を得られる医療を展開します。

基本方針

1. 患者さん中心の「医療」

患者さんとの信頼関係を大切にし、病める人への配慮を常に忘れず、心のこもった患者さん中心の医療を提供します。

2. 地域の中核病院としての「医療」

地域中核病院としての役割を担い、二次医療を中心に業務を遂行します。常に医療の安全と医療水準の向上をめざし、診療機能の充実を図ります。地域の医療、保健、福祉との連携を緊密にし、地域住民の健康を守ります。

3. 全職員参加の「医療」

全職員は、自己の業務を十分に理解し、他の医療職種との連携を図ってチーム医療を推進し、自己に課せられた業務に意欲的に取り組み、病院機能の一層の充実を図ります。全職員は、病院運営に参加しているという自覚を持ちます。

4. 地域医療を担う「人材の育成」

臨床研修指定病院・各種学会認定研修施設・臨床実習病院として、教育・研修体制の充実強化を図り、次世代の地域医療を担う人材を育成します。

患者さんの権利

患者さんには次のような権利があります。

1. 公平かつ平等な医療を受ける権利
2. 尊厳を尊重される権利
3. 十分な説明を受ける権利
4. 自己決定の権利
5. 情報を知る権利
6. 他の医師の意見を聞く権利
7. 個人情報を守られる権利

目 次

大館市立総合病院の理念と基本方針

目次

巻頭言	大館市病院事業管理者 吉原 秀一	1
沿革・施設概要		2
建物配置図		4
組織図		5
役職員名簿		6
職員数		7
医師在職者数調		8
認定施設一覧		9
病院見学受入実績		10
I. 各診療科別の臨床統計		11
1. 呼吸器・循環器内科		12
2. 消化器・血液・腫瘍内科		15
3. 内分泌・代謝・神経内科		18
4. 外科		25
5. 呼吸器外科		28
6. 整形外科		31
7. 脳神経外科		36
8. 小児科		38
9. 産婦人科		42
10. 泌尿器科		47
11. 耳鼻咽喉科		50
12. 神経精神科		53
13. 麻酔科		56
14. 放射線科		59
15. 歯科口腔外科・矯正歯科		61
II. 部門別の臨床統計・研究実績		66
1. 看護部		67
2. 臨床検査科		72
3. 神経精神科リハビリテーション室		75
4. 薬剤科		78
5. 栄養科		84
6. 放射線科		86
7. リハビリテーション科		89
8. 臨床工学科		92
9. 医療安全推進室		95
10. 感染制御室		97

Ⅲ. 各委員会等報告	99
院内委員会等機構図	100
1. 医療安全対策委員会	101
2. リスクマネジメント委員会	103
3. 医療機器安全管理委員会	105
4. 院内感染対策委員会	106
5. ICT委員会	108
6. 臨床研修管理委員会	111
7. 卒前卒後研修委員会	113
8. 医の倫理委員会	114
9. DPC委員会	115
10. 災害対策委員会	116
11. 衛生委員会	117
12. 放射線安全管理委員会	119
13. 医療廃棄物管理委員会	120
14. 医療ガス安全管理委員会	121
15. 輸血療法委員会	122
16. 診療記録管理委員会	123
17. 褥瘡対策委員会	124
18. 臨床検査適正化委員会	126
19. 栄養管理委員会	128
20. 勤務医負担軽減対策委員会	129
21. 透析液水質確保委員会	130
22. がん拠点病院運用会議	132
23. 化学療法放射線治療委員会	133
24. がん登録委員会	134
25. 緩和ケア委員会	136
26. NST委員会	138
27. クリニカルパス委員会	140
28. 情報システム運用委員会	141
29. 薬事委員会	142
30. 患者サービス委員会	143
31. 地域医療連携推進委員会	144
32. 医療器材管理委員会	145
33. 保険診療委員会	146
34. 広報委員会	148
35. 救急室運営委員会	149
36. 図書室運営委員会	150
37. 手術室運営委員会	151
38. 臨床工学科運営委員会	152
39. 教育委員会	153
40. 機能評価委員会	154
41. 排泄ケア委員会	155
42. 呼吸ケアサポートチーム委員会	156
Ⅳ. 臨床統計	157
1. 年度別患者数	158
2. 科別外来患者数(新患・再来)	159
3. 科別外来患者数(新患)	160
4. 科別外来患者数(再来)	161
5. 科別時間外・休日受付入院患者数	162
6. 科別時間外・休日受付外来患者数	163
7. 科別入院患者取扱状況	164
8. 科別入院患者取扱状況	164
9. 科別1日平均入院患者数	165
10. 科別1日平均外来患者数	165
11. 年度別外来紹介患者数・紹介率	166
12. 紹介率・逆紹介率	167
13. 病棟稼働状況及び病床利用率	168
14. 年度別科別平均在院日数	169
15. 年齢別入院患者分析表	170
16. 年齢別外来患者分析表	171
17. 診療科別・病棟別平均在院日数	172
18. 分娩件数	173
19. 外来化学療法件数	174
20. 年度別麻酔件数	174
21. 月別麻酔件数	175
22. 診療科別麻酔件数	175
23. 救急患者来院数	176
24. 救急車搬入件数及び転送件数	177
25. 来院方法別救急患者数	178
26. 人間ドック受診者数	178
27. 診療情報開示請求件数	179
28. 診療科別疾病統計	180
29. 原死因統計	181
30. 看護必要度状況	181
Ⅴ. 臨床指標	182
大館市立総合病院年報第12号編集にあたって	185



令和4年度 第12号大館市立総合病院年報発刊に寄せて

大館市病院事業管理者 吉原 秀一

この度令和4年度年報が完成いたしました。完成に際しては、各部門など作成、編纂など大変ご苦勞されたことと思いますが、その御努力に対し感謝申し上げます。

ご存知のごとく病院年報は単なる各部門の年度記録の集大成ではなく、これからの病院の将来を左右する重要な道標となります。ただ令和4年度は新型コロナウイルス感染症真只中の記録であり、特に年度途中の第8波新型コロナウイルス感染では国内最大の死者数を記録し、国内の医療に重大な影響を与えました。その影響は大きく、今年度の記録の評価には一定の考慮を要するものと考えます。年報には客観的な数字が記されていますが、その数字の裏にある各部門の苦勞や工夫が見て取れます。このような経験は将来必ず役に立つと考えられます。

近々、新型コロナウイルス感染症が終息した場合も、医療情勢が新型コロナウイルス感染症前に直ちに戻ることはないと考えます。具体的には新型コロナ流行後には過疎地では出生数の減少と相まって人口減少が加速すると思われ、さらに検診率の低下、医療人材の確保困難などが予想されます。その結果、医療機関の再編、統合が進み医療圏は拡大していくものと思われ、拡大していく医療圏での当院の役割はますます大きくなって行くものと思われ、今後も地域医療の維持のため本年報がその指針となるように期待します。

(令和6年3月5日 記)

沿革・施設概要

明治12年に、木村謙齋、川瀬玄探ら8氏の主唱により字馬喰町地内に私立大館病院として創設され、その後、明治15年に50か町村連合による公立大館病院が成立。明治32年には字長倉地内に新築移転、更に、昭和2年字三ノ丸地内に新築移転した。昭和28年4月の大火により全施設を消失し、昭和30年2月までに現在地(豊町)に新築移転した。昭和39年からは公立大館総合病院となったが、財政事情の悪化により昭和41年2月12日に病院を運営する一部事務組合 公立大館総合病院事務組合(大館市、田代町、花矢町で組織)を解散し、翌13日に大館市が一切を継承した大館市立総合病院として発足した。

財政再建を進めながら、昭和45年5月には本館棟、昭和55年3月には放射線棟、昭和56年10月には神経精神科棟、昭和59年10月には新館棟、平成9年11月には新館棟屋上に教育実習棟が完成した。平成12年から平成21年にかけては、高層棟などの大規模な増改築事業を行った。

また、地域の中核病院としての役割を果たすため、平成24年度にDPC病院への移行と病院機能評価の認定、平成25年度に臨床研修評価の認定、そして平成26年度には地域連携室の開設や電子カルテの導入などに取り組んできた。さらに、平成28年度の地域包括ケア病棟導入と認知症疾患医療センター設置。平成30年度には鹿角地域の産科機能の集約化から患者の受け入れ体制を強化した。令和3年度より、地域の中核医療機関として救急医療機能の体制整備を行い、24時間体制での緊急PCI受入れを開始、令和4年度には地域救命救急センターの整備に向けて救急室の改修工事に着手するなど一層の診療機能の充実に努めている。

年表

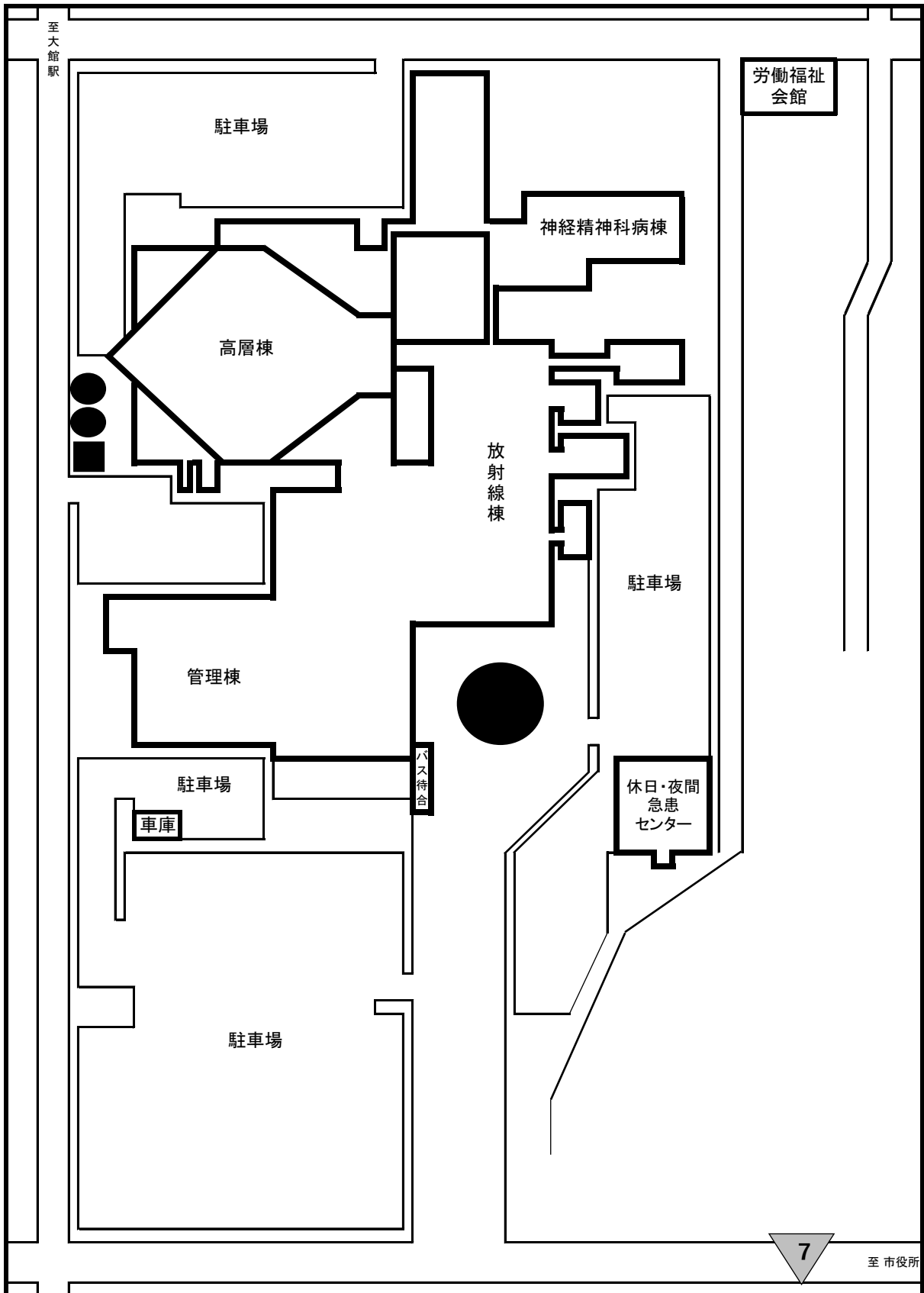
明治12年	「私立大館病院」として創設
15年	東大館町などの50か町村連合による「公立大館病院」が発足
32年	字長倉地内へ新築移転
昭和2年	字三ノ丸地内へ新築移転
28年 4月	風呂屋町から発生した大火によって全施設を消失
30年 2月	現在地(豊町)に新築移転 許可病床数 一般147床、結核268床の計415床
4月	伝染病棟及び精神病棟完成 許可病床数 一般207床、結核268床、伝染36床、精神50床の計561床
39年 4月	「公立大館総合病院」へ名称変更 許可病床数 一般219床、結核303床、精神180床、伝染28床の計730床
41年 2月	極度の財政事情の悪化により「公立大館総合病院」を運営する一部事務組合は12日に解散。翌13日には大館市が一切を継承し「大館市立総合病院」として発足。許可病床数は、一般213床、結核207床、精神180床、伝染30床の計630床 一部事務組合より継承した不良債務は3億7,400万円に上り、その解消を図るため、向後9カ年の財政再建計画を策定し、自治省より再建団体の指定を受ける
45年 5月	病院施設の近代化・立体化のため本館棟を改築(地下1階、地上6階、総事業費6億9,400万円) 許可病床数は、一般290床、結核150床、精神180床、伝染30床の計650床(昭和46年3月時点)
44年～	医療需要の変化に対応した質的医療の充実に図るため、高度医療機器を導入するとともに医療
50年	技術スタッフの充足を図る(整備費総額3億3,760万円)
46年～	病床数の変更 昭和46年7月 646床、昭和47年1月 481床、昭和47年6月 一般325 床、結核70床、
47年	精神80床、伝染26床の計501床
49年	再建団体の指定解除
55年 3月	放射線棟を増築(事業費10億500万円)
10月	病床数の変更 一般325床、結核70床、精神110床、伝染26床の計531床
56年10月	神経精神科棟を全面改築(事業費5億3,735万円)
58年 7月	病床数の変更 一般375床、結核10床、精神110床、伝染10床の計505床
59年10月	新館棟を増築(総事業費13億3,797万円)
63年11月	豊町に医師住宅を建築(総事業費4億867万円)
平成 6年 3月	放射線棟MRI室の増築(総事業費2億1,423万円)
7年11月	昭和63年度頃から経営が悪化し、国の第四次病院事業経営健全化措置による病院健全化団体に指定される
9年 7月	積極的な経営健全化に努めた結果、病院健全化団体の指定解除
11月	新館棟屋上に教育実習棟を増築(総事業費2億2,926万円)
11年 4月	病床数の変更 一般375床、結核10床、精神110床、感染2床の計497床
12年～	地上11階建屋上へリポート設置の高層棟の増築(本館棟の解体)、管理棟(旧新館棟)及び放射
21年	線棟の一部改築などの増改築事業を実施(総事業費108億400万円) 許可病床数 一般375床、結核6床、精神110床、感染2床 計493床
20年 4月	地方公営企業法の全部適用により病院事業管理者を設置
12月	平成19年12月に国が示した「公立病院改革ガイドライン」に基づき、「病院事業経営改革プラン」を策定
21年 5月	7対1入院基本料施設基準の取得(一般・結核)

平成21年11月	弘前大学との間で「専門医養成ネットワークに関する協定」を締結
22年 6月	病院ロゴマークの制定
8月	病院広報誌「おおだて病院だより」を発行
23年 1月	院内保育所を開設(事業費1,942万円)
12月	人工透析室を拡張(事業費9,520万円)
24年 2月	「病院事業経営改革プラン」の見直し
4月	DPC対象病院となる
	病床数の変更 一般375床、結核6床、精神60床、感染2床 計443床
	診療科名の見直し(新設、廃止、名称変更により22科から24科へ)
10月	外来駐車場を50台分拡張(1,380㎡ 事業費1,282万円)
11月	売店をコンビニエンスストアとして新規開店
12月	看護師奨学金貸与条例を制定
25年 1月	病院機能評価(ver6.0)の認定を受ける 「総合病院年報」第1号を発行
25年11月	高校生病院見学会開催
12月	弘前大学寄附講座によるフューチャードクターセミナー開催
26年 2月	臨床研修評価の認定を受ける
5月	地域連携室を開設
7月	あきたハートフルネットの利用開始。県内のネットワーク参加医療機関との間で情報の共有化が可能となる
11月	電子カルテを含む新医療情報システムが稼働。患者一人1カルテの運用体制が確立され、診療情報を共有するチーム医療の体制が整備される
27年 4月	呼吸器外科を新設。地域がん診療連携拠点病院として常勤医師2名の診療体制となる
28年 2月	臨床研修評価更新のため受審し、認定を受ける 地域がん診療連携拠点病院として平成32年3月まで4年間の指定更新を受ける
4月	地域包括ケア病棟を導入(59床)
10月	認知症疾患医療センターを設置
29年 3月	平成27年3月に国が示した「新公立病院改革ガイドライン」に基づき、「病院事業経営改革プラン」を策定
5月	新たに「地域医療を担う人材の育成」を追加するなど、病院の理念・基本方針の見直しを行う
30年 1月	病院機能評価(精神科病院を含む3rdG:Ver1.1)の認定を受ける
3月	臨床研修評価更新の認定を受ける
10月	鹿角地域の産科機能の集約化 院内保育所で病児保育を開始
31年 4月	県北地域で唯一地域がん診療連携拠点病院として令和5年3月まで4年間の指定(更新)を受ける
令和元年10月	県より秋田DPAT病院の指定を受ける
2年	新型コロナウイルス対応重点医療機関としての体制整備を図る
3年 5月	心臓カテーテル治療(PCI)の受入れを開始
10月	24時間体制での緊急PCI受入れを開始
11月	電子カルテ等の医療情報システムを更新
4年 4月	院内で初の診療看護師を配置
5月	「患者さんの権利」の見直しを行う

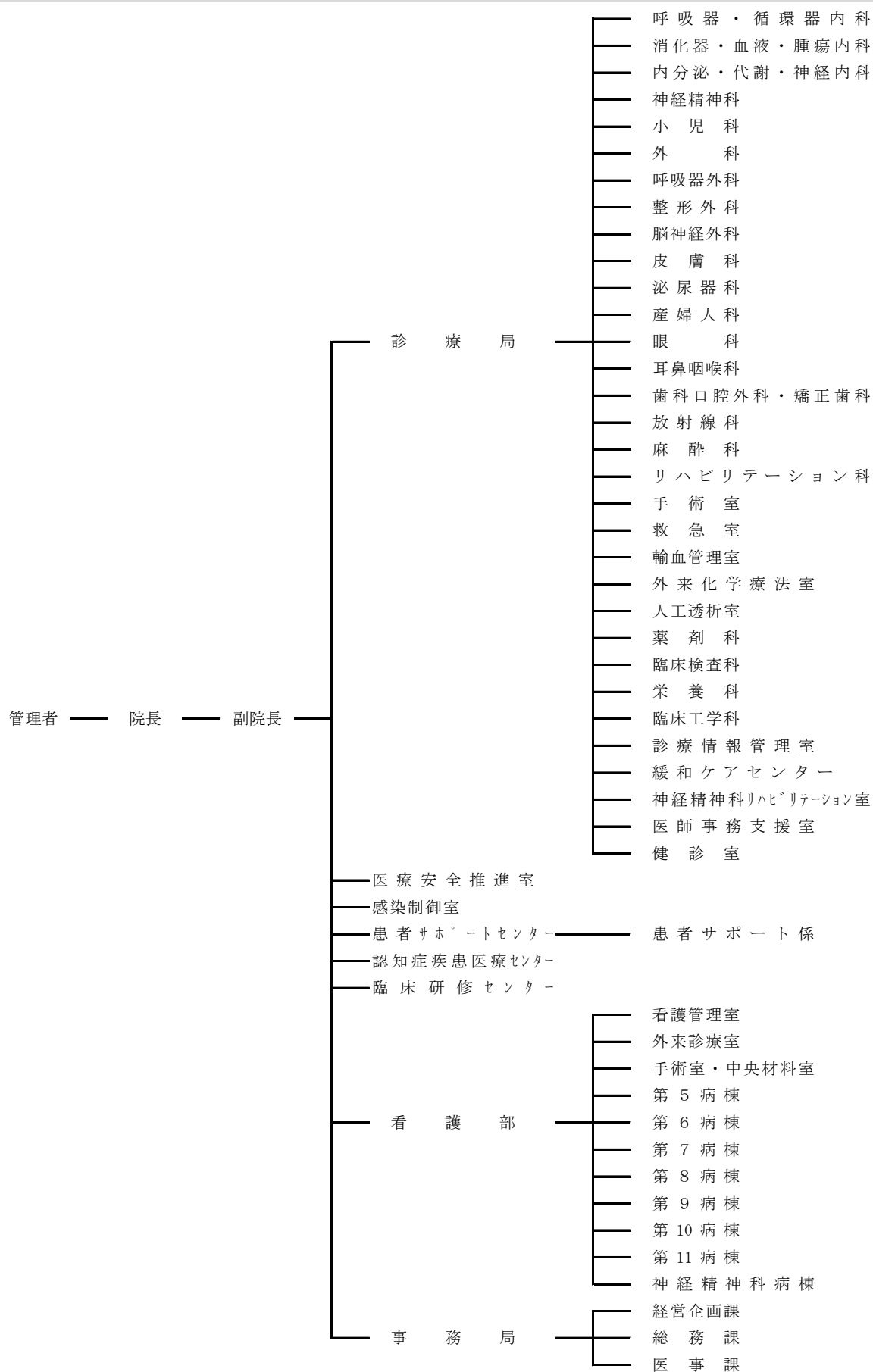
施設の概要

① 所在地	大館市豊町3-1(TEL42-5370)			
② 敷地	病院敷地	36,608㎡	公舎敷地	3,124㎡
③ 建物	病院(RC造11階建 他)			43,438.72㎡
	職員宿舎(RC造 3階建)		4戸建1棟	431.81㎡(赤館)
	〃 (RC造 4階建)		16戸建1棟	2,491.95㎡(豊町)
	〃 (木造モルタル造)		2戸	187.15㎡(桜町)
	計			46,549.63㎡
診療科名	循環器内科・呼吸器内科・消化器内科・血液内科・腫瘍内科・内分泌内科・代謝内科・神経内科 精神科・小児科・外科・呼吸器外科・整形外科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科 眼科・耳鼻咽喉科・放射線科・麻酔科・リハビリテーション科・歯科・歯科口腔外科・矯正歯科 計25科			
病院の性格	救急告示病院・災害拠点病院・基幹型臨床研修病院・DPC対象病院 地域がん診療連携拠点病院・第二種感染症指定医療機関・エイズ治療拠点病院 日本医療機能評価機構認定病院・卒後臨床研修評価機構認定病院 秋田県地域療育医療拠点施設(歯科診療部門)・精神科救急地域拠点病院 精神科救急身体合併症対応病院・秋田県地域周産期母子医療センター 弘前大学専門医養成ネットワークに関する協定病院・認知症疾患医療センター			

建物配置図



組 織 図(令和4年度)



役職員名簿

(令和5年3月31日)

管 理 者	吉 原 秀 一
院 長	吉 原 秀 一
副 院 長	橋 本 浩
副 院 長	大 石 晋
副 院 長 兼 診 療 局 長	成 田 知
副 診 療 局 長	盛 岡 元 一 郎
副 診 療 局 長	小 笠 原 仁
副 診 療 局 長	横 山 徹
副 診 療 局 長	篠 原 敦

外来化学療法室	室 長	小 笠 原 仁
神経精神科リハビリテーション室	室 長	佐 藤 靖
リハビリテーション室	部 長	横 山 徹
人工透析室	室 長	成 田 知
放射線科	部 長	篠 原 敦
手術室	部 長	橋 本 浩
救急室	室 長	丹 代 諭
輸血管理室	室 長	小 笠 原 仁
臨床工学科	室 長	成 田 知
医療安全推進室	室 長	成 田 知
感染制御室	室 長	池 島 進
診療情報管理室	室 長	大 石 晋
薬剤科	部 長	中 居 肇
患者サポートセンター	センター長	池 島 進
緩和ケアセンター	センター長	大 石 晋
認知症疾患医療センター	センター長	佐 藤 靖
医師事務支援室	室 長	成 田 知
卒後臨床研修センター	センター長	丹 代 諭
健診室	室 長	吉 原 綾 子
栄養科	部 長	池 島 進
臨床検査科	部 長	大 石 祐 子
看護部	看護部長	石 田 和 子
事務局	事務局長	桜 庭 寿 志

職 員 数

(令和5年3月31日)

所属		区分	職員数(人)
		管理者	1
診療局		医師	48
		研修医	16
		薬剤科	薬剤師
	放射線科	放射線技師	14
	臨床検査科	臨床検査技師	20
	栄養科	栄養士	6
	リハビリテーション科	理学療法士	12
		作業療法士	6
		言語聴覚士	2
	神経精神科	精神保健福祉士	2
		臨床心理士	2
		作業療法士	0
	認知症疾患医療センター	精神保健福祉士	1
	臨床工学科	臨床工学技士	6
	眼科	視能訓練士	2
医療安全推進室	副室長	1	
看護部		看護師	333
		診療看護師	2
		准看護師	0
		助手・技能員	1
事務局		事務職員	30
合計			523

医師・研修医在職者数

(単位:人)

診療科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
呼吸器・ 循環器内科	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60	5.0
消化器・血液・ 腫瘍内科	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	6.0
内分泌・代謝・ 神経内科	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0
神経精神科	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0
小児科	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	59	4.9
外科	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	78	6.5
呼吸器外科	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0
整形外科	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	47	3.9
脳神経外科	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
泌尿器科	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0
産婦人科	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	66	5.5
眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
耳鼻咽喉科	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	22	1.8
歯科口腔外科・ 矯正歯科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
放射線科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1.0
麻酔科	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0
臨床検査科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1.0
臨床研修医	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192	16.0
合計	70	69	69	69	69	68	67	67	67	67	66	65	813	67.8

認定施設一覧

(令和5年3月31日)

番号	学会名等	認定施設名等
1	日本泌尿器科学会	日本泌尿器科学会専門医教育施設
2	日本産科産婦人科学会	日本産婦人科学会専門医制度専攻医指導施設(連携型)
3	日本消化器外科学会	日本消化器外科学会専門医修練施設
4	日本整形外科学会	日本整形外科学会専門医制度研修施設
5	日本内科学会	日本内科学会認定医制度教育関連病院
6	日本眼科学会	日本眼科学会専門医制度研修施設
7	日本脳神経外科学会	日本脳神経外科学会専門医制度連携施設
8	日本麻酔科学会	日本麻酔科学会認定麻酔科専門医研修施設
9	日本糖尿病学会	日本糖尿病学会認定教育施設
10	日本外科学会	日本外科学会外科専門医制度修練施設
11	日本がん治療認定医機構	日本がん治療認定医機構認定研修施設
12	日本消化器内視鏡学会	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
13	日本乳癌学会	日本乳癌学会関連施設
14	日本臨床腫瘍学会	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
15	秋田県医師会	秋田県医師会母体保護法指定医師研修機関
16	日本循環器学会	日本循環器学会循環器専門医研修関連施設
17	日本周産期・新生児医学会	日本周産期・新生児医学会周産期母体胎児専門医補完研修施設
18		日本周産期・新生児医学会周産期新生児専門医補完研修施設
19	日本乳がん検診精度管理中央機構	マンモグラフィ検診 施設画像認定証
20	日本病理学会	日本病理学会研修登録施設 (連携する認定施設名=弘前大学)
21	厚生労働省	がん診療連携拠点施設
22	日本産科婦人科内視鏡学会	日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
23	日本消化器病学会	日本消化器病学会専門医制度認定施設
24	日本感染症学会	日本感染症学会研修施設
25	日本医学放射線学会	日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
26	日本理学療法士協会	日本理学療法士協会新人教育プログラム臨床指導施設
27	呼吸器外科専門医合同委員会	呼吸器外科専門医制度関連施設
28	日本消化器学会	日本消化器学会胃腸科指導施設
29	薬学教育協議会	薬学生実務実習受入施設
30	日本輸血・細胞治療学会	日本・輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度(I&A制度)認定施設
31	日本医療薬学会	日本医療薬学会医療医薬専門薬剤師研修施設
32		日本医療薬学会がん専門薬剤師制度がん専門薬剤師研修施設
33		日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師制度薬物療法専門薬剤師研修施設
34	日本病院薬剤師会	日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修事業暫定教育施設
35	肺がんCT検診認定機構	肺がんCT検診認定機構肺がんCT検診認定施設
36	日本口腔外科学会	日本口腔外科学会 准研修施設
37	日本肝臓学会	日本肝臓学会肝臓専門医制度に基づく認定施設の特別連携施設
38	日本臨床腫瘍薬学会	日本臨床腫瘍薬学会がん診療病院連携研修病院

病院見学等受入実績

- ・令和4年度は、新型コロナウイルスの感染防止のため職場見学や職場訪問の受け入れ無し。

I . 各診療科別の臨床統計

1. 呼吸器・循環器内科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
72.1	13,199

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	948 人	外来(再来)患者延数	16,576 人
------------	-------	------------	----------

(3) 担当医師数

担当医師人数	平均	5 人/日
--------	----	-------

(4) 看護師数

看護師人数	6 人
-------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	心不全	6	徐脈性不整脈
2	急性心筋梗塞	7	誤嚥性肺炎
3	狭心症	8	慢性閉塞性肺疾患
4	高血圧症	9	間質性肺炎
5	頻脈性不整脈	10	腎不全

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

腎臓外来(大学病院)	毎週水曜日午前
呼吸器外来(大学病院)	毎週月、水、金曜日午前、毎月第1木曜日午後

(2) 専門医の名称と人数

日本呼吸器学会呼吸器専門医	1 人
日本循環器学会循環器専門医	3 人
日本脳卒中学会脳卒中専門医	1 人
日本不整脈心電学会 整脈専門医	1 人
日本内科学会 総合内科専門医	1 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
28.1	13.2	59,432

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

心不全	157	人
狭心症	72	人
急性心筋梗塞	51	人
COVID-19	32	人
誤嚥性肺炎	31	人
肺炎	27	人
房室ブロック	22	人
大動脈解離	21	人
ペースメーカー電池消耗	17	人
慢性虚血性心疾患	14	人
脳梗塞	13	人
細菌性肺炎	12	人
間質性肺疾患	11	人
その他の不整脈	11	人
下肢閉塞性動脈硬化症	10	人
脱水症	10	人
慢性腎不全	8	人
慢性閉塞性肺疾患	7	人
心房細動	7	人
肺塞栓症	6	人
総 数	611	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1) 検査例

項 目	例 数
① 心エコー検査	2,439
② 運動負荷試験	382
③ 冠動脈CT	113
④ 心臓カテーテル検査	76
⑤ 心筋血流シンチ	40

(2) 治療例・手術例

項 目	例 数
① 経皮的冠動脈形成術	113
② ペースメーカー移植術	33
③ ペースメーカーカジェネレータ交換術	17

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

呼吸器循環器内科には4人の医師が勤務しており、明るい雰囲気職場です。当院では2021年10月から、狭心症や心筋梗塞に対する経皮的冠動脈形成術(PCI)を行うことができるようになりました。徐々に症例も増えており、現在では大館のみならず北秋田地区、鹿角地区の医療圏をカバーして、急性心筋梗塞患者に対する緊急PCI治療を24時間365日提供できる体制を整えています。ST上昇型急性心筋梗塞患者においては、受診から血流再開までの時間(Door to balloon time)を90分以内にするのが推奨されています。当院では達成率が50%以上であり、予後改善に繋げることができるよう日々の診療を行なっています。

また急性心筋梗塞だけでなく、心不全や不整脈などの幅広い循環器疾患を診療しています。昨今は高齢化社会が進み、心不全パンデミックの時代と言われています。実際に心不全患者の数は増加しており、当院の診療のみでは対応できなくなりつつあります。そこで、かかりつけ病院とのスムーズな連携をとるために『循環器・腎疾患連携パス』の運用を検討しています。地域の患者様が安心できる医療を提供できるよう、医師や看護スタッフ、臨床工学技士、放射線技師など、多職種で協力して日々の診療を行っていききたいと思っております。

(2) 今後の課題

令和5年度から呼吸器内科の常勤医が2人勤務されるため、呼吸器・循環器内科から呼吸器内科と循環器内科に分かれることとなります。しかし、科は分かれますが、心臓と肺は相互に影響しています。日本の死因ランキング2位心疾患(14.8%)、5位肺炎(4.7%)と呼吸器・循環器疾患が高い割合を占めており、超高齢化社会の大館市ではさらに重要な役割となると思われま。お互いに協力しながら地域の医療に貢献していきたいと考えております。同様に、高齢社会の中で心不全の患者割合は多く、心不全パンデミックといわれております。当院のみでは大館市医療圏の循環器疾患すべてをカバーすることは困難であり、開業医の先生方にも大変ご協力頂いております。令和5年度には、循環器連携パスの改善と、さらに循環器のみならずCKDの連携パスを開始し、当院とかかりつけ医との連携を深め、紹介頂いた患者様の診療と逆紹介をよりスムーズにできるよう努めていきたいと考えております。

2. 消化器・血液・腫瘍内科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
109.9	39,048

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	1,248 人	外来(再来)患者延数	25,461 人
------------	---------	------------	----------

(3) 担当医師数

担当医師人数	平均	6 人/日
--------	----	-------

(4) 看護師数

看護師人数	15 人
-------	------

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	胃十二指腸潰瘍 逆流性食道炎	6	慢性関節リウマチ及び類縁疾患
2	総胆管結石 胆嚢結石 NASH	7	白血病(急性及び慢性)
3	潰瘍性大腸炎 クロウン病	8	骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫
4	胃癌、大腸癌、膵癌、胆道癌、食道癌	9	多発性骨髄腫
5	大腸ポリープ	10	肝硬変、肝癌

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

血液内科外来	毎週火曜日 水曜日 木曜日
膠原病外来 (予約制)	毎週金曜日(午後)

(2) 専門医の名称と人数

総合内科専門医	4 人
消化器病専門医	4 人
消化器内視鏡専門医	4 人
がん治療認定医	2 人
プライマリケア指導医	1 人
肝臓専門医	1 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
49.0	14.3	57,789

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

大腸良性腫瘍(ポリープ)	292	人
胆石症(総胆管結石含む)胆管炎 胆のう炎	120	人
胃癌	108	人
膵癌	90	人
結腸癌	88	人
胆道癌	66	人
悪性リンパ腫(非ホジキンリンパ腫)	50	人
食道癌	44	人
肝癌	31	人
大腸憩室疾患(出血、憩室炎)	29	人
直腸癌	28	人
胃潰瘍	28	人
骨髄異形成症候群	27	人
急性膵炎	23	人
アルコール性肝疾患	20	人
虚血性腸炎	19	人
COVID-19感染肺炎	18	人
逆流性食道炎及び十二指腸潰瘍	17	人
総 数	1,410	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1) 検査例

項 目	例 数
① 上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)	3,256
② 下部消化管内視鏡検査(大腸カメラ)	1,648
③ 超音波内視鏡検査	14
④ カプセル内視鏡(小腸)	12
⑤ 小腸内視鏡検査(バルーン内視鏡)	7

(2) 治療例

項 目	例 数
① 外来化学療法	1600件
② 入院化学療法	561件
③ 輸血療法(血小板&血漿)	6098単位
④ 輸血療法(赤血球輸血)	1440単位
⑤ 顆粒球除去療法	3例

(3) 手術例

項 目	例 数
① 内視鏡大腸ポリープ切除術	344
② 内視鏡的乳頭切開術及び胆道ドレナージ	241
③ 早期胃癌粘膜下層剥離術(胃ESD)	33
④ 早期食道癌粘膜下層剥離術(食道ESD)	12
⑤ 大腸腺腫及び早期大腸癌ESD	12

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

この数年の傾向である内科の医療機関の減少により当地域内の一次医療から担わざるを得なくなっている現状に大きな変化は見られない。それに伴い専門領域(消化器病、血液病、腫瘍内科)以外の患者さんの診療もカバーしてきており、これから内科専門医取得を希望する若手医師にとっては経験できる症例が多いのは魅力と思われる。事実当科から弘大内科(消化器内科)へ進み、そのまま内科専門医研修をつづける医師が毎年いることは喜ばしい限りである。また、看護部門においても毎年内視鏡技師を取得する看護師ができるようになり安定して人材養成を続けている。更に輸血認定看護師、リウマチ認定看護師の取得もすすめている。また、診療看護師(NP)の研修も受け入れており今後も多岐にわたる人材養成を継続していく。

(2) 今後の課題

令和4年度はCOVID-19対応と診療に忙殺されていた。そのため学会活動が停滞したことは事実である。やはり実働できる医師を増員していき診療と学会活動の両立をはかりたい。また、それらを通して当科で研修した研修医の中から消化器内科や血液内科を志す若手が出てくるような指導を継続していきたい。

3. 内分泌・代謝・神経内科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
109.1	10,919

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	2,931 人	外来(再来)患者延数	23,577 人
------------	---------	------------	----------

(3) 担当医師数

担当医師人数	平均	3 人/日
--------	----	-------

(4) 看護師数

看護師人数	5 人
-------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	2型糖尿病	6	パーキンソン病
2	本態性高血圧	7	甲状腺機能低下症
3	甲状腺機能亢進症	8	妊娠糖尿病
4	脂質異常症	9	脳梗塞
5	1型糖尿病	10	肺炎

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

内分泌外来	毎週月・水曜日:午後
禁煙外来(予約制)	毎週木曜日
神経内科外来(予約制)	毎週水・木曜日:午後
フットケア外来(予約制)	毎週火曜日

(2) 専門医の名称と人数

総合内科専門医	1 人
糖尿病専門医・研修指導医	1 人
感染症専門医・指導医	1 人
内分泌代謝・糖尿病内科領域暫定指導医	1 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
12.1	17.8	47,664

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

2型糖尿病	60	人
covid-19	50	人
誤嚥性肺炎	13	人
脱水症	11	人
肺炎	9	人
低ナトリウム血症	9	人
急性尿路感染症	7	人
脳梗塞	6	人
1型糖尿病	6	人
慢性腎不全	3	人
横紋筋融解症	3	人
膵内分泌障害	3	人
細菌性肺炎	3	人
急性腎不全	2	人
パーキンソン病	2	人
炎症性肝疾患	2	人
気管内異物	2	人
急性腎盂腎炎	2	人
その他の糖尿病	2	人
間質性肺疾患	2	人
総 数	221	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1) 検査例

項 目	例 数
① 甲状腺超音波	400

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

当科に糖尿病専門医・指導医1名が常勤している。県北地区の糖尿病診療の中核病院である。

入院糖尿病教室を午前、午後毎日開催している。日本糖尿病協会糖尿病療法指導士(CDE-J)あるいは秋田糖尿病療法指導士(CDE-A)の資格を取得している栄養士、薬剤師、看護師と医師が、糖尿病教育を実践している。

大館地区の糖尿病医療連携パス構築し、診療所と連携をとりながら、診療を行っている。平成26年2月から始めた連携パスは、令和2020年3月現在、累計約400名以上の糖尿病患者が連携パスを利用している。

糖尿病腎症からの人工透析を予防するため、チーム医療に取り組んでいる。院内ならび健診データから透析ハイリスク患者を抽出し、そこに行政とも連携をとりながら、チーム医療で総合的に介入して透析を予防していく事業を開始している。今後も、行政、保険者、診療所(医師会)とより連携をとりながら、地域ぐるみでの透析予防を展開していきたいと考えている。

また、糖尿病壊疽などの足病変予防にもチーム医療で取り組んでいる。

(2) 今後の課題

医療の進歩により糖尿病患者を含め寿命が延びているが、健康寿命を同時に延ばしていくことがより重要である。そのためには、糖尿病を含めた生活習慣病を改善していくことが重要であり、高齢化社会へ向けてのフレイル対策が重要である。現在、通院中患者のフレイル状況を調査し、その対策を検討中である。

高齢化社会、生活習慣の変化から、糖尿病患者は増加の一途をたどっている。糖尿病合併症は、失明に至る網膜症、透析に至る腎症、QOLを著しく低下させる神経症、心筋梗塞、脳梗塞、末梢動脈循環不全などをおこす動脈硬化疾患、易感染性による肺炎など多疾患にわたる。糖尿病患者はこれらの合併症を早期から予防する事が重要であり、今後当科の役割はますます重要になってくると思われる。

6. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内容
① 年月日	令和4年5月13日
② 学会名	第65回 日本糖尿病学会年次学術集会
③ 開催地	神戸国際会議場
④ 演題	地域連携システムを利用した糖尿病性腎症重症化予防への取り組み
⑤ 発表者	池島進 小野寺航 村林公哉 平井愛山 大門眞

項目	内容
① 年月日	令和4年5月13日
② 学会名	第65回 日本糖尿病学会年次学術集会
③ 開催地	神戸国際会議場
④ 演題	当院における週1回投与GLP-1受容体作動薬セマグルチド投与症例の検討
⑤ 発表者	阿部高大 池島進 松村功貴 村上洋 小野寺航 大門眞

(2) 講演・論文発表等

項 目	内 容
① 年月日	令和4年4月14日
② 講演会名 または掲載誌名	第28回足立区糖尿病研究会(Web研修)
③ 演 題	地域の総力戦 糖尿病重症化予防への取り組み～大館市の現状と課題～
④ 発表者	池島 進

項 目	内 容
① 年月日	令和4年5月24日
② 講演会名 または掲載誌名	秋田県糖尿病地域連携WEBセミナー
③ 演 題	地域の総力戦で取り組む糖尿病重症化予防～大館市のこれまでとこれから～
④ 発表者	池島 進

項 目	内 容
① 年月日	令和4年5月30日
② 講演会名 または掲載誌名	GLP-1WEB講演会
③ 演 題	GLP-1製剤の使い分け～経口製剤からWEEKLY注射製剤まで～
④ 発表者	池島 進

項 目	内 容
① 年月日	令和4年6月11日
② 講演会名 または掲載誌名	第1回KOMACHIセミナー
③ 演 題	当院の糖尿病患者における脂質管理状況～頸動脈エコーとの関連も踏まえて～
④ 発表者	池島 進

項 目	内 容
① 年月日	令和4年6月24日
② 講演会名 または掲載誌名	いわき糖尿病性腎症重症化予防学術講演会
③ 演 題	地域で取り組む糖尿病重症化予防～大館市の現状と課題～
④ 発表者	池島 進

項 目	内 容
① 年月日	令和4年10月22日、10月29日、11月26日
② 講演会名 または掲載誌名	糖尿病重症化予防かかりつけ医・産業医研修会 講演
③ 演 題	地域の総力戦で取り組む糖尿病重症化予防
④ 発表者	池島 進

項 目	内 容
① 年月日	令和4年10月29日
② 講演会名 または掲載誌名	ライオンズクラブ 講演会
③ 演 題	糖尿病とブルーライトについて
④ 発表者	池島 進

項 目	内 容
① 年月日	令和4年10月29日
② 講演会名 または掲載誌名	第178回北丹医師会学術集会
③ 演 題	地域の総力戦！糖尿病重症化予防～大館市の現状と課題～
④ 発表者	池島 進

項 目	内 容
① 年月日	令和4年11月17日
② 講演会名 または掲載誌名	GLP-1製剤WEB講演会
③ 演 題	糖尿病性腎症からみたGLP-1製剤の使い分け
④ 発表者	池島 進

項 目	内 容
① 年月日	令和4年11月22日
② 講演会名 または掲載 誌名	ピ！とかざして パッと計測！！ Freestyleリブレ講座
③ 演 題	良質な血糖コントロールを目指して～Freestyle リブレの活用法～
④ 発表者	池島 進

項 目	内 容
① 年月日	令和4年12月12日
② 講演会名 または掲載 誌名	GLP-1作動薬適正使用を考える会
③ 演 題	合併症を見据えた糖尿病治療～GLP-1製剤の使い分け～
④ 発表者	池島 進

項 目	内 容
① 年月日	令和4年12月19日
② 講演会名 または掲載 誌名	糖尿病重症化予防のためのWEBセミナー 糖尿病患者を専門医に繋ぐポイント
③ 演 題	糖尿病患者を専門医につなぐ
④ 発表者	池島 進

項 目	内 容
① 年月日	令和5年1月13日
② 講演会名 または掲載 誌名	2022年糖尿病重症化予防専門職スキルアップ研修会
③ 演 題	大館市の糖尿病重症化予防の取り組みについて
④ 発表者	池島 進

項 目	内 容
① 年月日	令和5年3月2日
② 講演会名 または掲載 誌名	Diabetes Relationship Seminar in 東北
③ 演 題	糖尿病治療薬の使い分けについて考える
④ 発表者	池島 進

7. その他

(社会的活動他)

項 目	内 容
① 年月日	令和4年12月16日
② 活動内容	令和4年度すこやか健康講座 講演 あなたは大丈夫？糖尿病-予防と治療の最新情報
③ 実施者	池島進

4. 外科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
58.0	21,949

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	2,208 人	外来(再来)患者延数	13,111 人
------------	---------	------------	----------

(3) 担当医師数

担当医師人数	平均	6.5 人/日
--------	----	---------

(4) 看護師数

看護師人数	7 人
-------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	胃癌	6	腸閉塞
2	大腸癌	7	ヘルニア
3	乳癌	8	虫垂炎、憩室炎などの炎症性腸疾患
4	肝胆膵悪性腫瘍	9	甲状腺疾患
5	胆石症、胆嚢炎	10	直腸肛門疾患

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

ストーマ外来 (予約制)	毎週水曜日
心臓血管外科 (予約制)	毎週火・金曜日:午後
乳腺エコー (予約制)	毎月第1・3水曜日:午後
緩和ケア外来	毎週月・水曜日

(2) 専門医の名称と人数

外科専門医	6 人
消化器外科専門医	5 人
消化器病専門医	1 人
消化器内視鏡専門医	1 人
がん治療認定医	3 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
26.1	13.3	60,992

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

乳癌	84	人
単径ヘルニア	78	人
腸閉塞	68	人
大腸癌	63	人
胃癌	56	人
転移性消化器腫瘍	47	人
直腸癌	46	人
胆石症	42	人
急性虫垂炎	39	人
大腸憩室疾患	14	人
膵癌	9	人
腹膜炎	8	人
大腸穿孔	8	人
COVID-19	7	人
脱水性	6	人
大腿ヘルニア	6	人
総 数	581	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1) 手術例(令和4年1月~12月)

項 目	例 数
① ヘルニア	63
② 結腸癌	58
③ 乳癌	45
④ 胆石症	37
⑤ 胃癌	32
⑥ 直腸癌	27
⑦ 甲状腺疾患	8
⑧ 肝癌(原発・転移)	5
⑨ 膵癌	3
⑩ 胆嚢癌・胆管癌	2
全身麻酔	311
局所麻酔	203
脊椎麻酔	44

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

コロナ禍で病棟閉鎖や手術室閉鎖が相次ぎ患者様へご迷惑をかける事がありました。良性疾患の手術は制限を余儀なくされました。日常の診療でも感染対策との両立に翻弄されました。

80代の超高齢者の手術症例が増えており他職種(リハビリ、栄養指導、薬剤管理指導など)との周術期の連携をさらに密に行っていきたいと思えます。乳腺疾患はこれまで通り市立秋田総合病院と弘前大学の専門医の協力の下標準治療を行うことを目標としておりますが、乳癌症例が増加しており検診から治療までを当院で完結できる様体制を維持していきたいと考えています。

(2) 今後の課題

コロナ禍で診療の制限がある中で患者様への影響を最小限にするよう努めて参ります。高齢者患者の増加とともに術後ADLの低下により退院が円滑に進まないケースが増えてきています。療養先の確保や在宅療養支援のための介護事業所や訪問看護ステーションとの更なる連携を構築していきたいと考えております。

5. 呼吸器外科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
15.4	52,600

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	235 人	外来(再来)患者延数	3,511 人
------------	-------	------------	---------

(3) 担当医師数

担当医師人数	平均	2 人/日
--------	----	-------

(4) 看護師数

看護師人数	7 人
-------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	肺癌	5	転移性肺腫瘍
2	胸部異常陰影	6	膿胸・胸膜炎
3	気胸	7	外傷性血気胸
4	縦隔腫瘍	8	肺膿瘍

2. 専門外来

(1) 専門医の名称と人数

外科専門医	2 人
呼吸器外科専門医	1 人
がん治療認定医	1 人
肺がんCT検診認定医	1 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
9.6	7.5	83,078

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

肺癌(診断や化学療法・放射線治療)	219	人
肺癌(緩和ケア)	51	人
肺癌(手術)	40	人
気胸	28	人
縦隔腫瘍・胸膜腫瘍	17	人
外傷性血気胸	11	人
転移性肺腫瘍	10	人
膿胸	10	人
肺腫瘍	4	人
肺炎など	17	人
総 数	407	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1) 検査例

項 目	例 数
① 気管支鏡検査	50

(2) 治療例

項 目	例 数
① 胸腔ドレナージ	60

(3) 手術例

項 目	例 数
① 肺癌	40
② 気胸	8
③ 転移性肺腫瘍	4
④ 縦隔腫瘍	4
⑤ 膿胸など	8

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

当科は肺癌を中心に縦隔腫瘍、転移性肺腫瘍、気胸、膿胸、さらに外傷性血気胸といった呼吸器疾患の治療を行っている。肺癌は、手術療法を中心に化学療法・放射線治療など集学的な治療を実践している。化学療法では分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害剤など新しい薬剤も積極的に取り入れ、遺伝子変異検索などを行い個別化治療を実践している。手術件数の半分は肺癌の根治手術であり、低侵襲な胸腔鏡手術を積極的に取り入れ、秋田大学胸部外科と連携し専門的医療を実践している。大館市を中心に北秋田地区や鹿角地区からも患者を受け入れている。

(2) 今後の課題

高齢化社会を反映し高齢で見つかる肺癌患者が増えており、心疾患や呼吸器疾患など併存疾患を持つ患者も多く、根治手術や化学放射線併用療法といった侵襲の高い治療だけではなく、負担が少ない治療も選択できるように取り組んでいく必要性を感じている。

肺癌は進行期で発見される患者が多く、最も重要な早期発見・早期治療を行えるように検診やドックの肺癌CT検診などの啓蒙活動も推進している。

6. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内容
① 年月日	令和4年5月20日
② 学会名	第39回日本呼吸器外科学会学術集会
③ 開催地	東京
④ 演題	異常血管切離のみ施行した左肺底区動脈大動脈起始症の一例
⑤ 発表者	渡邊伸之助

(2) 講演・論文発表等

項目	内容
① 年月日	令和4年8月30日
② 講演会名 または掲載誌名	日本呼吸器外科学会雑誌36巻7号
③ 演題	肋骨に発症したLangerhans細胞組織球症の1手術例
④ 発表者	岩井英頌

6. 整形外科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
109.1	7,594

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	1,033 人	外来(再来)患者延数	25,488 人
------------	---------	------------	----------

(3) 担当医師数

担当医師人数	平均	3.9 人/日
--------	----	---------

(4) 看護師数

看護師人数	6 人
-------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	頰椎症性脊髄症	6	変形性膝関節症
2	頰椎後縦靱帯骨化症	7	変形性股関節症
3	腰部脊柱管狭窄症	8	橈骨遠端骨折
4	腰椎椎間板ヘルニア	9	転移性骨腫瘍
5	骨粗鬆症	10	手根管症候群

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

スポーツ外来(予約制)	第1金曜日
手外科外来(予約制)	毎週金曜日
小児リハビリテーション専門外来	月1回火曜日

(2) 専門医の名称と人数

整形外科専門医	3 人
脊椎脊髄外科専門医	1 人
脊椎脊髄外科指導医	1 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
38.2	28.0	44,380

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

大腿骨骨折	85	人
腰椎および骨盤の骨折	60	人
下腿の骨折	44	人
肋骨, 胸骨及び胸椎骨折	23	人
肩及び上腕の骨折	22	人
脊椎障害	19	人
蜂巣炎	14	人
腰椎椎間板ヘルニア	13	人
前腕骨折	12	人
変形性股関節症	10	人
肩腱板損傷	9	人
下肢閉塞性動脈硬化症	8	人
炎症性脊椎障害	6	人
頸椎症性脊髄症	6	人
足の骨折	6	人
半月板損傷	5	人
骨壊死	4	人
化膿性関節炎	4	人
転移性骨腫瘍他	9	人
総 数	447	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1) 検査例

項 目	例 数
① 末梢神経伝導速度検査	64
② 腰椎神経根造影検査	37
③ 経皮的骨生検	5

(2)治療例

項 目	例 数
① 骨粗鬆症性椎体骨折の保存的治療	60
② 腰椎神経根ブロック	37
③ 硬膜外ブロック	9

(3)手術例

項 目	例 数
① 大腿骨骨折観血的手術	34
② 脊椎椎弓形成, 椎弓切除, 固定術	16
③ 股関節人工関節置換術, 人工骨頭挿入	14
④ 手根管開放手術	14
⑤ 下腿骨折観血的手術	12

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

大腿骨近位部骨折患者に対する二次骨折予防の取り組みとして、多種職メンバーから構成される骨折リエゾンサービス(FLS)チームを立ち上げ、令和4年10月20日に第1回のミーティングをおこない、令和5年1月からは電子カルテ上で情報共有するためにFLSシステムの試験運用を開始した。令和5年2月1日からは「二次性骨折予防継続管理料1」の算定を開始した。

脊椎の手術では術中モニタリングを併用し、より安全な手術をおこなえる環境で実施している。

人工膝関節全置換術ではナビゲーションシステムを使用し、正確なアライメントでの人工関節設置が可能となっている。

人工股関節全置換術では、より低侵襲で術後の歩行獲得が早い前方アプローチ法を積極的におこなっている。

高齢化でニーズが高い、骨粗鬆症性椎体骨折や骨盤骨折に対して、患者さんに応じた入院によるリハビリテーションや装具療法、薬物療法をおこない、その後の外来治療を継続している。

新型コロナウイルス感染症患者についても積極的に治療を担当している。

(2)今後の課題

外来の1日平均患者数が昨年度の120.2人から、本年度は109.1人と、11人減ったものの、依然として100人以上と多く、病棟業務や手術業務を圧迫する状態が継続している。病状の安定した外来患者さんの逆紹介と病診連携を今後も進めていく必要がある。

6. 学会発表等

(1) 学会発表

項 目	内 容
① 年月日	令和4年4月21-23日
② 学会名	第51回日本脊椎脊髄病学会
③ 開催地	横浜市
④ 演 題	Flexional distance index: K-line(+)-OPLLに対する頸椎椎弓形成術後4年の神経学的成績を予測できる新しいインデックス
⑤ 発表者	竹内和成, 横山徹, 井上亮, 中野高晃, 和田簡一郎, 熊谷玄太郎, 石橋恭之

項 目	内 容
① 年月日	令和4年4月21-23日
② 学会名	第51回日本脊椎脊髄病学会
③ 開催地	横浜市
④ 演 題	頸髄症患者の歩行不安定性を有意に検知できるperformance test
⑤ 発表者	中野高晃, 竹内和成, 井上亮, 和田簡一郎, 熊谷玄太郎, 横山徹, 石橋恭之

項 目	内 容
① 年月日	令和4年6月4日
② 学会名	第119回東北整形災害外科学会
③ 開催地	仙台市
④ 演 題	横突孔骨折により椎骨動脈損傷を生じて小脳梗塞を発症した1例
⑤ 発表者	横森薫, 鎌田陽光, 中野高晃, 井上亮, 竹内和成, 横山徹

項 目	内 容
① 年月日	令和4年9月17日
② 学会名	第71回東日本整形災害外科学会
③ 開催地	東京都
④ 演 題	C2 pedicle screw を使用した頸椎多椎間後方除圧固定術後に生じる C2/3 偽関節の要因とその影響: 術後 5 年中期成績の後ろ向き研究
⑤ 発表者	鎌田陽光, 横山徹, 竹内和成, 井上亮, 和田簡一郎, 熊谷玄太郎, 石橋恭之

(2) 講演・論文発表等

項 目	内 容
① 年月日	令和4年4月
② 掲載誌名	Acta Orthopaedica et Traumatologica Turcica
③ 演 題	The effect of disruption of the repaired nuchal ligament on clinical outcomes after posterior cervical spine surgery: A retrospective comparative study
④ 発表者	Fujita T, Takeuchi K, Yokoyama T, Wada K, Kumagai G, Ishibashi Y

項 目	内 容
① 年月日	令和4年6月13日
② 掲載誌名	Spine Surgery and Related Reseach
③ 演 題	Prevalence of Cervical Canal Stenosis in Patients with Femoral Fracture: A Retrospective Single-Center Study
④ 発表者	Omi H, Yokoyama T, Naraoka T, Omi S, Takeuchi K

7. 脳神経外科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
25.8	8,972

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	535 人	外来(再来)患者延数	5,733 人
------------	-------	------------	---------

(3) 担当医師数

担当医師人数	平均	3 人/日
--------	----	-------

(4) 看護師数

看護師人数	2 人
-------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	脳梗塞
2	脳出血
3	くも膜下出血
4	脳腫瘍
5	症候性てんかん
6	頭部外傷

2. 専門医の名称と人数

(1) 専門医の名称と人数

脳神経外科専門医	2 人
----------	-----

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
25.5	17.5	46,198

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

脳梗塞	182 人
脳出血	81 人
慢性硬膜下血腫	43 人
頭部外傷	41 人
くも膜下出血	23 人
症候性てんかん	13 人
脳腫瘍	7 人
総 数	390 人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1) 検査例

項 目	例 数
① 脳血管撮影	7

(2) 手術例

項 目	例 数
① 穿頭血腫除去術	41
② 脳動脈瘤クリッピング術	2
③ 水頭症手術(シャント術)	2
④ 開頭血腫除去術	2
⑤ その他	13

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

脳外科医は3人体制で維持している。ただ、入院数は、増加傾向で、日々の診療に追われている。
回復期リハビリテーションの病院、扇田病院、記念病院など近隣の病院との連携をさらに深めていく必要があると考える。
また、研修医や医学生への指導も引き続き行っていく。

(2) 今後の課題

脳卒中の一次予防

8. 小児科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
52.7	15,821

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	2,299 人	外来(再来)患者延数	10,510 人
------------	---------	------------	----------

(3) 担当医師数

担当医師人数	平均 4.9 人/日
--------	------------

(4) 看護師数

看護師人数	5 人
-------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	注意欠陥多動性障害	6	ネフローゼ症候群
2	自閉症スペクトラム障害	7	神経性やせ症
3	先天性心疾患	8	フェニルアラニン代謝異常症
4	難治性てんかん	9	周期性失調症
5	糖尿病	10	学校適応障害

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

小児心臓外来 (予約制)	月1回月曜日:午後 第1,3金曜日:午前
小児神経外来	毎週水曜日:午前
慢性疾患・発達外来	毎週水曜日:午後
小児腎臓外来	毎週月曜日:午後

(2) 専門医の名称と人数

小児科専門医	3 人
日本プライマリケア学会認定特任指導医	1 人
こどものこころ相談医	1 人
健康スポーツ医	1 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
4.9	5.0	51,817

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

新生児疾患	122	人
気管支肺炎(RS、マイコプラズマ、喘息含む)	46	人
アレルギー(食物負荷試験含む)	29	人
急性胃腸炎(ロタウイルス感染、食中毒など)	21	人
急性咽頭炎(アデノ、伝染性単核球症含む)	19	人
レスパイト	9	人
てんかん	7	人
熱性けいれん	5	人
川崎病	5	人
尿路感染症	4	人
成長ホルモン分泌負荷試験	4	人
家族性地中海熱	3	人
精神疾患	3	人
腸重積	2	人
骨形成不全症	2	人
発作性上室頻拍	1	人
思春期早発症ホルモン負荷試験	1	人
免疫性血小板減少症	1	人
その他	19	人
総 数	303	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1) 検査例

項 目	例 数
① 心臓超音波検査	約100
② 腎臓超音波検査	約100
③ 膀胱造影検査	約20
④ 股関節超音波検査	約300

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

- ・外来トリアージシステムを導入し、緊急度順の診察を実施。
- ・ホームページから24時間ワクチン予約可能。
- ・4ヶ月健診で股関節超音波検査を施行し、股関節脱臼の見逃しがないようダブルチェックの実施。
- ・地域周産期センター認定。
- ・こどものこころ相談医1名。
- ・小児の言語リハビリが可能。
- ・先天性甲状腺機能低下症(クレチン症)の病型診断が可能。
- ・骨形成不全症の骨折予防治療が可能。
- ・桂城小学校、成章小学校、第一中学校、成章中学校、比内中学校の学校医(うち学校医1名は健康スポーツ医)
- ・田代保育園、扇田保育園、十二所保育園などの園医。
- ・ひまわり園の健診を通じた連携強化。
- ・死因究明および今後の医療貢献のため、小児の死後画像検査(オートプシーイメージング)を行っている(研修終了医1名)。
- ・看護福祉大学での小児科講義の実施。
- ・満5歳すてっぷ相談への協力。

(2) 今後の課題

- ・救急医療体制の改善。
- ・幼稚園等への出向き講座の推進。
- ・病棟保育士の設置。
- ・コロナウイルス感染症対策。

6. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内容
① 年月日	令和4年7月30日
② 学会名	第120回日本小児科学会秋田地方会
③ 開催地	秋田県総合保健センター 大会議室
④ 演題	全エクソーム解析によって確定診断がついた17p13.3微細欠失症候群の1例
⑤ 発表者	柳沼ひなの

(2) 講演・論文発表等

項目	内容
① 年月日	令和4年7月5日
② 講演会名 または掲載誌名	下川沿中学校保健委員会主催
③ 演題	子どもの電子メディア依存～心と体に及ぼす影響～
④ 発表者	丹代 諭

項 目	内 容
① 年月日	令和4年7月8日
② 講演会名 または掲 載誌名	尾去沢小学校保健委員会主催
③ 演 題	心と体と眠りについて
④ 発表者	丹代 諭

項 目	内 容
① 年月日	令和4年7月8日
② 講演会名 または掲 載誌名	成章小学校保健委員会開催
③ 演 題	望ましい生活習慣とメディアについて
④ 発表者	細田龍生

項 目	内 容
① 年月日	令和4年9月30日
② 講演会名 または掲 載誌名	子育てサポーター新規養成講習会
③ 演 題	小児の成長発達
④ 発表者	細田龍生

7. その他

(社会的活動他)

項 目	内 容
① 年月日	令和4年9月22日
② 活動内容	秋田県救急隊員セミナー
③ 実施者	丹代 諭

9. 産婦人科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
76.4	8,072

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	2,208 人	外来(再来)患者延数	16,362 人
------------	---------	------------	----------

(3) 担当医師数

担当医師人数	平均 5.5 人/日
--------	------------

(4) 看護師数

看護師人数	8 人
-------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	子宮体癌	6	卵巣腫瘍
2	子宮頸癌	7	子宮脱
3	卵巣癌・腹膜癌・膣外陰癌	8	月経困難症・月経不順
4	子宮筋腫	9	妊娠・分娩・産褥およびその異常
5	子宮内膜症・子宮腺筋症	10	不妊症

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

助産師外来 (予約制)	毎週月～水曜日:午後
母乳外来 (予約制)	

(2) 専門医の名称と人数

産婦人科専門医	3 人
母体保護法指定医	2 人
日本がん治療認定医機構 認定医	2 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
20.5	6.0	53,008

(2)入院疾患名(重要な疾患名を記載)

経膈分娩	368	人
妊娠糖尿病	71	人
帝王切開分娩	67	人
卵巣癌・腹膜癌	49	人 延べ
切迫早産	39	人
子宮体癌	36	人 延べ
子宮筋腫	25	人
子宮頸部異形成	20	人
稽留流産	18	人
卵巣嚢腫	17	人
子宮頸癌	15	人
性器脱	13	人
妊娠高血圧症候群	10	人
総 数	748	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1)検査例

項 目	例 数
① コルポスコープ	101
② 子宮卵管造影	22

(2)治療例

項 目	例 数
① 化学療法(症例数)	40
② 中心静脈ポート挿入術	3

(3)手術例

項 目	例 数
① 帝王切開術	67
② 婦人科悪性腫瘍手術	27
③ 腹腔鏡下附属器手術	21
④ 円錐切除術	20
⑤ 腹式子宮全摘術	13
⑥ 子宮脱手術	13
⑦ 子宮筋腫核出術(開腹・子宮鏡)	4
⑧ 腹式附属器手術	3
⑨ バルトリン腺開窓術	2

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

日常的な婦人科疾患や検診事業から、婦人科悪性疾患まで幅広く診療を行っている。産科は合併症を有する症例(COVID-19感染例含む)にも対応し、妊娠・分娩管理を行っている。不妊症は人工授精までの治療に対応している。

(2) 今後の課題

隣接する医療圏での分娩取り扱い施設の減少に伴う、医療資源の枯渇により、緊急時などの対応が増加傾向となってきた。また、産科業務の統廃合が今後も続くと考えられ、その中での中核病院としての役割が重要となると考えられる。また、高齢化に伴う疾患構造の変化にも対応を続けていく必要がある。

6. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内容
① 年月日	令和4年5月14日～15日
② 学会名	第151回 東北連合産科婦人科学会
③ 開催地	仙台市
④ 演題	当院で経験した子宮への節外浸潤を伴う血液疾患2例の検討
⑤ 発表者	竹ノ子健一

項目	内容
① 年月日	令和4年7月14日～16日
② 学会名	第64回 日本婦人科腫瘍学会
③ 開催地	福岡県久留米市
④ 演題	当科におけるロボット支援下子宮体癌手術の臨床学的検討
⑤ 発表者	大澤有姫

項目	内容
① 年月日	令和4年8月5日～7日
② 学会名	第74回 日本産科婦人科学会
③ 開催地	福岡市
④ 演題	周産期におけるストレス関連症状および産褥期精神障害と自律神経活動の客観的評価との関連
⑤ 発表者	大澤有姫

項 目	内 容
① 年月日	令和4年10月8日
② 学会名	第15回 日本早産学会
③ 開催地	青森市
④ 演 題	切迫早産に対しニフェジピンを用いて加療した3症例
⑤ 発表者	竹ノ子健一

項 目	内 容
① 年月日	令和5年1月14日
② 学会名	第333回 青森県臨床産婦人科医会
③ 開催地	青森市
④ 演 題	当院で子宮動脈塞栓術を必要としたRPOC3例の検討
⑤ 発表者	前田寿里亜

項 目	内 容
① 年月日	令和5年1月25日
② 学会名	北鹿産婦人科医会
③ 開催地	大館市
④ 演 題	当院で子宮動脈塞栓術を必要としたRPOC3例の検討
⑤ 発表者	前田寿里亜

項 目	内 容
① 年月日	令和5年1月25日
② 学会名	北鹿産婦人科医会
③ 開催地	大館市
④ 演 題	切迫早産に対しニフェジピンを用いて加療した3症例
⑤ 発表者	竹ノ子健一

項 目	内 容
① 年月日	令和5年1月25日
② 学会名	北鹿産婦人科医会
③ 開催地	大館市
④ 演 題	当院におけるCOVID-19妊婦の分娩について
⑤ 発表者	大澤有姫

(2)講演・論文発表等

項 目	内 容
① 年月日	令和5年3月
② 掲載誌	青森県臨床産婦人科医会誌
③ 演 題	当院で子宮動脈塞栓術を必要としたRetaind products of conception(RPOC)3例
④ 発表者	前田寿里亜

10. 泌尿器科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
120.3	24,872

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	728 人	外来(再来)患者延数	28,498 人
------------	-------	------------	----------

(3) 担当医師数

担当医師人数	平均	3 人/日
--------	----	-------

(4) 看護師数

看護師人数	4 人
-------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	前立腺肥大症	6	前立腺癌
2	過活動膀胱	7	膀胱癌
3	神経因性膀胱	8	腎細胞癌
4	慢性腎不全	9	精巣腫瘍
5	腎・尿管・膀胱結石	10	尿路感染症

2. 専門外来

(1) 専門医の名称と人数

泌尿器科専門医	2 人
---------	-----

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
20.8	10.5	53,924

(2)入院疾患名(重要な疾患名を記載)

尿路感染症	118	人
前立腺癌疑い	110	人
膀胱癌	81	人
慢性腎不全	74	人
前立腺癌	38	人
腎盂尿管癌	29	人
腎細胞癌	14	人
肺炎	9	人
膀胱結石	7	人
前立腺肥大症	5	人
停留精巣	5	人
急性腎不全	4	人
尿管結石	4	人
総 数	498	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1)検査例

項 目	例 数
① 前立腺針生検	110

(2)治療例

項 目	例 数
① スペーサー・金マーカー留置	13
② 中心静脈ポート	17

(3)手術例

項 目	例 数
① 経尿道的膀胱腫瘍切除術	59
② ブラッドアクセス増設術	53
③ 経尿道的前立腺切除術	5
④ 腹腔鏡下腎摘除術	5

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

秋田県北地域の中核病院として、一般泌尿器科疾患及び血液浄化療法に関しては、ほとんどの患者さんに対応できる体制であるが、より高度な医療を希望される方には、弘前大学や秋田大学などに紹介している。

また、弘前大学及び秋田大学の泌尿器科専門研修プログラムに参加しており、泌尿器科専門医を目指す研修医も勤務できる体制を整えている。

(2) 今後の課題

当院での体腔鏡下手術は、弘前大学から派遣された認定医師が行っているが、早期に認定医師の常勤化を目指したい。また、前立腺癌に対するロボット支援手術は、弘前大学に手術を依頼しているが、当院でも導入を検討している。

6. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内容
① 年月日	令和4年10月20日
② 学会名	日本癌治療学会学術集会
③ 開催地	神戸市
④ 演題	転移性腎細胞癌に対する1次治療選択と腫瘍別アウトカムの検討
⑤ 発表者	得居範子他

項目	内容
① 年月日	令和4年10月20日
② 学会名	日本癌治療学会学術集会
③ 開催地	神戸市
④ 演題	転移性去勢感受性前立腺癌の全生存期間に対するUpfront治療の検討
⑤ 発表者	田中壽和、得居範子他

項目	内容
① 年月日	令和4年10月20日
② 学会名	日本癌治療学会学術集会
③ 開催地	神戸市
④ 演題	限局性進行尿路上皮癌の術後免疫補助化学療法の適格性と予後への影響
⑤ 発表者	三浦佑規、得居範子他

11. 耳鼻咽喉科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
29.2	10,276

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	672 人	外来(再来)患者延数	6,423 人
------------	-------	------------	---------

(3) 担当医師数

担当医師人数	平均 1.8 人/日
--------	------------

(4) 看護師数

看護師人数	3 人
-------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	めまい	6	鼻炎
2	難聴	7	咽頭喉頭炎
3	咽喉頭異常感症	8	耳垢栓塞
4	副鼻腔炎	9	鼻出血症
5	中耳炎	10	神経障害

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

補聴器外来 (予約制)	月・木曜日(指定日あり):午後
睡眠時無呼吸外来 (予約制)	月曜日:午後

(2) 専門医の名称と人数

耳鼻咽喉科専門医	1 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
4.2	6.7	59,906

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

前庭機能障害	28	人
睡眠時無呼吸症候群	21	人
喉頭癌	20	人
慢性副鼻腔炎	16	人
鼻出血	10	人
顔面神経障害	7	人
梨状陥凹癌	6	人
声帯ポリープ	6	人
扁桃周囲膿瘍	5	人
耳下腺良性腫瘍	5	人
喉頭良性腫瘍	5	人
中咽頭良性腫瘍	5	人
急性扁桃炎	3	人
慢性扁桃炎	3	人
術後性上顎のう胞	3	人
舌癌	3	人
先天性耳瘻孔	3	人
頸部リンパ節転移	3	人
甲状腺癌	3	人
慢性鼻炎	2	人
総 数	157	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1) 検査例

項 目	例 数
① 喉頭ファイバースコープ	1,081
② 標準純音聴力検査	635
③ 嗅裂・鼻咽腔・副鼻腔ファイバースコープ	560
④ 中耳ファイバースコープ	22
⑤ 脳幹反応聴力検査(ABR)	8

(2) 治療例

項 目	例 数
① CPAP治療	403
② 外来化学療法	68

(3) 手術例

項 目	例 数
① 内視鏡下鼻・副鼻腔手術4型(汎副)	8
② 鼻中隔矯正術	7
③ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型(選択)	7
④ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術2型(副鼻)	1

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

当院は、秋田県北部では数少ない耳鼻咽喉科を専門とする医師が常勤する医療機関として、耳鼻咽喉科領域の炎症性疾患、先天性疾患、良性疾患、悪性疾患など幅広く行なっている。一般外来診療のみならず、手術治療や悪性腫瘍に対する放射線療法や化学療法なども積極的に行なっており、近隣病院や大学病院とも連携をとりながら、安全かつ最新の医療を提供できるように努力している。

(2) 今後の課題

甲状腺疾患について、内分泌代謝神経内科や外科に診察をお願いすることが増えている。

12. 神経精神科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
51.9	6,810

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	249 人	外来(再来)患者延数	12,361 人
------------	-------	------------	----------

(3) 担当医師数

担当医師人数	平均	3 人/日
--------	----	-------

(4) 看護師数

看護師人数	3 人
-------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	統合失調症
2	認知症
3	うつ病
4	躁うつ病
5	てんかん

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

認知症疾患医療センター新患	毎週水曜

(2) 専門医の名称と人数

精神科専門医	1 人
精神保健指定医	2 人
臨床神経精神薬理学専門医	1 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
24.2	49.9	20,433

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

統合失調症	47	人
アルツハイマー病	32	人
適応障害	19	人
うつ病エピソード	11	人
アルコール性障害	10	人
持続性妄想性障害	10	人
双極性感情障害	7	人
せん妄	6	人
てんかん	5	人
器質性精神障害	5	人
持続性感情障害	5	人
軽度知的障害	3	人
血管性認知症	3	人
認知症	2	人
摂食障害	2	人
身体表現性障害	2	人
クロイツフェルト・ヤコブ病	2	人
レビー小体型認知症	1	人
睡眠障害	1	人
急性一過性精神病性障害	1	人
総 数	174	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1) 検査例

項 目	例 数
① 心理検査	388
② 発達及び知能検査	37

(2) 治療例

項 目	例 数
① 通院精神療法	10,075
② カウンセリング	77

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

当科は、県北地区で2つしかない精神科入院病床を要する総合病院精神科(他に能代厚生医療センター精神科のみ)であり、また、大館・鹿角精神科救急医療圏で精神科救急対応を行っている唯一の精神科でもある。入院病床を持たない市内精神科クリニックや他院精神科と連帯の上、転院・入院など紹介、逆紹介など病診連携・病病連携を行っている。令和4年度は、3名の精神科医および応援医師で、急性期から慢性期の様々な精神疾患を持つ方々の診療に当たった。地域の精神科救急拠点および総合病院精神科としてのリエゾン・コンサルテーション拠点として機能しつつ、精神科訪問看護など精神科リハビリ部門などの充実を図り、地域密着型の精神科医療を目指している。60床の閉鎖病棟を有して、統合失調症、気分障害、依存症、認知症の周辺症状などの急性期治療を行い、入院中は、作業療法士による作業療法や、PSWによる精神保健福祉に関する相談も行っている。院内内科各科のご協力の元、難治性統合失調症治療に対するクロザリル治療も施行している。認知症サポートチームや緩和ケアチームでの精神科医としての関わりを期待されているが、人員などの都合で、+数年来継続した院内デイケアをR3年度より中止している。

(2) 今後の課題

当院は在院日数や再入院などの診療報酬上の制限を持つ急性期病棟で運営されているが、本来急性期病棟が対象とした統合失調症や気分障害の入院割合が減り、地域の高齢化を背景としたBPSDや生活破綻を呈した認知症、依存症、改善しきれず慢性化する身体合併症を伴う精神疾患など入院長期化の可能性が高い患者層の入院割合が日々増加している。従来薬物治療中心の急性期治療モデルは、これらの認知症や依存症に当てはめるのは難しく、精神科医及びPSWなどスタッフの多職種連帯の上、医学-心理-社会モデルによるケースフォーミュレーションや動機づけ面接など効率的な見立て・治療の上、PSWや他施設などと連帯しなければ、在院日数増加、診療報酬算定基準超過を生じて、現在の保険診療体制維持が困難なと思われる。現在、転院などで市内の今井病院、東台病院、北秋田市の鷹巣病院、弘前愛成会病院や弘前大学医学部附属病院神経精神科などの関係各所の助力を得ているが、当科として各病院に対してできることを模索していき、今後、相互協力関係を推進していく必要があると思われる。当科は秋田大学及び弘前大学の専門医プログラム双方に所属して、関連書籍や症例の蓄積など若手医師の研鑽を効率的に行える体制を整え、魅力的な精神科初期研修病院を目指している。今回、秋田大学より最初の1人の若手医師を受け入れた経験を今後に生かして、充実した研修を行っていきたい。

13. 麻酔科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均手術件数 (件/日)	診療単価 (円)
0.4	7.1	

※患者数は麻酔科のみ、平均手術件数は麻酔科担当の件数による

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	4 人	外来(再来)患者延数	19 人
------------	-----	------------	------

(3) 担当医師数

担当医師人数	平均	2 人/日
--------	----	-------

(4) 看護師数

看護師人数	17 人
-------	------

2. 専門外来

(1) 専門医の名称と人数

日本麻酔科学会認定麻酔科専門医	2 人
日本集中治療医学会専門医	1 人

3. 入院

(麻酔科単科としての入院診療統計はなし)

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1) 手術例

項目	例数
① 全身麻酔症例	672

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

秋田県北地域においては、麻酔科医が常勤で勤務しているのは当院のみである(弘前大学から派遣)。常勤麻酔科医は現在2人のみであり、定年後の非常勤医師1人(月から木)と弘前大学の非常勤医師1人(月から金)の計4人体制で何とか日々の業務をこなしている。現実的には4人の常勤医が望ましい。

高齢化社会の進行に伴い、ますます高齢者の全身麻酔症例が増加しており、90歳以上もまれではなくなった。高齢者は、種々の合併症があり、麻酔管理も難しい。合併症がある患者は、適切な術前評価を行い、より安全な麻酔管理ができるように努めている。必要時は、適宜、高次医療機関に紹介している。

平成26年11月から電子カルテシステムが導入されて、令和3年11月に更新された。手術室もIT化デジタル化が進んでいるが、経済的負担があまりにも大きいので、麻酔記録の自動化は断念して、従来の紙の記録をスキャンして対応している。自動記録の導入・維持費用を考慮したとき、もっとほかの医療機器や設備に投資すべきと考えたからである。平成27年4月から、呼吸器外科の手術が始まり、週1例から3例のペースで徐々に症例を増やしてきている。呼吸器外科の管理には、分離肺換気や硬膜外鎮痛法および持続静注鎮痛法などを行って、より高度な麻酔管理に取り組んでいる。腹腔鏡下の手術も増えてきたので、胸腔鏡下と腹腔鏡下を合わせて3列同時の手術が行えるよう整備した。また、平成31年1月から、歯科口腔外科の手術が増えており、気道に関与する手術なので、慎重に全身管理を行っている。ただ、気管切開が必要になるような症例は、秋田大学にお願いしている。令和4年度は、令和3年度に引き続きコロナの影響で、全体の手術件数は減少した。手術室の防犯カメラシステムが故障したので、設備として更新をお願いしている。術野を照らす无影灯および術野カメラシステムも老朽化が進み、早急な更新が必要である。

(2) 今後の課題

秋田県北地域では、常勤麻酔科医がいるのは当院だけである。当院の規模からみれば、常勤麻酔科医は4人が望ましい。現在、常勤医2人と、定年後の非常勤医師1人(月～木、午後勤務)、弘前大学からの非常勤医師1人(月～金、午後勤務)の計4人体制ではあるが、現実問題として、定年後の非常勤医師にいつまでも頼るわけにはいかないだろう。また、将来的には、麻酔科医として緩和医療やペインクリニックへも関わっていかねばならないだろう。

平成19年に病院が増改築されて以来、麻酔器や患者監視装置、手術台の老朽化が進んでいる。安全な患者管理のために、機器の更新が急務となっている。使用開始から15年以上20年未満を目処に更新したいと考えている。令和3年度は、呼吸器外科の気道管理に使用する内視鏡システムが更新され、日本麻酔科学会で義務化された筋弛緩モニターの新規購入も実現したが、更新が必要な機器は後を絶たないのが現状である。

6. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内容
① 年月日	令和4年 7月2日
② 学会名	日本集中治療医学会第6回東北支部学術集会
③ 開催地	仙台市(Web開催)
④ 演題	中枢性尿崩症治療中の重症膵炎患者の水分出納管理
⑤ 発表者	西谷典子、野口智子、工藤倫之、橋場英二、廣田和美

項目	内容
① 年月日	令和4年 9月17日～18日
② 学会名	日本心臓血管麻酔学会第27回学術大会
③ 開催地	京都市
④ 演題	MICS AVR術後に胸郭出口症候群による腕神経麻痺と診断された一例
⑤ 発表者	西谷典子、野口智子、木下裕貴、大山翼、橋場英二、廣田和美

項目	内容
① 年月日	令和5年 3月2日～4日
② 学会名	第50回日本集中治療医学会学術集会
③ 開催地	京都市
④ 演題	大動脈弁置換術後集中治療管理中に右心不全が進行し、右冠動脈閉塞・解離を認めた一症例
⑤ 発表者	西谷典子、野口智子、市川詩乃、大山翼、橋場英二、櫛方哲也、廣田和美

(2) 講演・論文発表等

項目	内容
① 年月日	令和4年 6月14日、7月4日、5日、11日
② 講演会名 または掲載誌名	看護部挿管介助研修
③ 演題	挿管介助実技指導
④ 発表者	橋本浩、西谷典子、村川徳昭、手術室看護師

項目	内容
① 年月日	令和4年 10月13日
② 講演会名 または掲載誌名	ivナース研修会(e-ラーニング)
③ 演題	基礎IV(静脈注射と体液管理)
④ 発表者	橋本浩

7. その他

(社会的活動他)

項目	内容
① 年月日	令和4年4月～令和5年3月
② 活動内容	救急救命士気管挿管実習(大館、北秋田、鹿角消防署、計13人、延べ128症例)
③ 実施者	橋本浩、西谷典子

14. 放射線科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
15.0	12,071

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	111 人	外来(再来)患者延数	3,528 人
------------	-------	------------	---------

(3) 担当医師数

担当医師人数	平均	1 人/日
--------	----	-------

(4) 看護師数

看護師人数	8 人
-------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	乳癌	4	肺癌
2	前立腺癌	5	転移性骨腫瘍
3	食道癌	6	肝細胞癌

2. 専門医の名称と人数

日本医学放射線学会 放射線診断専門医	1 人
日本IVR学会専門医	1 人

3. 入院

(放射線科単科としての入院診療統計はなし)

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1)検査例

項 目	例 数
① CT検査	14,511
② MRI検査	4,967
③ RI検査	651
④ CTガイド下生検	1

(2)治療例

項 目	例 数
① 乳癌	32
② 前立腺癌	17
③ 肺・気管・縦隔	14
④ 頭頸部癌	14

(3)手術例

項 目	例 数
① 腹部・骨盤部動脈塞栓術	16

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

2022年6月に稼働した256列CT 導入で、より効率的にCT検査を進めることが出来るようになり、CT 予約枠を1時間4枠から6枠に増やし、CT撮像予約の待ち時間を低減させるなど、診療科からのリクエストになるべく応えてきた。

(2)今後の課題

診療科の要望に応えられる画像の撮像、提供をより利便性の高いものとしたい。とりわけ救急症例の迅速な撮影とサーバーへの迅速な書き込みを徹底し、臨床医が閲覧可能になるまでの時間をなるべく短くするようにしたい。

15. 歯科口腔外科・矯正歯科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
28.2	6,769

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	1,064 人	外来(再来)患者延数	5,780 人
------------	---------	------------	---------

(3) 担当医師数

担当医師人数	平均	0.1 人/日
--------	----	---------

(4) 看護師数

看護師人数	2 人	歯科衛生士人数	3 人
歯科技工士人数	0 人		

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	埋伏智歯	6	口腔癌
2	顎骨嚢胞	7	口腔感染症
3	周術期口腔機能管理	8	口腔粘膜疾患
4	薬剤関連顎骨壊死	9	顔面外傷
5	顎関節症	10	唇顎口蓋裂

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

矯正歯科外来	火曜日
--------	-----

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
0.3	3.1	68,948

(2)入院疾患名(重要な疾患名を記載)

埋伏歯	8 人
下顎水平埋伏智歯	8 人
骨吸収抑制薬関連顎骨壊死	2 人
下顎骨良性腫瘍	2 人
口腔良性腫瘍	2 人
顎骨嚢胞	2 人
下顎骨骨折	1 人
唇顎口蓋裂	1 人
う蝕	1 人
顎下部膿瘍	1 人
総 数	28 人

4. 検査例、治療例、手術例(主なもの)

(1)治療例

項 目	例 数
① 歯の欠損におけるインプラント治療・手術	3

(2)手術例

項 目	例 数
① 埋伏歯抜歯術	16
② 顎骨嚢胞摘出術	4
③ 顎骨観血的整復固定術	1
④ 下顎骨再建術	1

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

R4年度から常勤歯科医師数が1名と減少したことにより、外来患者数・入院患者数の減少へつながった。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で手術件数が減少した。そのため、特に口腔外科領域で扱う疾患の中で、重症度が高い疾患や、緊急性が高い疾患については、当院で加療することができず、他院や他科を紹介する流れとなっていた。

(2)今後の課題

R5年度から再び常勤歯科医師数が2名となるため、R4年度には対応できなかった重症な疾患においても対応していく予定である。また、緊急度が高い口腔外科疾患についても、当院で加療可能なものは対応する様に体制を整える予定である。周術期口腔機能管理は、引き続き地域歯科医師会との協力を行い、今後も連携を強化していく必要がある。

6. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内容
① 年月日	令和4年4月
② 学会名	第76回 日本口腔科学会学術集会
③ 開催地	福岡
④ 演題	当科における舌癌N0症例の後発頸部リンパ節転移のリスク因子に関する臨床病理学的検討
⑤ 発表者	五十嵐 秀光, 高野 裕史, 鈴木 昇建, 福田 雅幸, 他

項目	内容
① 年月日	令和4年4月
② 学会名	第76回 日本口腔科学会学術集会
③ 開催地	福岡
④ 演題	当科における薬剤関連顎骨壊死に対する外科療法の臨床的検討
⑤ 発表者	今野泰典, 鈴木 昇建, 有馬 実咲, 福田 雅幸, 他

項目	内容
① 年月日	令和4年4月
② 学会名	第31回 日本有病者歯科医療学会総会・学術集会
③ 開催地	東京
④ 演題	当科における周術期口腔機能管理の臨床的検討
⑤ 発表者	鈴木 昇建, 有馬 実咲, 高野 裕史, 福田 雅幸, 他

項目	内容
① 年月日	令和4年6月
② 学会名	第106次 日本法医学会学術全国集会
③ 開催地	愛知
④ 演題	エチルアルコールが検出された法医解剖症例における死後CT値の検討
⑤ 発表者	鈴木 昇建, 大谷 真紀, 松尾 悠平, 福田 雅幸, 美作 宗太郎

項目	内容
① 年月日	令和4年9月
② 学会名	第52回 日本口腔インプラント学会総会・学術集会
③ 開催地	名古屋
④ 演題	インプラント義歯にて機能回復を行った口腔癌切除後症例の臨床的検討
⑤ 発表者	高野 裕史, 鈴木 昇建, 伊東 慶介, 福田 雅幸, 他

項 目	内 容
① 年月日	令和4年11月
② 学会名	第26回 日本顎顔面インプラント学会学術大会
③ 開催地	東京
④ 演 題	下顎半側切除後に顎骨再建を行い広範囲顎骨支持型装置と補綴にて咬合再建を行った2例
⑤ 発表者	伊東 慶介, 高野 裕史, 鈴木 昇建, 福田 雅幸, 他

項 目	内 容
① 年月日	令和4年11月
② 学会名	第67回 日本口腔外科学会総会・学術集会
③ 開催地	幕張
④ 演 題	口腔内病変を契機とし診断に至ったEldheim-Chester Diseaseの1例
⑤ 発表者	有馬 実咲, 鈴木 昇建, 鈴木 兼一郎, 福田 雅幸, 他

項 目	内 容
① 年月日	令和4年11月
② 学会名	第67回 日本口腔外科学会総会・学術集会
③ 開催地	幕張
④ 演 題	下顎骨半側切除後の下顎骨再建に対し骨頭付き再建用チタンプレートを用いた症例の臨床的検討
⑤ 発表者	伊東 慶介, 高野 裕史, 鈴木 昇建, 福田 雅幸, 他

項 目	内 容
① 年月日	令和4年11月
② 学会名	第67回 日本口腔外科学会総会・学術集会
③ 開催地	幕張
④ 演 題	当科における唾液腺癌の臨床的検討
⑤ 発表者	福地 峰世, 有馬 実咲, 鈴木 昇建, 福田 雅幸, 他

項 目	内 容
① 年月日	令和4年11月
② 学会名	第67回 日本口腔外科学会総会・学術集会
③ 開催地	幕張
④ 演 題	下顎第三大臼歯と過剰歯の癒合を認めた1例
⑤ 発表者	藤井 健吾, 鈴木 昇建, 高野 裕史, 福田 雅幸, 他

項 目	内 容
① 年月日	令和4年7月
② 学会名	第48回 日本口腔外科学会北日本支部学術集会
③ 開催地	札幌
④ 演 題	顎下腺に高度の脂肪変性を認めた唾石症の1例
⑤ 発表者	石田 昂, 高野 裕史, 有馬 実咲, 福田 雅幸, 他

(2) 講演・論文発表等

項 目	内 容
① 年月日	令和4年
② 講演会名 または掲載誌名	法医学の実際と研究 2022年 65巻
③ 演 題	低所からの飛び降りにより頭頸部外傷で死亡した1剖検例
④ 発表者	鈴木 昇建, 大谷 真紀, 松尾 悠平, 福田 雅幸, 美作 宗太郎

7. その他

(社会的活動他)

項 目	内 容
① 年月日	令和4年11月～12月
② 活動内容	秋田看護福祉大学 講義
③ 実施者	鈴木 昇建

Ⅱ. 部門別の臨床統計・研究実績

1. 看護部

1. 臨床統計

令和4年度 専門資格取得者	
診療看護師 (NP)	2名
心不全療養指導士	1名
消化器内視鏡技師 (更新含む)	2名
透析技術認定士	1名
慢性腎臓病療養指導士	1名
NST専門療法士	1名

令和4年度院内研修修了者	
クリニカルラダーレベルⅠ	9名
クリニカルラダーレベルⅡ	4名
がん看護研修Ⅰ	10名
がん看護研修Ⅱ	6名
がん看護研修Ⅲ	6名

令和4年度 主な院外研修修了者	
認定看護管理者研修セカンドレベル教育課程	2名
認定看護管理者研修ファーストレベル教育課程	3名
医療安全管理者養成研修	1名

令和4年度 看護学実習生 延べ人数	
秋田看護福祉大学	967名
弘前大学	27名
東北福祉看護学校	2名

2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

今年度、看護師2名が診療看護師(NP)の資格を取得した。症状マネジメントを効果的、効率的、タイムリーに実施することで、患者のQOLの向上を図ることとともに、看護師の役割拡大に向けて業務に必要な知識・技術を習得するための教育に関与し、タスクシフトを効果的に推進する役割を担っている。2年間の臨床研修期間を経て、チーム医療の重要なメンバーとして活躍する予定である。

また、新型コロナウイルス感染症への対応では、秋田県の感染症指定医療機関として、重症度Ⅱの患者や妊産婦など医療圏を超えて多くの患者を受け入れた。コロナ専用病床の臨機応変な増床にもなう病棟編制や人工透析患者のゾーニングによる対応など、「地域の患者は地域で看る」という信念のもと、職員が一致団結して、新型コロナウイルスと向き合った。感染拡大の時期においては、臨時の発熱外来、ドライブスルーによる検査体制を整えた。また、大規模ワクチン接種への協力など、治療、検査、予防のすべてにおいて地域医療に貢献したといえる。

(2) 今後の課題

地域の中核病院として、医療圏を超えて患者が集中する一方、入院患者は減少している。一時的なコロナ禍の影響によるものか、恒常的に推移していくものかを見極めながら、病棟機能の再編が必要となる。また、外来においては、急性期医療を担いながら、医療依存度の高い回復期、慢性期の患者への対応が求められる。複雑な状況にある患者が増加する中で、集中的な入院医療と在宅での生活を支える外来機能の充実が不可欠である。すべての看護師が個々の患者の状況に対応できる能力を身に付けることが必要であり、専門的な知識・技術を持つスペシャリストのみならず、患者を全人的にとらえ様々な角度から支援できるプライマリーケア看護師の育成も望まれるところである。

また、新型コロナウイルスの感染が急拡大した今年度、看護学生の臨地実習も8月から受け入れできない状態となった。今後臨地実習の経験のない新人看護師の入職が想定され、新人教育の在り方も検討すべき課題である。

3. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内容
① 年月日	令和4年6月2日～3日
② 学会名	第48回日本精神科看護学術集会
③ 開催地	北海道札幌市
④ 演題	「神経精神科病棟看護師の退院支援知識に関する実態調査」
⑤ 発表者	小松謙志郎

項目	内容
① 年月日	令和4年11月10日～11日
② 学会名	第60回全国自治体病院学会
③ 開催地	沖縄県 那覇市
④ 演題	①「婦人科腹腔鏡下手術前後の受動的音楽療法による効果」 ②「正常褥婦と妊娠糖尿病褥婦の栄養方法の変化を調査して」 ③「外来看護師の小腸カプセル内視鏡検査介助者育成支援」 ④「高齢化先進地域における診療看護師(NP)卒業研修への取り組み」 ⑤「当院における診療看護師(NP)としての活動報告」
⑤ 発表者	①伊藤真理子 ②大澤美奈子 ③大本 瞳 ④村上光太郎 ⑤古川 茜

項目	内容
① 年月日	令和4年11月11日～12日
② 学会名	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会
③ 開催地	千葉県 国際会場
④ 演題	「A病院呼吸ケアサポートチームにおける呼吸ケア向上に向けた取り組み」
⑤ 発表者	小林祐美子

(2) 講演・論文発表等

項目	内容
① 年月日	令和4年7月13日
② 講演会名 または掲載誌名	第4回秋田県薬剤師会大館北秋田支部生涯教育後援会
③ 演題	調剤薬局の環境消毒と感染管理
④ 発表者	工藤友香子

項 目	内 容
① 年月日	令和4年12月10日
② 講演会名 または掲載 誌名	ダンサックオンラインセミナー
③ 演 題	TREの適正使用とQOL向上のための選択肢
④ 発表者	安保明子

項 目	内 容
① 年月日	令和4年12月11日
② 講演会名 または掲載 誌名	秋田県医師会 第1回外来感染対策向上加算に係るカンファレンス ならびに訓練について
③ 演 題	大館・鹿角地区における地域連携の現状
④ 発表者	工藤友香子

4. その他

(社会的活動他)

項 目	内 容
① 年月日	①令和4年1月5日 ②令和5年1月12日 ③令和4年12月5日 ④令和4年12月12日 ⑤令和4年11月28日
② 活動内容	秋田看護福祉大学 ゲストスピーカー ①「病院・医療組織」 ②「医療と福祉のマネジメント 退院時における地域連携の取り組み」 ③「がん看護」 ④「化学療法時の看護」 ⑤「精神看護方法論Ⅱ」
③ 実施者	①石田和子 ②若松由里子 ③浪岡恭子 ④木次谷七恵 ⑤鈴木和

項 目	内 容
① 年月日	令和4年7月12日
② 活動内容	「大館・北秋田ふるさとお仕事博覧会」にて看護の仕事について紹介
③ 実施者	畠山美嘉子

項 目	内 容
① 年月日	令和4年7月21日・22日
② 活動内容	秋田県看護協会 一般教育研修会 講師 急変対応基礎編「これだけは見逃すな！」患者さんに迫る危険なサイン
③ 実施者	糠塚拓道

項 目	内 容
① 年月日	令和4年7月30日
② 活動内容	ダンサック・症例検討会: ストーマケアに携わる看護師への情報提供
③ 実施者	安保明子

項 目	内 容
① 年月日	令和4年8月23日
② 活動内容	糖尿病サポーター養成講座基礎コース講師 「糖尿病の生活指導について」
③ 実施者	若松由里子 菅原悦子

項 目	内 容
① 年月日	令和4年10月13日
② 活動内容	秋田県看護協会 ABSラジオ「みんなの健康」 「不妊治療について」
③ 実施者	野呂幸恵

項 目	内 容
① 年月日	令和4年10月15日
② 活動内容	東北ストーマリハビリテーションの基礎的能力を習得するための講習会 「ストーマサイトマーキング演習 スキンケア、ストーマケアの実習」アシスタント
③ 実施者	安保明子

項 目	内 容
① 年月日	令和4年11月17日
② 活動内容	秋田県北NPO紫煙センターつどいの広場ひよこ 「ほっと子育て相談日」講師
③ 実施者	高田昭子

項 目	内 容
① 年月日	令和5年1月26日
② 活動内容	西大館病院研修会:「高齢者の皮膚の特徴」
③ 実施者	安保明子

2. 臨床検査科

1. 臨床統計

区分	R4年度	R3年度	比較増減	1日平均	増減の理由
微生物	19,850	17,949	1,901	81.7	コロナPCR・血液培養増加
一般	38,396	40,563	△ 2,167	158.0	尿検査減少、保険点数の高いカルプロテクチンは増加
血液	133,694	126,603	7,091	550.2	全体的に増加、血液像・網状赤血球数が特に増加
生化学	1,014,817	973,936	40,881	4,176.2	DPC・まるめ算定項目増加のため、件数増でも収益減少
生理	22,338	22,712	△ 374	91.9	コロナ禍で検査・手術・入院制限があったため減少
免疫	151,808	153,553	△ 1,745	624.7	感染症検査やホルモン関連検査の減少
病理	16,680	16,310	370	68.6	件数はほぼ変わらないが、収益にならない業務が増加
輸血	12,188	9,085	3,103	50.2	赤血球輸血増加
聴力	909	829	80	3.7	大幅な変動なし
採血	68,098	67,052	1,046	280.2	大幅な変動はないが、採血の保険点数増加で収益増加
計	1,478,778	1,428,592	50,186	6,085.5	

外注	34,694	32,089	2,605	142.8	全体的に増加した
----	--------	--------	-------	-------	----------

保険点数に含まれない業務（臨床検査科検査件数調に含まれない業務）

レジオネラ環境検査	14	透析導入予測患者のリストアップ(内代神より依頼)	2
栄養科・タクト給食従事者検便	86	糖尿病療養指導	26
食品(惣菜)自主的衛生検査	2	不規則抗体同定検査	42
透析水質検査	326	検査説明(輸血部門)	0
褥瘡対策委員会用資料作成	12	剖検(標本作製含む)	3
MRSA月報作成	12	臓器写真撮影	553
JANISサーベイランスデータ送信	12	手術標本切り出し立会い	275
DOTS用資料作成	12	入院時の病理組織免疫染色(DPCに含まれた分)	421
ASTカンファランス	56	病理組織特殊染色	1,127
薬剤科用分離菌頻度資料作成	12	細胞診ゲフリール(体腔液以外のスタンプ標本など)	2
月別耐性菌リスト作成	12	細胞診の免疫染色	26
抗生物質委員会用資料作成	1	細胞診のセルブロック	26
MRSA・緑膿菌週報作成	56	学会発表用のマクロ・マイクロ撮影	
アプト試験	6	術後患者に配布する臓器写真印刷(産婦人科)	98
胸水穿刺液検査(採取料に含まれる)	32	外注(SRL)提出標本作製	211
腹水穿刺液検査(採取料に含まれる)	12	外注(LSI) READ提出検体処理	35
関節液検査(採取料に含まれる)	87	再採血依頼	51
薬物検査(トライエージ)	16	パニック値報告	1,935
PSG検査(電極装着)	26		

2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

臨床検査科は、採血、一般、血液、生化学・免疫、輸血、生理、微生物、病理の部門がある。毎日(測定作業日誌、機器保守管理作業日誌)、毎月(統計学的精度管理台帳)、外部精度管理(日本臨床衛生検査技師会、秋田県臨床衛生検査技師会、日本医師会)を行い、良い検査データを出せるように努めている。

今年度も新型コロナウイルス流行のため試薬や採血管などの供給が滞り、代替品で対応するなどした。日直当番とは別にコロナ待機当番を作り運用した他に、発熱外来にも職員を派遣し協力した。

採血時の患者の様子を後日聞かれて答える事が出来なかったため、「採血時に異常があった患者の様子を記入する用紙」を作成し、運用を開始した。

新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきた年末から、検査件数が増えてきているように感じる。

今年度も臨床検査室以外の職員向けの臨床検査科マニュアル「ようこそ臨床検査科へ」を発行し、各部門の内容修正や追加を行った。臨床検査科情報誌「ラボ・インフォ」も発刊した。

毎朝ミーティングを行い情報伝達や、各部署の担当を決めている。休暇者や宿直明けには、複数部署を担当出来る技師を増やす事により対応している。

(2) 今後の課題

複数部署を担当出来る技師の育成を今後も続ける事で、検査科全体で検査業務に携わって行きます。検査件数は増加傾向だがスタッフは増えないので、時間単位でスタッフの移動を行い効率よく業務を行っていく。

超音波検査の件数は年々増加している。超音波検査業務の出来る技師の育成を行い、医師の業務軽減につなげて行きたい。

他部門との連携や、各委員会参加により臨床検査科が貢献出来る様にしたい。

職員向けの臨床検査科マニュアル「ようこそ臨床検査科へ」・臨床検査科情報誌「ラボ・インフォ」で情報発信をして、患者向けの「基準値及び検査内容案内」で啓蒙活動に取り組んでいく。

3. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内容
① 年月日	令和4年10月29日
② 学会名	第44回 秋田県医学検査学会
③ 開催地	秋田県大館市 (プラザ杉の子)
④ 演題	新型コロナウイルス感染症対策がもたらしたMRSA院内感染の抑制効果についての検討
⑤ 発表者	越前谷 卓磨

項目	内容
① 年月日	令和5年2月5日～2月6日
② 学会名	第34回 日本臨床微生物学会総会・学術集会
③ 開催地	神奈川県横浜市 (パシフィコ横浜)
④ 演題	Enterococcus casseliflavusがVITEC 2 ではEnterococcus faeciumと同定された一例
⑤ 発表者	越前谷 卓磨

(2) 講演・論文発表等

項目	内容
① 年月日	令和4年9月10日
② 講演会名	令和4年度 秋田県臨床検査技師会 第1回臨床微生物部門研修会
③ 演題	新型コロナウイルス検査の現状と終息後のGene Xpertの活用について
④ 発表者	越前谷 卓磨

4. その他

(社会的活動他)

項目	内容
① 年月日	令和4年4月19日・4月21日
② 活動内容	看護師向け心電図講習会(外来)
③ 実施者	遠藤令子、前田さゆり、佐々木藍、花田綾子、山本聡子、高橋倫子

3. 神経精神科リハビリテーション室

1. 臨床統計

(1) スタッフ

- ・心理療法：公認心理師(臨床心理士) 2名
- ・相談支援：精神保健福祉士 3名 (1名は認知症疾患医療センター専従)
- ・病棟作業療法：作業療法士 1名

(※作業療法士はリハビリテーション科所属)

(2) 活動実績

【心理療法】

心理検査(のべ数)	98件
カウンセリング(のべ数)	412件

【相談支援】

《入退院患者数》

- ・入院患者数 192名

[入院形態内訳:任意入院50名(26%)、医療保護入院139名(72%)、措置入院3名(1%)]

- ・退院患者数 186名

[退院先内訳:自宅111名(60%)、施設28名(15%)、転科・転院45名(24%)、死亡2名(1%)]

《精神科訪問看護》

訪問看護登録者数(令和5年3月31日現在)	42名
精神科訪問看護実働(のべ数)	430件
精神科退院前訪問	1件

【病棟作業療法】

精神科作業療法算定数	2,520件
退院時リハ指導算定数	36件

2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

【心理療法】

令和4年度は、カウンセリング件数は前年度よりも減少したものの、心理検査件数は増加している。心理検査件数のうち36%が小児科からの依頼によるもので、年々増加しているのは近年続いている傾向である。大きく増加したのは他院(精神科クリニック)からの心理検査依頼で、全体の46%を占めている。そのうちの71%が一つのクリニックからの依頼であり、突出して多かった。

【相談支援】

今年度は、就労支援事業所の利用やサロンの利用を希望する患者が増え、時期によって新規利用者の受け入れを一時的に停止する事業所が多く見られた。そこで、当院の精神科訪問看護において外来患者への支援を手厚くすることに努め、約20名に精神科訪問看護を新規に導入し、外来での継続的なフォローを行った。

【病棟作業療法】

病棟での精神作業療法の実施と共に、廃用予防や早期離床が必要な患者に対しての歩行訓練等の身体アプローチを進めている。また、多職種と連携して精神科退院時共同指導料の算定、退院前カンファレンスへの参加等、退院支援に繋がる活動も行っている。

(2) 今後の課題

【心理療法】

近年増加傾向にある心理療法や心理検査については、令和5年度から心理士が1名育児休暇より復帰し、心理師2名体制になることから、対応の幅が広がることが期待できる。また、使用頻度の高い心理検査用具が新しいバージョンに更新されるため、正確な実施ができるよう施行法を習熟していく。

【相談支援】

近年認知症患者が増加しており、退院先として施設入所を希望するケースも多い。退院支援かわる各関係機関との連携が重要であり、必要不可欠となっている。円滑な退院支援や社会復帰につなげるためにも、関係部署との連携強化を図る。

【病棟作業療法】

令和4年度は、年度途中で作業療法士が2人体制から1人体制となってから、病棟作業療法の算定率が減少している。身体的な評価と介入ができなかったことが算定率の減少に繋がっていると考えられるため、身体評価と身体介入を強化し、算定率の回復を図っていく。

3. 学会発表等

(1) 講演・論文発表等

項目	内容
① 年月日	令和4年5月19日
② 講演会名	看護部 院内教育研修会(レベルⅠ)
③ 演題	「メンタルヘルス」
④ 発表者	公認心理師・臨床心理士:武内佳苗

項 目	内 容
① 年月日	令和4年6月1日
② 講演会名	神経精神科病棟 OJT
③ 演 題	「精神保健福祉法について」
④ 発表者	精神保健福祉士:高橋愛実

項 目	内 容
① 年月日	令和4年9月21日
② 講演会名	令和4年度 第3回秋田県薬剤師会 大館北秋田支部生涯教育講演会
③ 演 題	「精神科医療における心理師の役割」
④ 発表者	公認心理師・臨床心理士:武内佳苗

4. その他

(社会的活動他)

- ・大館市自立・差別解消支援協議会
- ・秋田県精神保健福祉協会大館鹿角支部
- ・秋田県精神障害者地域移行・地域定着支援事業
- ・秋田県精神科救急医療体制整備事業
- ・自殺未遂者支援対策事業
- ・秋田県ひきこもり相談支援連絡協議会
- ・秋田県発達障害者支援センター連絡協議会県北支部会
- ・秋田県医療観察制度運営連絡協議会
- ・大館市乳幼児健康診査

4. 薬剤科

1. 臨床統計

(1) 調剤室

表1. 処方せんの枚数等

	一般処方		麻薬処方*
	枚数	剤数	枚数
入院	37,656	59,109	1,137
外来	13,493	26,881	81
計	51,149	85,990	1,218

*麻薬処方とは処方せん原本枚数(一般処方の麻薬処方は「控」の枚数)。

表2. その他の処方箋枚数

種類	枚数
一包化処方(注1)	5,016
再調剤指示処方(注2)	929

(注1)一般処方せんに含まれる

(注2)一般処方せんに含まれない

*院外処方せん

枚数	124,460	発行率(%)	96.5
----	---------	--------	------

(2) 薬品管理室

表3. 業務日数

稼働日数	244
特別出勤日数	1

表4. 注射関連業務件数ほか

種類	枚数ほか
定期注射せん枚数①	38,408
化学療法予定枚数②	5,376
無菌製剤処理枚数(注)	4,912
無菌製剤処理件数(注)	8,062
麻薬無菌調製枚数	2
特定生物由来製剤使用伝票枚数	633
注射麻薬施用せん枚数	3,239
注射麻薬施用せん剤数	4,581

(注)無菌製剤処理には抗がん剤、高カロリー輸液調製が含まれる

表5. 薬剤請求伝票数

請求伝票品目数	67,355
---------	--------

注射箋セット枚数合計 (表4①+②)	43,784
-----------------------	--------

表6. 化学療法無菌調整枚数

	セット枚数	実施枚数	実施率(%)
入院	1,071	1,011	94.4
外来	4,209	3,798	90.2
計	5,280	4,809	91.1

表7. 無菌製剤処理料請求件数(入院+外来)

種類	件数
無菌製剤処理料1ロ (イ以外の場合)	7,841
無菌製剤処理料1イ (閉鎖式接続器具を用いて無菌製剤処理を行った場合)	191
無菌製剤処理料2 (1以外のもの:高カロリー輸液、麻薬)	30
計	8,062

表8. 指定抗菌薬使用届出枚数(注射)

抗MRSA薬		β-ラクタム系薬		ニューキノロン系薬		合計
品名	枚数	品名	枚数	品名	枚数	
VCM	20	PAPM/BP	0	LVFX	22	
ABK	0	MEPM	105	LSFX	5	
TEIC	0	IPM/CS	0			
LZD	2					
DAP	11					
計	33	計	105	計	27	165

(3)その他

表9. 製剤調整数

剤形	種類数	調整件数
内用剤	0	0
注射剤	0	0
外用剤(点眼剤)	1	3
外用剤(軟膏剤)	2	41
外用剤(坐剤)	0	0
外用剤(その他)	18	271
計	21	315

表10. 薬剤管理指導料等算定件数

内訳	件数
①薬剤管理指導料1(380点)	3,868
②薬剤管理指導料2(325点)	5,499
(①+②)のべ薬剤管理指導料	9,367
③麻薬管理指導加算	224
④退院時薬剤情報管理指導料	1,622
⑤退院時薬剤情報連携加算	5

表13. 医薬品採用、中止等の品目数

	区分	品目数
①	新規購入	66
②	試用購入	18
③	院外採用	49
④	採用区分変更(院外→共通)	11
⑤	採用区分変更(共通→院外)	9
⑥	購入中止	80
①+②+④	実質採用合計	95
⑤+⑥	実質中止合計	89
⑦	医薬品総数	1,880

表11. 持参薬鑑別依頼件数

件数	5,052
----	-------

表12. お薬相談室利用件数

(服薬指導件数)

内訳	件数
自己注射・吸入指導等	227

表14. 後発医薬品数量割合(%)

入院	78.3
外来	79.2
全体	78.5

(注)3月1ヶ月のデータ

2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 一般調剤業務(処方せん枚数など)
令和4年度の院内処方せん枚数は入院37,656枚(前年度と比較し2.1%増)、外来13,493枚(25.0%増)、院内一包化処方せんは5,016枚(33.9%増)、再調剤依頼書は929枚(25.6%減)だった。院外処方せん発行枚数は124,460枚(2.3%減)で院外処方率は96.5%(1.6%減)だった。
(2) 注射業務
注射せん枚数は38,408枚(2.6%増)、化学療法予定枚数は5,376枚(29.6%増)、特定生物由来製剤使用伝票枚数は633枚(8.2%増)、注射麻薬施用せん枚数は3,239枚(32.6%減)、無菌製剤処理件数は8,062件(8.0%増)だった。
(3) 病棟業務
薬剤管理指導件数は9,367件(14.5%減)、持参薬鑑別依頼件数は5,052件(21.0%増)だった。薬剤管理指導件数の減少はCOVID-19蔓延による病棟閉鎖の影響が大きく、来年度以降は改善していくと考えられる。現在、病棟薬剤業務実施加算の算定に向けて病棟薬剤師の常駐化を推進している。
(4) その他
後発医薬品数量割合(令和5年3月)は78.5%で、前年同月と比較して7.1%減少した。来年度は、再来年度に迫っている地域救命救急センターの設立に合わせて薬剤師の夜勤を開始する予定である。

3. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内容
① 年月日	令和4年6月5日
② 学会名	第70回日本化学療法学会総会
③ 開催地	岐阜県岐阜市
④ 演題	・地域における外来抗感染症薬認定薬剤師育成のための研修認定病院の役割 ・タスク・シフト/シェアを推進するためのプロトコルを用いたAST活動
⑤ 発表者	中居 肇

項目	内容
① 年月日	令和4年9月17日～18日
② 学会名	日本くすりと糖尿病学会
③ 開催地	web開催
④ 演題	タスク・シフト/シェアを推進するための糖尿病患者における自己注射指導
⑤ 発表者	鈴木 剛

項目	内容
① 年月日	令和4年9月23日～25日
② 学会名	第32回日本医療薬学会年
③ 開催地	群馬県高崎市
④ 演題	薬剤師が取り組むHBV再活性化予防への取り組み
⑤ 発表者	國安 和仁

項目	内容
① 年月日	令和4年9月23日～25日
② 学会名	第32回日本医療薬学会年会
③ 開催地	群馬県高崎市
④ 演題	血液培養陽性時の抗菌薬使用におけるPK-PD理論に基づいた薬剤師の介入
⑤ 発表者	田村 麻衣

項 目	内 容
① 年月日	令和4年11月10日～11日
② 学会名	第60回全国自治体病院学会
③ 開催地	沖縄県那覇市
④ 演 題	新型コロナワクチン接種において薬剤師ができること-地域連携を強化した調製への参加-
⑤ 発表者	中居 肇

項 目	内 容
① 年月日	令和4年11月10日～11日
② 学会名	第60回全国自治体病院学会
③ 開催地	沖縄県那覇市
④ 演 題	がん患者におけるオピオイド投与量に影響を及ぼす因子の調査
⑤ 発表者	菅原 馨悟

項 目	内 容
① 年月日	令和4年11月10日～11日
② 学会名	第60回全国自治体病院学会(沖縄県那覇市)
③ 開催地	沖縄県那覇市
④ 演 題	抗菌薬選択に難渋した多剤耐性緑膿菌による尿路感染症の一例
⑤ 発表者	畑中 祐磨

項 目	内 容
① 年月日	令和5年3月4日～5日
② 学会名	日本臨床腫瘍薬学会
③ 開催地	愛知県名古屋市
④ 演 題	事務員配置と注射薬混注監査システムAddDis [®] 導入による効果
⑤ 発表者	虻川 詩希子

項 目	内 容
① 年月日	令和5年3月4日～5日
② 学会名	日本臨床腫瘍薬学会(愛知県名古屋市)
③ 開催地	愛知県名古屋市
④ 演 題	HER2陽性胃癌に対するニボルマブの有効性の検討
⑤ 発表者	小笠原 健

(2) 講演・論文発表等

項 目	内 容
① 年月日	令和4年4月23日
② 講演会名	秋田県薬剤師糖尿病研究会2022年定例勉強会(秋田市)
③ 演 題	情報共有ツールを活用した糖尿病医薬連携～疑義照会事前合意プロトコルの取り組みも含めて～
④ 発表者	鈴木 剛

項 目	内 容
① 年月日	令和4年6月18日
② 講演会名	第8回東北抗菌化学療法研究会(宮城県仙台市)
③ 演 題	抗菌薬選択に難渋した多剤耐性緑膿菌による尿路感染症について
④ 発表者	畑中 祐磨

項 目	内 容
① 年月日	令和4年6月23日
② 講演会名	上十三薬剤師会講演会(青森県十和田市)
③ 演 題	タスク・シフト/シェアの推進におけるプロトコル運用と薬薬連携の強化
④ 発表者	中居 肇

項 目	内 容
① 年月日	令和4年8月6日
② 講演会名	第26回秋田県薬剤師感染症研究会(秋田市)
③ 演 題	血液培養陽性患者へのPK-PD理論に基づいた薬剤師の介入
④ 発表者	田村 麻衣

項 目	内 容
① 年月日	令和4年9月14日
② 講演会名	Pharmacy Director Seminar in 帯広(web開催)
③ 演 題	タスク・シフト/シェアの推進におけるプロトコル運用と薬薬連携の強化-服薬情報等提供料3への取り組み-
④ 発表者	中居 肇

項 目	内 容
① 年月日	令和4年9月22日
② 講演会名	臨床感染症サロン2022(宮城県仙台市)
③ 演 題	抗菌薬選択に難渋した脳膿瘍の一例
④ 発表者	田村 麻衣

項 目	内 容
① 年月日	令和4年11月21日
② 講演会名	秋田県北部制吐剤講演会(web開催)
③ 演 題	がん化学療法における「制吐剤オーダー入力プロトコル」の運用と効果
④ 発表者	虻川 詩希子

項 目	内 容
① 年月日	令和4年12月9日
② 講演会名	秋田県病院薬剤師会学術講演会(秋田市)
③ 演 題	タスク・シフト/シェアの推進におけるプロトコル運用と薬薬連携の強化-服薬情報等提供料3への取り組みも含めて-
④ 発表者	中居 肇

項 目	内 容
① 年月日	令和4年12月13日
② 講演会名	Pharmacy Director Seminar in 釧路(web開催)
③ 演 題	タスク・シフト/シェアの推進におけるプロトコル運用と薬薬連携の強化-服薬情報等提供料3への取り組み-
④ 発表者	中居 肇

項 目	内 容
① 年月日	令和5年1月25日
② 講演会名	医薬連携フォーラム in 長野(web開催)
③ 演 題	薬薬連携を強化してWin-Winを目指す！-服薬情報等提供料3への取り組み-
④ 発表者	中居 肇

項 目	内 容
① 年月日	令和5年2月10日
② 講演会名	南黒薬薬連携の会(青森県黒石市)
③ 演 題	情報提供書を活用した薬薬連携の強化
④ 発表者	鈴木 剛

項 目	内 容
① 年月日	令和5年2月14日
② 講演会名	Pharmacy Director Seminar in 埼玉(埼玉県さいたま市)
③ 演 題	タスク・シフト/シェアと診療報酬改定から薬剤師業務を拡大する！-処方オーダー支援プロトコル・周術期薬剤管理・服薬情報等提供料3-
④ 発表者	中居 肇

項 目	内 容
① 年月日	令和5年2月16日
② 講演会名	秋田県薬剤師会感染症研究会(秋田市)
③ 演 題	薬剤耐性対策アクションプランへの取り組み-地域で育てる新しい認定薬剤師制度-
④ 発表者	中居 肇

項 目	内 容
① 年月日	令和5年3月25日
② 講演会名	第52回秋田県薬剤師オンコロジー研究会(秋田市)
③ 演 題	地域で育てる外来がん治療専門薬剤師-研修施設の役割と薬薬連携強化-
④ 発表者	虻川 詩希子

4. その他

(社会的活動他)

地域薬剤師向け	抗菌薬適正使用に薬剤師がかかわる時代(中居 肇)
	ナースに知ってほしい免疫チェックポイント阻害薬のキホン(虻川 詩希子)
	私が経験した精神科領域での服薬指導のコツ(斉藤 勝裕)
	糖尿病の薬物療法について～薬の種類と日常生活での注意点(高齢者の服薬について含む)～(鈴木 剛)
	服薬情報等提供料3への取り組み(鈴木 剛)
	大館・鹿角地区における内服抗菌薬の使用状況(田村 麻衣)
	多施設におけるトロンボモデュリンアルファの使用状況と当院での使用成績(田村 麻衣)
	片頭痛診療に関する薬剤について(菅原 莉紗)

薬物乱用防止 教室など	矢立小学校(三浦 聡子)/扇田小学校(小笠原 健)
	川口小学校(斉藤 勝裕)/山瀬小学校(鈴木 剛)

5. 栄養科

1. 臨床統計

(1) 令和4年度 栄養食事指導件数

単位:件

月	外来		件数	入院		件数	入外 合計	集団(入院)		合計
	加算	非加算		加算	非加算			加算	非加算	
4	56	1	57	57	4	61	118	0	0	0
5	66	16	82	42	3	45	127	0	0	0
6	62	24	86	51	7	58	144	4	2	6
7	57	19	76	56	8	64	140	1	2	3
8	60	0	60	40	9	49	109	0	0	0
9	56	1	57	43	1	44	101	0	0	0
10	57	16	73	40	8	48	121	0	0	0
11	60	19	79	39	7	46	125	2	0	2
12	53	23	76	31	6	37	113	1	2	3
1	53	22	75	41	8	49	124	0	3	3
2	72	18	90	57	10	67	157	8	13	21
3	62	14	76	46	14	60	136	7	3	10
計	714	173	887	543	85	628	1,515	23	25	48

2. 診療に係る評価および今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

【特徴】

栄養部門の業務は栄養管理と給食管理に分けられます。栄養管理業務は患者一人ひとりに対し栄養アセスメント、プラン作成、実施、再評価を行うこと。また食事を通して疾病治療や生活の質向上につながる栄養指導の実施です。給食管理業務は安心、安全、そして治療に貢献できる食事提供に関する業務です。

【アピール】

- ①化学療法・放射線療法による食欲不振の患者に対して食事相談を行い、個々の状態に応じた食事提供に努めています。個別対応食としてなごみ食の提供を行っています。
- ②食事は患者や病棟の要望・意見を出来るだけ取り入れた内容を心がけています。また、食事検討会・試食会を実施し、味・食形態・色彩・盛付け等について意見を出し合い、安心・安全で尚且つおいしい食事の提供につなげています。さらに、行事食(年間約25回)、出産お祝膳にも力を入れています。
- ③栄養指導では慢性疾患や急性疾患、術前・術後、また低栄養や嚥下障害への指導を行っています。その他、糖尿病集団指導や糖尿病透析予防指導も行っています。
- ④転倒転落防止チーム・NST委員会・褥瘡対策委員会・緩和ケア委員会・クリニカルパス委員会・リスクマネジメント委員会・感染委員会・骨折リエゾンチーム等に参画しています。
- ⑤チーム医療に貢献するため、NSTや病棟退院前カンファレンス等に参加。院外においても学会や院外研修会に参加し、資格の取得・更新などの各々のスキルアップにも力を入れております。
- ⑥外来化学療法室で栄養指導を開始しています。

(2) 今後の課題

- ・患者に寄り添い、安心・安全で満足して頂ける食事の提供を目指す。
- ・低栄養の患者を早期発見、早期介入できるよう他の職種の方々と連携をとる。
- ・外来、入院、さらに地域連携パスにおいて切れ目のない栄養指導の実施・継続。
- ・がん患者へ症状に応じた適切な栄養指導の実施・継続(外来化学療法室での指導の充実)。
- ・チーム医療や診療報酬において貢献できるよう、各々のスキルアップ。

3. 学会発表等

(1) 講演・論文発表等

項 目	内 容
① 年月日	令和4年 8月23日
② 講演会名	大館市糖尿病サポーター養成講座
③ 演 題	糖尿病の食事指導
④ 発表者	福山 恵里奈

項 目	内 容
① 年月日	令和4年 9月20日
② 講演会名	秋田県看護福祉大学 早期体験実習
③ 演 題	チーム医療における管理栄養士のかかわり
④ 発表者	関本 葉子

項 目	内 容
① 年月日	令和4年 10月12日
② 講演会名	衛生委員会 生活習慣病研修会
③ 演 題	脂質異常症の予防について
④ 発表者	松田 真美子

項 目	内 容
① 年月日	令和4年 11月10日
② 講演会名	第60回 全国自治体病院学会
③ 演 題	地域で取り組む大館地区糖尿病重症化予防への取り組み
④ 発表者	後藤 史子

項 目	内 容
① 年月日	令和5年 3月6日
② 講演会名	褥瘡対策研修会
③ 演 題	褥瘡と栄養管理
④ 発表者	福山 恵里奈

項 目	内 容
① 年月日	令和5年 3月25日
② 講演会名	第22回秋田県糖尿病療養指導研究会
③ 演 題	当院の糖尿病患者へおける減塩指導
④ 発表者	福山 恵里奈

6. 放射線科

1. 臨床統計

(1) 令和4年度業務実績

(単位:人)

	日数	一般撮影	造影	断層	血管	マンモ	骨塩	CT	MRI	RI	治療	透視	合計
4月	20	2,640	0	5	34	70	93	1,243	425	58	245	121	4,934
5月	19	2,684	0	10	7	92	59	1,030	420	23	294	123	4,742
6月	22	3,395	1	6	32	132	121	1,353	476	48	170	173	5,907
7月	20	2,638	0	4	27	199	85	1,173	379	53	339	147	5,044
8月	22	2,432	0	3	28	256	69	1,187	374	61	237	104	4,751
9月	20	2,440	0	4	28	204	73	1,086	360	45	240	127	4,607
10月	20	2,717	0	3	21	231	95	1,230	381	69	247	155	5,149
11月	20	2,644	0	1	30	201	89	1,187	347	42	246	155	4,942
12月	20	2,826	0	10	21	181	79	1,281	395	40	360	150	5,343
1月	19	2,834	0	6	23	202	91	1,252	397	57	272	145	5,279
2月	19	2,674	0	10	20	210	74	1,160	379	73	243	152	4,995
3月	22	3,048	0	19	18	92	105	1,329	483	82	311	136	5,623
合計	243	32,972	1	81	289	2,070	1,033	14,511	4,816	651	3,204	1,688	61,316
前年度	242	34,529	25	143	285	1,834	722	14,603	4,967	621	3,381	1,977	63,087
比較増減		△ 1,557	△ 24	△ 62	4	236	311	△ 92	△ 151	30	△ 177	△ 289	△ 1,771
月平均		2,748	0	7	24	173	86	1,209	401	54	267	141	5,110
1日平均		135.7	0.0	0.3	1.2	8.5	4.3	59.7	19.8	2.7	13.2	6.9	252.3

2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

放射線科では診療放射線技師15名(男性10名、女性4名、嘱託技師1名)嘱託1名で、10以上のモダリティをそれぞれの担当が専門技術を身に付け日々検査に従事しております。
 撮影業務全体の件数はほぼ横ばい状態です。マンモグラフィ、骨塩、RIにおいて前年度より増加しました。マンモグラフィ検診認定技師(女性技師4人目)が誕生しました。マンモグラフィ検診施設認定も更新し、精度の高い検診の提供を目指しています。CT、MRIは、ほぼ横ばいですが依然として多い件数となっており需要の高さが分かります。今年度は、CT装置・ポータブル装置・透視装置・術中イメージが機器更新となり運用されています。これらの装置の特性を最大限に活かしより良い画像の提供を行い、今まで以上に地域に貢献できるよう努めてまいります。限られた人数の中で、担当モダリティ以外のものにも携わり、それぞれが協力し合い業務に臨んだ一年となりました。

(2) 今後の課題

- ・新型コロナウイルス感染症により中止・延期され開催できなかった研修会や勉強会を積極的に行っていきます。
- ・今年度は多くの機器更新があり、運用されています。それぞれの装置の操作習得、検査に応じた撮影技術・知識を放射線科全体で共有し検査の質の向上を図っていきます。
- ・水晶体被ばくの線量限度が引き下げられたことにより、水晶体防護ゴーグルの着用を徹底することはもちろんのこと、放射線被ばくに対する意識付けを行っていくことも重要です。
- ・不足している分の人材を補充し、適切な教育を行っていく事で組織の安定化を図っていきます。

3.学会発表等

(1)学会発表

項 目	内 容
① 年月日	令和4年9月9日
② 学会名	令和4年度県北支部ナイトセミナー
③ 開催地	オンライン開催
④ 演題	造影CT検査による副作用発生時の対応について
⑤ 発表者	奥村 歩

項 目	内 容
① 年月日	令和4年11月25日
② 学会名	秋田県北MR画像研究会
③ 開催地	オンライン開催
④ 演題	当院のMRI検査における新型コロナウイルス感染症対策
⑤ 発表者	野呂 憲一

項 目	内 容
① 年月日	令和5年2月25日
② 学会名	令和4年度県北支部学術大会
③ 開催地	オンライン開催
④ 演題	Deep Learning画像再構成法によるCT被ばく線量低減のための基礎検討
⑤ 発表者	木次谷 隆志

(2) 講演・論文発表等

項目	内容
① 年月日	令和4年8月25日
② 演題	マンモグラフィーの読影
③ 発表者	佐藤 真緒

項目	内容
① 年月日	令和4年9月28日
② 演題	胃X線検査について
③ 発表者	佐々木 晶香

項目	内容
① 年月日	令和4年9月29日
② 演題	ACSと心電図
③ 発表者	米沢 拓彌

項目	内容
① 年月日	令和4年10月26日
② 演題	大動脈弁狭窄症 TAVI術前CT
③ 発表者	奥村 歩

項目	内容
① 年月日	令和4年10月31日
② 演題	血管造影～脳外科～
③ 発表者	畠山 鈴加

項目	内容
① 年月日	令和4年11月28日
② 演題	知っておこう！ 『Revolution CT』
③ 発表者	木次谷 隆志

項目	内容
① 年月日	令和4年11月29日
② 演題	頭部MRI
③ 発表者	奥村 渉

項目	内容
① 年月日	令和4年12月7日
② 演題	前壁撮影と発泡剤
③ 発表者	千葉 さやか

項目	内容
① 年月日	令和4年12月28日
② 演題	DLIR(Deep Learning)をどう活用すればよいか？
③ 発表者	村上 鉄兵

項目	内容
① 年月日	令和5年1月23日
② 演題	放射線業務従事者教育訓練伝達講習
③ 発表者	野呂 憲一

項目	内容
① 年月日	令和5年2月1日
② 演題	PCIにおけるIVUSの有用性
③ 発表者	佐々木 正文

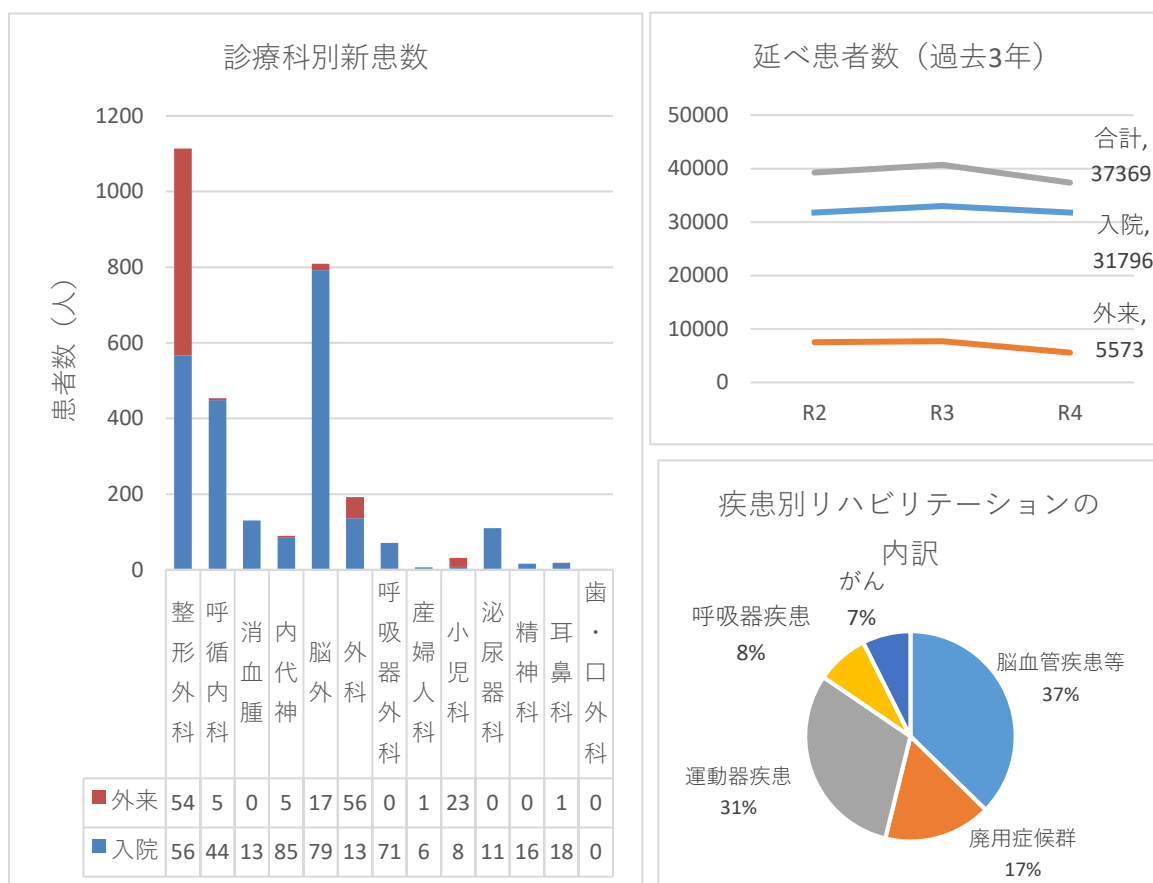
項目	内容
① 年月日	令和5年2月22日
② 演題	TOF(Time Of Flight)について
③ 発表者	工藤 淳

項目	内容
① 年月日	令和5年3月1日
② 演題	胃透視(基準撮影) "ブラインド"エリア
③ 発表者	羽澤 憲治

項目	内容
① 年月日	令和5年3月30日
② 演題	当院のPCI・心臓カテーテル検査の皮膚観察について
③ 発表者	小畑 学

7. リハビリテーション科

1. 臨床統計



2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

施設基準は脳血管疾患等リハビリテーションⅠ、運動器リハビリテーションⅠ、呼吸器リハビリテーションⅠ、廃用症候群リハビリテーションⅠ、がん患者リハビリテーションである。スタッフはPT 12名、OT6名(うち包括病棟専従OT1名、精神科病棟専従OT2名)、ST2名である。スタッフには3学会合同呼吸療法認定士、認定理学療法士(脳卒中、発達障害、運動器、呼吸)、秋田県糖尿病療養指導士、心臓リハビリテーション指導士などの保有者を含む。スタッフ全員ががんリハビリテーション研修を修了し、臨床実習指導者研修の修了者は16名となった。受け入れた実習生は8名であった。

昨年度に引き続いて感染対策を行いながら業務を継続した。入院患者と外来患者の接触を避けるため、入院患者のリハビリテーションは病棟での実施が基本となり、そのためのリハビリスペースの確保、物品の整備などを行った。また、感染病棟においては病棟と連携して準備を進め、COVID-19感染者へのリハビリテーションを開始した。

(2) 今後の課題

現在在籍している心臓リハビリテーション指導士は1名のみであり、心臓リハビリテーションの開設に向けて指導士の育成や施設・設備の準備が急務である。またCOVID-19をはじめとした感染症への対策を継続しながら、継続的かつ質の高いリハビリテーションの提供に向けて、限られた環境・設備・マンパワーのなかで柔軟に対応していくことが重要であると考えている。

3. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内容
① 年月日	2022年9月10日～11日
② 学会名	第40回東北理学療法学会
③ 開催地	オンライン会議システム
④ 演題	当院におけるJ-KOOSを用いたTKA患者のQOL評価
⑤ 発表者	鎌田凌介

項目	内容
① 年月日	2022年9月23日
② 学会名	第8回日本呼吸理学療法学会
③ 開催地	函館(WEB)
④ 演題	VATS患者の術後早期の歩行自立に影響する要因
⑤ 発表者	柏木智一

項目	内容
① 年月日	2022年9月24日
② 学会名	第10回日本運動器理学療法学会
③ 開催地	仙台(WEB)
④ 演題	腰部脊柱管狭窄症の重症度の違いがQOLに及ぼす影響
⑤ 発表者	柏木智一

項目	内容
① 年月日	2022年11月11日
② 学会名	第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学会
③ 開催地	千葉市
④ 演題	当院のRST活動における理学療法士の役割
⑤ 発表者	柏木智一

4. その他

(社会的活動他)

項目	内容
① 年月日	2022年6月18日
② 活動内容	第26回秋田県理学療法士学会 座長
③ 実施者	柏木智一

項目	内容
① 年月日	2022年7月27日
② 活動内容	大館市DMサポーター制度 講師
③ 実施者	柏木智一

項 目	内 容
① 年月日	2022年11月27日
② 活動内容	おおだていきいきフェア 運動指導
③ 実施者	豊口卓

項 目	内 容
① 年月日	2023年2月20日
② 活動内容	大館市地域ケア会議 出席
③ 実施者	柏木智一

8. 臨床工学科

1. 臨床統計

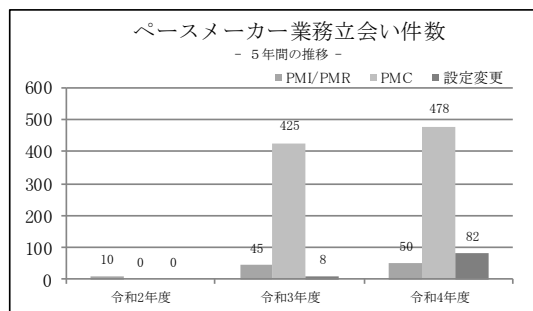
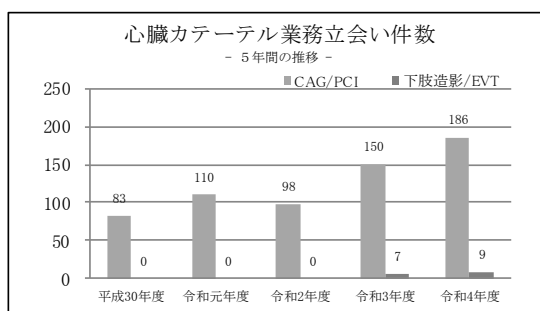
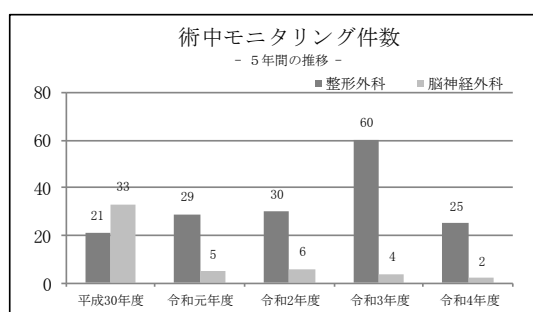
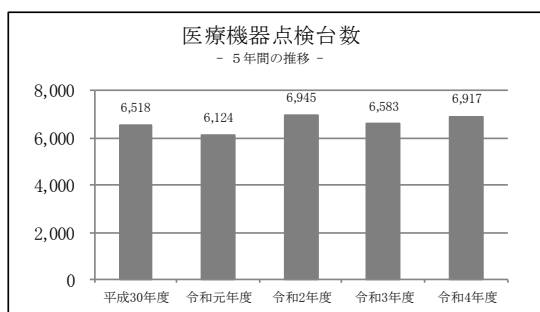
(1) ME機器管理業務

令和4年度 ME機器運用状況

臨床工学科管理機器台数 611台

機器名	貸出	点検	点検内訳				故障修理※
			始業	動作中	巡回	定期	
輸液ポンプ	2,708	2,711	2,360			351	15
シリンジポンプ	1,229	1,147	941			206	4
人工呼吸器	175	613	136	462	2	13	7
間歇式空気圧迫装置	399	400	310			90	49
低圧持続吸引器	57	57	39			18	
除細動器・AED	23	271	5		220	46	7
閉鎖式保育器		10				10	10
離床センサ	1,163	1,076	1,076				23
超音波ネブライザ	65	63	33			30	3
超音波画像診断装置	453	307	307				
生体情報モニタ	13	94			94		52
送信機							5
神経機能検査装置	27	27	27				
筋電図誘発電位検査装置	58	52	52				
IVスタンド	164						
紫外線照射ロボット	127	68	68				
IABP	1	20	2	5	11	2	1
補助循環装置		1				1	
その他(CPRドール等)	1						1
合計	6,663	6,917	5,356	467	327	767	177

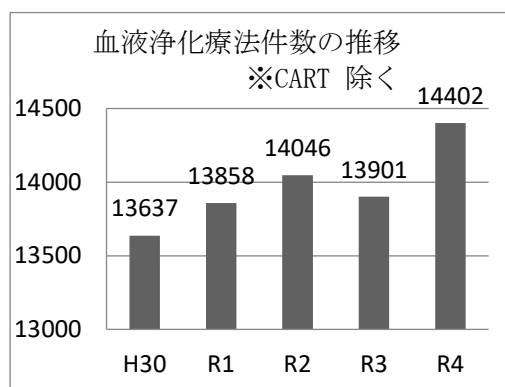
※故障修理内訳 内部修理:110台 外部修理:67台



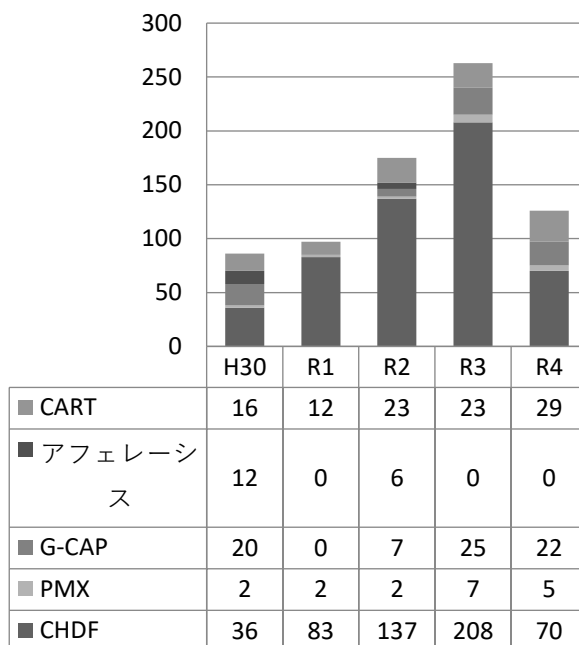
- ・輸液ポンプを新機種に全台更新し、台数も従来より約40台増設なったことにより、安定した運用が可能になった
- ・医療機器安全推進月間（6月）、医療機器トレーニングラボ全4回開催
- ・院内研修会および各種勉強会37件、臨床工学技士対象勉強会16件

(2) 血液浄化業務

令和4年度 血液浄化部門管理機器		
管理機器	機種数	台数
多人数用透析液供給装置	1	1
逆浸透精製水システム	1	1
A粉末自動溶解装置	1	1
B粉末自動溶解装置	1	1
透析用監視装置	6	33
多機能血液浄化装置	1	4
計	11	41



各種血液浄化療法等件数の推移
※HD、HDF 除く



2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

令和4年度は、ME室から臨床工学科へ名称変更を行い、血液浄化部門2名、ME機器管理部門が1名増の4名、計6名の体制で業務分担による専門性を活かした継続性のある業務を遂行している。休日夜間体制では血液浄化業務の緊急呼び出し体制を2名で、またME機器管理部門においては、3名での連日待機体制に対応しつつ新人教育を進め4名待機体制を目指している。

ME機器管理業務では、機器の保守管理、取り扱いやトラブルへの対応、機器購入サポート、整形・脳外での術中モニタリング、ペースメーカー業務全般に対応し、特に循環器分野での緊急PCIなど心臓カテーテル業務が増加している。

血液浄化業務では、近隣の透析施設が11月に閉院し38名もの患者を一気に受け入れることとなった。これまでの「月水金2クール・火木土1クール」体制から、「月から土まで連日2クール」体制に変更し、他部署の協力を得ながらCE2名でスケジュール調整を行い何とか対応することができている。他にも、時間外での救急対応や各科病棟での治療など、様々なシーンにおける各種血液浄化療法に対応している。

また、新型コロナウイルス感染症対応については近隣施設からの依頼も含め、延べ24名の感染患者、20名の濃厚接触患者についてゾーニングや時間的隔離透析、また環境消毒等の対応を行い、透析室内での感染拡大及び自身への感染をゼロに抑えることができた。

医療安全では、MEサポートチーム活動、ME機器トレーニングラボの開催、院内研修会や出張勉強会など積極的に行うことで、各現場での医療機器安全運用に寄与している。

その他、スタッフ6名で15の委員会、6つの各種プロジェクトチームに所属しながら各分野において活動の場を広げ、チーム医療の一端を担っている。

(2) 今後の課題

ME機器管理業務については、新人1名を迎え4名体制となったが、今後地域救命救急センター開設計画や地域医療構想による医療圏の再編などが進み、地域医療における当院の役割を考えると更なる業務需要の拡大が見込まれる。現状においても病院規模や機能、待機体制等から見ても十分なスタッフ数とは言えず、今後働き方改革が本格始動するにあたりタスク・シフト/シェアへの参画なども考慮した上で、将来も見据えた早急且つ大幅な増員計画が必須と考える。

血液浄化業務については、近隣の透析施設が閉院した影響が大きく、地域の透析医療を考えた上での新興感染症や自然災害に対する連携やバックアップ機能は大幅に後退することとなった。今後新たな広域での連携や有事に対応するシステム構築が課題となる。

病院経営面については、収益増加やコスト削減が急務となる中、医療機器更新及び老朽化機器の運用においても限られた予算で安心安全の医療を提供していかなければならない。

このような厳しい状況下で業務を遂行していく上で、スタッフ個々の能力と専門性の向上、また多職種との連携が重要となる。また殆どの業務が診療報酬上での評価が困難であり、業務量や成果を可視化することで職場としての評価を得る達成感や充実感も大切であると考え。

これらの多くの課題に対し、現状を把握し優先順位を熟慮しながら職務を遂行していく。

3. 学会発表等

(1) 講演・論文発表等

項目	内容
① 年月日	2022年7月26日
② 講演会名	秋田岩手透析療法カンファレンス
③ 演題	吸着型血液浄化器の治療
④ 発表者	駒ヶ嶺 健

項目	内容
① 年月日	2022年11月16日
② 講演会名	第9回秋田県薬剤師会大館北秋田支部生涯教育講演会
③ 演題	人工透析のしくみ
④ 発表者	駒ヶ嶺 健

9. 医療安全推進室

1. 臨床統計

平成25年度から令和4年度 インシデントレポート提出件数

年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
件数	1,006	1,166	1,119	1,471	1,789	1,886	1,898	1,943	2,016	2,203

令和4年度 インシデントレポート分類別報告数(総報告数2,203件)

分類		報告数	分類		報告数
薬剤	処方・与薬	331	ドレーンチューブ		188
	調剤・製剤管理	117	検査	検体検査	274
輸血		10		生理検査	23
治療・処置	手術	56		画像検査	103
	麻酔	7		内視鏡検査	5
	分娩・人工妊娠中絶	5	機能検査	11	
	その他の治療	155	転倒・転落	229	
一般処置・チューブ類の挿入		25	療養上の世話・療養生活の場面		274
救急処置		18	給食・栄養(介助者がいるもの)		70
医療機器等		94	その他		208
合計					2,203

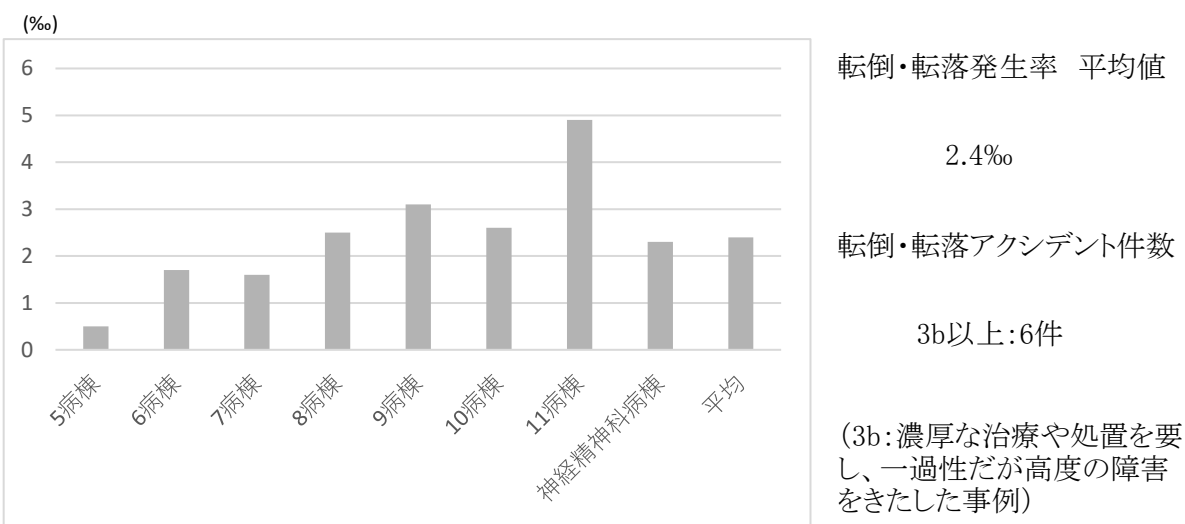
令和4年度 インシデントレポート職種別報告数(総報告数 2,203件)

職種	報告数	職種	報告数	職種	報告数
看護師	1,486	薬剤師	75	理学療法士	55
准看護師	30	栄養士	39	言語聴覚士	0
医師	133	調理師	0	視能訓練士	3
研修医	169	臨床心理士	0	臨床工学技士	14
臨床検査技師	133	歯科衛生士	0	事務員	10
放射線技師	38	作業療法士	18		
合計					2,203

平成26年度から令和4年度 医師、研修医インシデントレポート提出件数

	医師	研修医	合計
平成26年度	26	1	27
平成27年度	33	18	51
平成28年度	63	48	111
平成29年度	30	56	86
平成30年度	42	72	114
令和元年度	73	25	98
令和2年度	93	119	212
令和3年度	119	177	296
令和4年度	133	169	302

令和4年度 入院患者転倒転落発生率



2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

インシデントレポートの提出数は年々増加しており、令和4年度のレポート提出数は過去最多の2,203件であった。1事例に対し複数の職種からの報告もあり、当院の報告文化が醸成されてきていると考える。レポート報告のなかの転倒・転落を分析すると、転倒・転落発生率が令和3年度(2.3‰)とほぼ同率であったが、転倒転落によって骨折等のアクシデントレベルに至った事例が令和4年度は6件(令和3年度0件)発生した。要因として、入院患者の高齢化や離床動作に伴う転倒リスクの高い患者の増加、予見困難例の増加等があげられる。

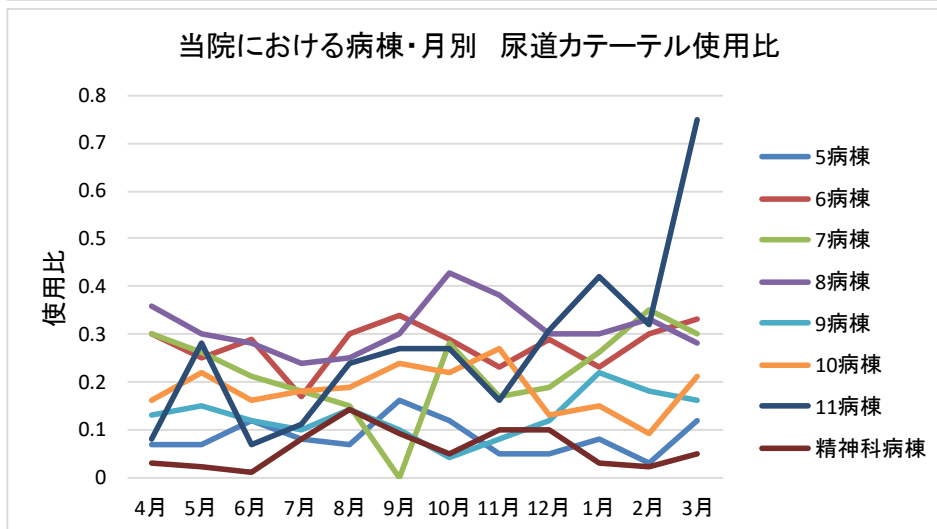
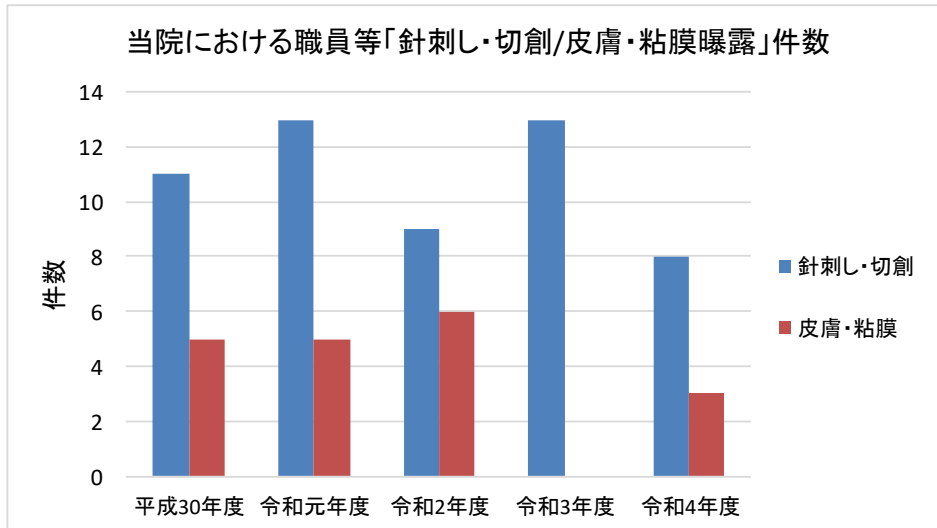
重大事例に結びつくと予測されるインシデントに関しては、関係部署と共同し対策を検討した。それにより、CO2チェッカーを導入した経鼻胃栄養チューブ挿入マニュアルの改訂、CT検査問診票の改訂、採血を受ける方への注意事項の説明ポスターの作成等の取り組みを行った。

(2) 今後の課題

インシデントレポートの情報共有によるPDCAサイクル活動を推進させ、他部門との連携やワーキンググループ活動の小集団活動を強化した医療安全活動を行っていく。

10. 感染制御室

1. 臨床統計



*7病棟:9月、11病棟:4月～3月は新型コロナウイルス感染症対策にて一般患者受入なし

2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

従来の感染対策中心のICT活動と抗菌薬適正使用支援に関するAST活動の取り組みを行っています。

ICT活動においては、病棟や外来、コメディカル部門を含む各部署の週1回以上のラウンドや院内外からの感染対策等に関する相談、指導を行っています。

AST活動においては、感染症専門医や抗菌薬化学療法認定薬剤師他、3名の薬剤師、臨床検査技師、感染管理認定看護師を中心に抗菌薬長期投与患者や血液培養陽性患者等のカンファレンスを電子カルテに記録し、主治医に抗菌薬投与について検討して頂いています。

また、新型コロナウイルス感染症の医療・検査医療機関として体制整備・運営(診療場所の確保、検査体制の整備、入院患者の受け入れ)を行い、感染対策(マニュアル作成・改訂、個人防護具着脱練習、標準予防策についての研修等)の徹底を行いました。

地域の医療機関や施設等と新興感染症を想定した訓練やカンファレンスを行い、連携を図っています。

(2) 今後の課題

ICT活動とAST活動の共同と専門性をすすめ、感染対策並びに感染症診療を患者さんの療養に役立てたいと考えています。

職員の職業感染防止対策として、流行性ウイルス疾患のワクチン接種をすすめ、医療従事者から患者さんへの罹患を防止し、併せて標準予防策の徹底と経路別予防策の周知を行い、院内感染の発生を防止する必要があると考えています。

また、地域の基幹病院としてカンファレンス等を行いながら、支援や指導的役割を担っていきます。

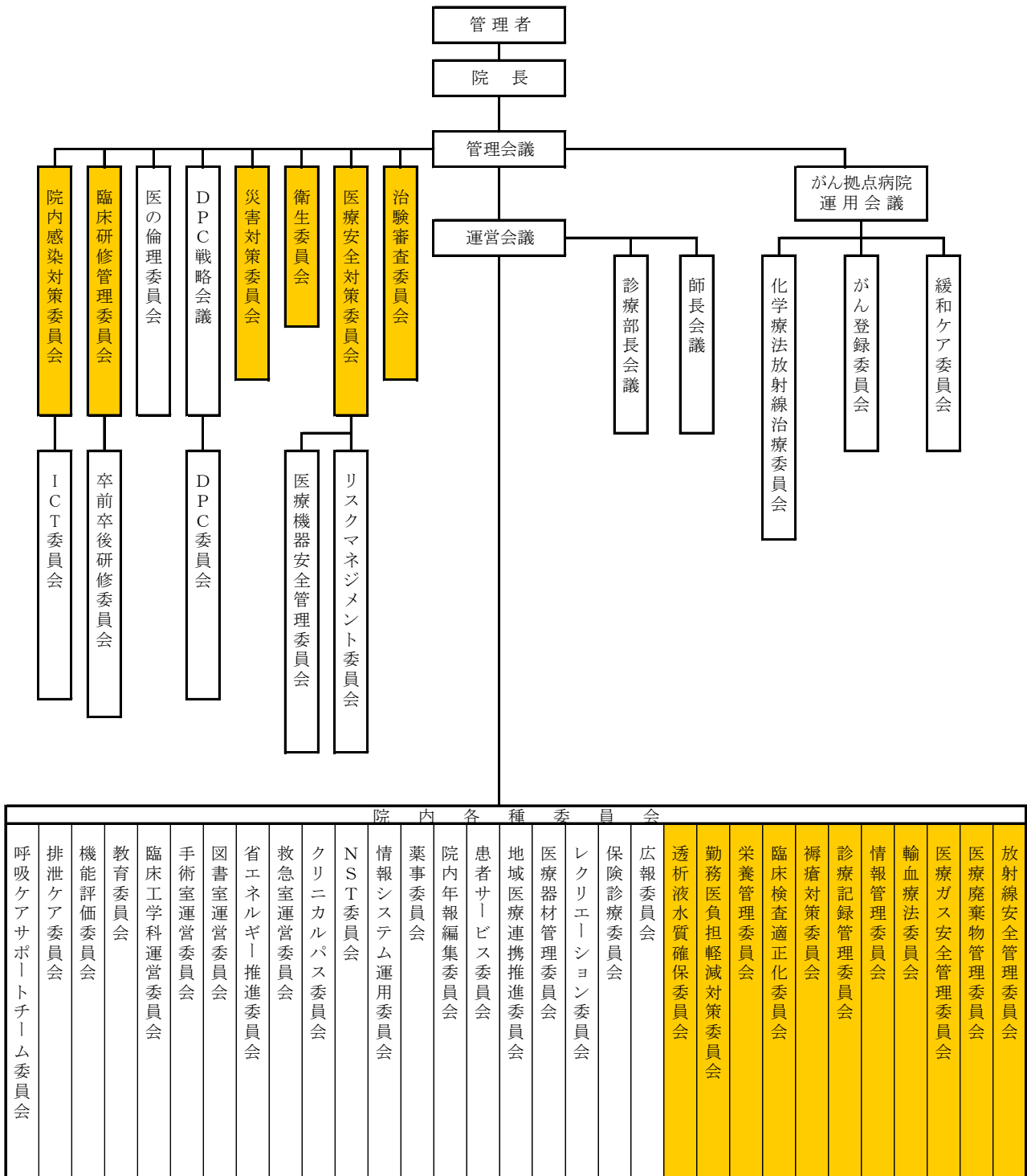
3. 学会発表等

(1) 講演・論文発表等

項目	内容
① 年月日	令和5年2月1日
② 講演会名 または掲載誌名	院内感染対策研修会
③ 演題	抗菌薬を大切に使うには？-セファロスポリン、マクロライド、キノロン-
④ 発表者	中居肇

Ⅲ. 各委員会等報告

令和4年度 大館市立総合病院 院内委員会等機構図



(※網掛は、設置義務が法令等に定められている委員会)

1. 医療安全対策委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

医療上の事故防止対策の推進及び事故防止の徹底を図る。

(2) 委員会開催記録

回	開催日	内容
1	令和4年4月22日	<ul style="list-style-type: none">・今期の事故報道から・「麻薬マニュアル」の改定について・令和3年度地域連携相互ラウンド報告
2	令和4年5月27日	<ul style="list-style-type: none">・今期の事故報道から・令和4年度医療安全行動目標について・「経鼻胃栄養チューブ」手順について
3	令和4年6月28日	<ul style="list-style-type: none">・今期の事故報道から・「研修医が単独で行ってよい処置・処方基準」について・救急カート常備薬の一部変更について
4	令和4年7月22日	<ul style="list-style-type: none">・今期の事故報道から・院外処方箋疑義照会状況について
5	令和4年8月26日	<ul style="list-style-type: none">・今期の事故報道から・CT追加画像の取り決めについて
6	令和4年9月30日	<ul style="list-style-type: none">・今期の事故報道から・採血による症状(痛み・しびれ等)を訴えた患者さんへの対応について・外来受診時の呼び出し方法について(氏名呼び出しから番号呼び出しへの変更)
7	令和4年10月21日	<ul style="list-style-type: none">・今期の事故報道から・「電動車イス」の院内使用に関してのお願いについて・救急外来での採血検体の取り扱い(患者誤認防止)について・手術前の禁煙パンフレットについて
8	令和4年11月25日	<ul style="list-style-type: none">・今期の事故報道から・手術に関する説明兼同意書(中心静脈ポート造設術)の改定について・「コンファーム・ナウ」の使用時の注意点について
9	令和4年12月23日	<ul style="list-style-type: none">・今期の事故報道から・「経鼻胃栄養チューブ挿入マニュアル」改訂(案)について・医療安全マニュアル「研修医が単独で行ってよい処置・処方基準」の改訂(案)について

回	開催日	内容
10	令和5年1月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・今期の事故報道から ・「経鼻胃栄養チューブ挿入マニュアル」改訂(案)について ・供給制限によるカリウム製剤の仕様変更について ・「CVポートのメーカー自主回収について」
11	令和5年2月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・今期の事故報道から ・リブレ装着患者の手術時の対応について ・CVポート(上腕アプローチリザーバーシステム)の新規採用について ・「経鼻胃栄養チューブ挿入マニュアル」改訂(案)について
12	令和5年3月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・今期の事故報道から ・「静脈血栓塞栓症(VTE)予防マニュアル」総論の改訂について ・令和4年度第1回医療安全研修「自部署で取り組んだ医療安全と評価」の受講状況とアンケート結果報告

(3) マニュアル類の整備

- ・ 研修医教育(令和4年12月改訂)
- ・ 経鼻胃栄養チューブ挿入マニュアル・補遺・「経管栄養」のご説明(令和5年2月改訂)
- ・ 「電動車イス」の院内使用に関してのお願い(令和4年10月改訂)
- ・ 「患者が通名の使用を希望した場合の取り扱い」(令和4年6月作成)

(4) 医療安全通信発行

- No.81 令和4年8月3日
No.82 令和5年3月28日

2. 院内医療安全研修会

【全職員対象】

- 1) 「自部署で取り組んだ医療安全と評価」 (令和5年2月1日～2月28日eラーニング閲覧)
- 2) 「忙しすぎる医療従事者のためのハラスメント防止対策」
(令和5年3月15日 Zoomによる集合研修、令和5年3月18日～3月31日eラーニング閲覧)

【その他の研修会】

- 1) 新入職者研修「インシデントレポートについて」 (令和4年4月5日)
- 2) 医薬品の安全管理のための研修「麻薬の管理について」 (令和4年4月18日)

2. リスクマネジメント委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

ヒヤリハット事例報告(インシデントレポート)等を通じて、医療安全についての職員の啓発及び教育・指導を行うことで医療上の事故防止に資する。

(2) 委員会開催記録

回	開催日	内容
1	令和4年4月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・新リスクマネージャー紹介 ・令和3年度3月レポートの分析と表彰 ・令和3年度インシデントレポート集計報告
2	令和4年5月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度4月レポートの分析と表彰 ・最近のインシデントレポートより ・令和4年度医療安全部署目標・ラウンドチーム目標報告 ・研修案内:6月(全4回)医療機器トレーニング・ラボ
3	令和4年6月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度5月レポートの分析と表彰 ・最近のインシデントレポートより ・ラウンドチームの目標・活動計画の報告 ・令和4年度医療安全行動目標「クロスモニタリング」について ・研修案内:7月(全3回)放射線安全月間研修
4	令和4年7月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度6月レポートの分析と表彰 ・最近のインシデントレポートより ・「患者が通名の登録を希望した場合の取り扱い」について ・カラーシリンジの運用基準(案)
5	令和4年8月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度7月レポートの分析と表彰
6	令和4年9月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度8月レポートの分析と表彰 ・最近のインシデントレポートより ・同意書の書式変更・注意点について(「同意しません」の追加)
7	令和4年10月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度9月レポートの分析と表彰 ・最近のインシデントレポート報告より ・研修説明:第1回医療安全研修「自部署で取り組む医療安全と評価」について
8	令和4年11月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度10月レポートの分析と表彰 ・最近のインシデントレポートより ・ラウンドチーム中間評価報告
9	令和4年12月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度11月レポートの分析と表彰 ・最近のインシデントレポートより ・病棟ラウンド結果報告 ・研修案内:医療安全研修「麻薬の管理」

回	開催日	内容
10	令和5年1月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度12月レポートの分析と表彰 ・最近のインシデントレポートより ・研修案内: 第1回医療安全研修「自部署で取り組む医療安全と評価」について
11	令和5年2月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度1月レポートの分析と表彰 ・最近のインシデントレポートより ・薬剤ワーキンググループより「簡易懸濁法」について
12	令和5年3月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度2月レポートの分析と表彰 ・最近のインシデントレポートより ・令和4年度医療安全部署目標評価、ラウンドチーム活動報告 ・研修案内: 令和4年度第2回医療安全研修「忙しすぎる医療従事者のためのハラスメント対策」について

2. 表彰事業

(1) インシデントレポート月間賞

4月 — 臨床研修センター	10月 — 臨床検査科
5月 — 10病棟	11月 — 10病棟
6月 — 10病棟	12月 — 臨床研修センター
7月 — 10病棟	1月 — 臨床研修センター
8月 — 10病棟	2月 — 臨床研修センター
9月 — 臨床研修センター	3月 — 臨床研修センター

(2) 特別功労賞(インシデントレポート提出数年間最多)

10病棟(246件、部署提出比率:82.8%)

3. 医療機器安全管理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

院内の医療機器の安全管理を図り、患者の安全を確保するために、必要な対応を図る。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和4年6月15日	・新委員の任命について ・ME機器運用状況 ・医療機器の消耗品納品遅れについて(人工呼吸器、AED)
2	令和4年7月20日	・ME機器運用状況 ・新型輸液ポンプ導入の準備について ・医療機器の消耗品納品遅れ継続中について
3	令和4年9月21日	・ME機器運用状況 ・老朽化透析患者監視装置の不具合について ・生体情報モニタ、病棟電波強度測定について
4	令和4年10月19日	・中止(資料配布) ・ME機器運用状況 ・院内電機設備点検による作業停電について
5	令和4年11月16日	・ME機器運用状況 ・生体情報モニタの統一について ・森田泌尿器科休院の影響について
6	令和4年12月21日	・ME機器運用状況 ・生体情報モニタ電波について ・特定保守管理医療機器の保守管理について
7	令和5年1月18日	・中止(資料配布) ・ME機器運用状況 ・森田患者受入れ後の業務について
8	令和5年2月15日	・中止(資料配布) ・ME機器運用状況 ・特定保守管理医療機器について
9	令和5年3月15日	・ME機器運用状況 ・新型輸液ポンプTE-28型運用開始について

(3) 活動要約

- ・各種ME機器の不具合について検証を行った。
- ・社会情勢による医療機器消耗品の納入遅れについて対策を講じた。
- ・老朽化機器の対応について協議した。
- ・新型輸液ポンプの導入、全機について切り替えを行った。
- ・森田泌尿器科休院での患者受け入れ体制を整えた。
- ・森田泌尿器科休院での機器保守点検体制を整えた。
- ・特定保守管理機器の保守管理についてチェック方法の統一を図った。

4. 院内感染対策委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

院内における微生物の感染を積極的に防止し、院内衛生管理の万全を期す。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和4年4月4日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(9病棟) ②案件 ・ICTラウンドチェックリストに関して
2	令和4年5月2日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(8病棟) ②案件 なし
3	令和4年6月6日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(7病棟) ②案件 なし
4	令和4年7月4日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(6病棟) ②案件 なし
5	令和4年8月1日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(5病棟) ②案件 ・院内感染対策マニュアル「IX. 針刺し・切創・皮膚・粘膜曝露時の対応と防止対策」の更新について
6	令和4年9月5日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(10病棟) ②案件 なし

回	開催日	内 容
7	令和4年10月3日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(人工透析室) ②案件 ・院内感染防止対策に関する取組事項に関して
8	令和4年11月7日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(神経精神科病棟) ②案件 なし
9	令和4年12月5日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(手術室) ②案件 ・開封済み医薬品(インフルエンザワクチン含む)の再利用について
10	令和5年1月6日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(9病棟) ②案件 なし
11	令和5年2月6日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(11病棟) ②案件 ・職員が発症した際に就業制限が必要な主な感染症一覧について ・院内感染対策マニュアル「X. 職員の健康管理」について
12	令和5年3月6日	①報告事項 ICT委員会から ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(5病棟) ②案件 ・MRSA月報の方向様式について

(2)活動要約

- ・ 委員会を定例的に開催し、ICT委員から、臨床検体から分離されたMRSAの検出状況や抗菌薬の使用届出状況等の報告を受け、増減を監視した。
- ・ 感染対策加算病院1の弘前大学医学部附属病院と相互ラウンドを行い、感染対策の取組みについて情報交換を図るとともに、他の連携病院ともカンファレンスを行なった。
- ・ 各種耐性菌や主要な菌のサーベイランスを行い、発生状況の監視を行なった。
- ・ ICTメンバーによる定期的な院内ラウンドの結果により、指摘事項や改善点を確認し、感染拡大防止に努めた。

5. ICT委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

感染制御チームを有し、患者並びに職員への院内における病原体からの感染制御を行う。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和4年4月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(8病棟) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(2022年度予算要求の図書等) ・検討事項①診療報酬改定による感染防止対策加算に関して <ul style="list-style-type: none"> ②2022年度ICT合同カンファレンス ③2022年度地域連携相互ラウンド ④感染対策向上加算Ⅰについて ⑤増大する業務に対応するため事務職1名配置 ⑥会計年度任用職員の薬剤師一人増員について
2	令和4年5月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(7病棟) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(2022年度ICT合同カンファレンス等) ・検討事項①2022年度ICT合同カンファレンス <ul style="list-style-type: none"> ②2022年度地域連携相互ラウンド ・検討事項①診療報酬改定による加算の内容変更に関して
3	令和4年6月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(6病棟) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(2022年度ICT合同カンファレンス等) ・検討事項①2022年度ICT合同カンファレンス <ul style="list-style-type: none"> ②2022年度院内感染対策研修会 ③病院だより
4	令和4年7月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(5病棟) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(2022年度ICT合同カンファレンス等) ・検討事項①2022年度合同カンファレンス <ul style="list-style-type: none"> ②2022年度院内感染対策研修会 ③地域連携相互ラウンド
5	令和4年8月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(10病棟) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(2022年度ICT合同カンファレンス等) ・検討事項①2022年度院内感染対策研修会 <ul style="list-style-type: none"> ②地域連携相互ラウンドの日程について

回	開催日	内 容
6	令和4年9月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(人工透析室) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(2022年度ICT合同カンファレンス等)
7	令和4年10月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(神経精神科病棟) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(2022年度ICT合同カンファレンス等)
8	令和4年11月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(手術室) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(2022年度ICT合同カンファレンス等) ・検討事項①2022年度合同カンファレンス ②2023年度の予算要求
9	令和4年12月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(9病棟) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(2022年度ICT合同カンファレンス等) ・検討事項①2022年度の2回目の院内感染対策研修会
10	令和5年1月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(11病棟) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(穿刺および開封後の使用期限等) ・検討事項①2022年度の2回目の院内感染対策研修会 ②ICTコンサルテーション用紙について
11	令和5年2月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(5病棟) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(穿刺および開封後の使用期限等) ・検討事項①院内感染対策マニュアル ②2022年度の2回目の院内感染対策研修会
12	令和5年3月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(8病棟) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(院内感染対策研修会等) ・検討事項①2023年度の各委員会などスケジュール ②2023年度ICT合同カンファレンス日程・内容 ③指導強化加算(連携施設への4回以上/年赴き、院内感染対策に関する助言を行う)について

(3)活動要約

- 院内の感染制御を目的として、毎月定例の委員会を開催するとともにICT委員会の前にラウンドを行った。
- MRSAの検出状況や指定抗菌薬使用届提出状況、耐性菌サーベイランスの報告を受け、主要な菌の発生抑制に努めた。
- 感染対策連携病院の相互ラウンドと4病院合同カンファレンスを行い、委員会活動や、感染防止についての情報交換を行った。
- ICTの下部組織としてASTを設置、平成29年度より活動を開始した。

6. 臨床研修管理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

- ① 研修プログラムに係る基本方針の決定及び作成に関すること。
- ② 研修プログラムの実施に係る総合的な調整に関すること。
- ③ 研修医の管理に関すること。
- ④ 研修の評価に関すること。
- ⑤ 研修医の採用・中断・修了の際の評価に関すること。
- ⑥ その他臨床研修及び研修医の重要事項に関すること。

(2) 委員会活動記録等

月 日	内 容	場 所
令和4年5月12日	秋田県合同病院説明会	オンライン
令和4年5月23日	秋田県臨床研修協議会第1回定例会	オンライン
令和4年6月1日	臨床研修医マッチング願書受付開始	
令和4年6月4日	青森県医師臨床研修病院合同説明会	オンライン
令和4年6月9日	臨床研修医マッチング参加登録開始	
令和4年7月7日	秋田県臨床研修医ワークショップ	オンライン
令和4年10月27日	令和4年度臨床研修マッチング結果発表	
令和4年11月18日	第2回秋田県臨床研修協議会	オンライン
令和4年11月25日	レジデントスキルアップキャンプ	オンライン
令和5年1月30日	第1回臨床研修管理委員会	当院
令和5年2月3日	秋田県合同病院説明会	オンライン
令和5年2月28日	第2回臨床研修管理委員会	当院
令和5年3月2日	臨床研修医修了証書交付式	当院
令和5年3月16日	第3回臨床研修管理委員会	当院
令和5年3月22日	第3回秋田県臨床研修協議会	オンライン

(3) 令和4年度臨床研修医の研修状況

- ・大館市立総合病院プログラム9 9名 (弘前大学9名)
- ・大館市立総合病院プログラム10 7名 (弘前大学7名)

(4)委員会開催記録等

回	開催日	内 容
1	令和5年1月30日	<ul style="list-style-type: none">・年間スケジュール・研修医の研修状況について・他医療機関の研修医受入れ状況について・令和5年度研修開始 臨床研修医募集要項について・令和5年度開始臨床研修医のマッチング結果について・研修進捗状況について・研修評価結果について・インシデントレポートの提出状況について・研修医との面談について
2	令和5年2月28日	<ul style="list-style-type: none">・令和6年度研修開始 臨床研修医募集要項について
3	令和5年3月16日	<ul style="list-style-type: none">・経過報告・令和5年度臨床研修医(大館市立総合病院卒後臨床研修プログラム①)の採用予定について・令和5年度研修医ローテート(案)について・臨床研修医の研修修了について・ベスト研修医賞について

7. 卒前卒後研修委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

- ① 卒前研修に関する事項
- ② 卒後初期研修に関する事項
- ③ 卒後後期研修に関する事項
- ④ その他必要と認められる事項

(2) 委員会開催記録等

月 日	回数	主な検討内容
令和5年1月26日	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業予定等について ・病院見学、卒前研修・実習受け入れ状況 ・令和4年度臨床研修医の研修スケジュールについて ・研修医の院内委員会割り当てについて ・他医療機関の研修医受け入れ状況について ・令和5年度研修開始 臨床研修医募集要項について ・令和4年度開始臨床研修医のマッチング結果について ・研修進捗状況について ・研修評価結果について ・インシデントレポートの提出状況について ・研修医との面談について
令和5年2月7日	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度研修開始 臨床研修医募集要項について
令和5年3月14日	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・卒前研修及び実習実績について ・令和5年度の初期臨床研修医(大館市立総合病院卒後臨床研修プログラム^⑩)の採用予定について ・研修ローテーション(案)について ・令和5年度臨床研修医オリエンテーション(案)について ・臨床研修医研修修了の評価について ・ベスト研修医賞の選出について

(3) 主な活動内容等

- ① 研修医募集のための取り組みについて
 - ・臨床研修パンフレットのリニューアル
 - ・単独病院説明会の実施
 - ・卒前研修受け入れ態勢の整備
- ② 病院実習の受け入れについて
 - ・受け入れ科及び受け入れ部門の確認、受け入れ可能人員の調整

8. 医の倫理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 目的

医の倫理委員会は、大館市立総合病院における医の倫理に関する事項を「ジュネーブ宣言」、「ヘルシンキ宣言」および「リスボン宣言」等の趣旨に沿って、審議・方針決定することを目的とする。また、この目的に基づき、次の任務を行う。

- ① 医の倫理のあり方についての必要事項を調査、審議し、方針を決定する。
- ② 臨床応用または臨床研究の実施責任者から申請された実施計画の内容及びその成果の公表に関して審議し、意見を述べ、指針を与える。

(2) 活動内容

○委員会

回	開催日	内 容
1	令和4年5月19日	①妊娠高血圧症候群の重症化予知マーカーの探索(承認) ②膵臓と内臓脂肪・サルコペニアの関連に関する多施設後ろ向き研究－秋田県内の11のがん診療連携拠点病院での検討－(承認)
2	令和4年11月17日	①北東北で冬期間に外来放射線治療法をうけるがん患者の主観的QOL(承認) ②当院における経口GLP-1受容体作動薬セマグルチド投与症例の検討(承認) ③糖尿病サポーター制度を利用した高齢者へisCGM使用報告(承認) ④当院における脂質管理状況と頸動脈エコーの関連についての検討(承認) ⑤当院における週1回投与GLP-1受容体作動薬セマグルチド投与症例の検討(承認)

○委員長の専決とし承認した案件

	指針日	内 容
1	令和4年3月29日	①日本整形外科学会レジストリー(JOANR)構築に関する研究(承認)
2	令和4年4月19日	①薬剤師が取り組むHBV活性予防への取り組み(承認)
3	令和4年4月19日	①血液培養陽性時の抗菌薬使用におけるPK-PD理論に基づいた薬剤師の介入(承認)
4	令和4年7月29日	①タスク・シフト/シェアを推進するための糖尿病患者における自己注射指導(承認)
5	令和4年9月16日	①腰部脊柱管狭窄症におけるEuroQol-5dimensionsとRating Scaleによる効用値の特性(承認)
6	令和4年9月22日	①HER2陽性患者におけるニボルマブの有効性の検討(承認)

(3) 活動要約

- ・ 令和4年度は、臨床研究等の申請が13件提出され、当院の臨床研究の倫理指針に基づき審議を行い、承認が16件であった。
- ・ 患者の意向を尊重した意思決定のためのガイドライン等について、医学的、倫理的、社会的な面から審議し承認した。

9. DPC委員会

1. 委員会活動記録

(1) 目的

DPC対象病院として、DPC-PDPSに関する業務の適切な運営を図り、病院経営の適正化と業務改善を目指すためDPC戦略会議を設置する。また、その下部組織としてDPC委員会を設置する。

(2) 活動記録

適切なコーディングに関する委員会

第1回(令和4年4月27日)

第2回(令和4年9月28日)

第3回(令和4年12月26日)

第4回(令和5年2月28日)

10. 災害対策委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

災害予防対策その他の施策を審議する。

(2) 活動内容

災害対策委員会は、地域災害拠点病院として災害時に予想される事案を念頭に置いて、トリアージ訓練等の災害訓練や避難訓練の実施、災害対策マニュアルの検討・作成を行っている。今年度もトリアージ訓練は新型コロナウイルス感染状況を考慮し実施せず、消防避難訓練のみ実施した。

(3) 委員会開催記録

なし

(4) 消防訓練等記録

実施回数	実施日	訓練内容
第1回	令和4年12月7日	消防避難訓練(栄養科)

11. 衛生委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

職員の安全衛生に関する重要事項を調査審議し、院長に意見を具申する。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和4年4月25日	・令和4年度衛生委員会委員について ・令和4年度職場巡視予定について ・前期職員健診日程について ・職員の時間外勤務時間について
2	令和4年5月23日	・ラウンド(第9病棟) ・職員胃検診について ・前期職員健診について ・職員の時間外勤務時間について
3	令和4年6月27日	・ラウンド(第8病棟) ・喫煙率調査について ・ストレスチェックについて ・職員の時間外勤務時間について ・職員の被ばく線量について
4	令和4年7月25日	・ラウンド(整形外科・リハビリテーション科) ・Tスポット検査結果について・ 抗体価検査結果について ・院内研修会について ・職員の時間外勤務時間について ・職員の被ばく線量について
5	令和4年8月22日	・ラウンド(第6病棟※中止) ・ストレスチェックについて ・生活習慣病研修 会について ・職員の時間外勤務時間について ・職員の被ばく線量に ついて
6	令和4年9月26日	・ラウンド(外科・呼吸器外科・皮膚科・小児科) ・喫煙率調査結果につい て ・生活習慣病研修会について ・職員の時間外勤務時間について ・職員の被ばく線量について
7	令和4年10月12日	・職員のインフルエンザワクチン接種について ・後期職員健診について ・ストレスチェック経過報告について ・職員の時間外勤務時間について ・職員の被ばく線量について
8	令和4年11月28日	・ラウンド(神経精神科病棟) ・職員のインフルエンザワクチン接種の報告 について ・後期職員健診について(日程変更) ・新規採用及び異動職 員のTスポット検査について ・職員の被ばく線量について ・職員の時間 外勤務時間について
9	12月	開催中止
10	令和5年1月31日	・ラウンド(消血腫内科・化学療法室・放射線科) ・後期職員健診について ・ストレスチェック結果について ・職員の時間外勤務時間について ・職員 の被ばく線量について
11	令和5年2月27日	・ラウンド(第5病棟) ・メンタルヘルス研修会について ・職員の時間外勤 務時間について ・職員の被ばく線量について
12	令和5年3月27日	・ラウンド(栄養科) ・喫煙率調査について ・令和5年度職員健診年間ス ケジュールについて ・令和5年度職場巡視について ・令和5年度委員について ・職員の時間 外勤務時間について ・職員の被ばく線量について

(3)活動要約

- 今年度の職員健診年間スケジュールに基づき、全職員(病気、出産休暇及び育児休業等の職員を除く)を対象とした健康診断を実施。
- 昨年度に引き続き職場巡視(ラウンド)を実施。要改善点等を所属長へ報告し、改善を促した。
- 職員(委託職員等含む)の喫煙率調査を実施。喫煙率は9.77%(81人)で、前年度より0.1%上昇した。
- 職員(委託職員等含む)インフルエンザワクチン予防接種を881人に実施。
- 生活習慣病研修会を開催し、職員の健康意識の高揚を図った。

12. 放射線安全管理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

放射線障害の防止について、必要な事項を企画審議する。

(2) 委員会設置の意義

放射線治療で使用される高エネルギー放射線発生装置は、医療法とは別に放射線障害防止法(原子力規制委員会)の規制を受けています。この放射線障害防止法の中に「放射線安全委員会」の設置が義務づけられています。当院では名称を「放射線安全管理委員会」としております。また、当院では放射線治療の作業だけでなく、院内のすべての放射線作業に従事する職員の安全を確保する目的で放射線安全管理委員会を開催しています。

地域がん診療連携拠点病院の指定要件に「第三者機関による出力線量測定を行うなど、放射線治療の品質管理を行うこと。」とあり、そのなかに「放射線治療品質管理委員会の設置」が求められています。そこで当放射線安全管理委員会がこの放射線治療品質管理委員会も兼務しております。

(3) 令和4年度個人被ばく線量報告及び法令対応

実効線量	男	女	計	水晶体線量	男	女	計	皮ふ線量	男	女	計
5mSv以下	68	63	131	5mSv以下	68	63	131	150mSv以下	68	63	131
5<、≤20mSv	1	0	0	5<、≤20mSv	7	5	12	150<、≤500mSv	1	0	1
20<、≤50mSv	0	0	0	20<、≤50mSv	0	0	0	500mSv超える	0	0	0
50mSv超える	0	0	0	50mSv超える							

法令対応

令和4年5月16日 令和3年度 放射線管理状況報告書を原子力規制委員会に届出

(4) 委員会記録

回数	開催日	主な検討内容
第1回	令和4年5月16日	1. 令和4年度委員会名簿 2. 令和4年度職員被ばく線量報告書 3. PCI・心臓カテーテル検査における患者皮膚被ばく管理について 4. その他
第2回	令和5年2月13日	1. 放射線防護衣について 2. 令和4年度放射線業務従事者及び放射線施設管理状況報告 3. PCI・心臓カテーテル検査における皮膚観察について 4. その他

13. 医療廃棄物管理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

当院から排出される廃棄物の適正管理に必要な事項を企画審議する。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和5年3月10日	・廃棄物管理マニュアルの改正について ・廃棄物区分の変更について

(3) 活動要約

「廃棄物管理マニュアル」について委員会で内容を検討し、改正した。また、非感染性産業廃棄物(燃焼物)として区分していた廃棄物を事業系一般廃棄物に変更した。

廃棄物中間処理場の視察は、新型コロナ感染症拡大状況のため見送っている。来年度は感染状況を確認し、視察を検討することとした。

14. 医療ガス安全管理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

医療ガス(診察・治療等に使用する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医用圧縮空気、窒素等をいう。)設備の安全管理を図り、患者の安全を確保すること。

(2) 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	令和5年3月6日	・医療ガス保安講習会の報告(院内講習) ・医療ガス購入実績の報告 ・医療ガス機器点検報告

(3) 各種講習会

- ・院内医療ガス取扱い保安講習会(院内講習)
DVD閲覧による視聴講習 17名受講

15. 輸血療法委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

輸血療法や製剤管理運用の適正実施について検討する。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和4年4月26日	・血液製剤使用状況など
2	令和4年6月26日	・血液製剤使用状況など
3	令和4年9月14日	・血液製剤使用状況など
4	令和4年11月9日	・血液製剤使用状況など
5	令和5年1月25日	・血液製剤使用状況など
6	令和5年3月22日	・血液製剤使用状況など

(3) 活動要約

- ・輸血療法委員会は合計6回開催された。
 - ・輸血内部監査部会は院内のラウンドを2回行い、輸血が適切に行われるよう指導につとめた。
 - ・年間使用量はRBC 2652単位、FFP 178単位(120ml:1単位)、PC 6115単位、ALB 1963g であり、FFP/RBC比は0.07、ALB(g÷3)/RBC比は0.25であった。これは輸血適正使用加算(輸血管理料 I を算定する医療機関)の基準を満たしていた。
- ※適正仕様基準; FFP/RBC ≤ 0.8、ALB (g ÷ 3) / RBC ≤ 2

(4) 血液製剤使用状況

	2022年										2023年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
照射赤血球液	186	190	290	254	182	184	250	202	198	226	232	258	2,652	
新鮮凍結血漿	16	18	26	10	6	4	14	16	20	18	10	20	178	
照射濃厚血小板	430	400	640	580	590	695	480	660	470	330	410	430	6,115	
アルブミン製剤(g)	313	113	200	25	300	50	213	225	163	38	88	238	1,963	

(単位)

16. 診療記録管理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

診療情報管理業務の円滑な運営と個人情報保護の適切な管理を図るため、診療情報および診療録に関する管理と個人情報の管理に関する事項を検討する。

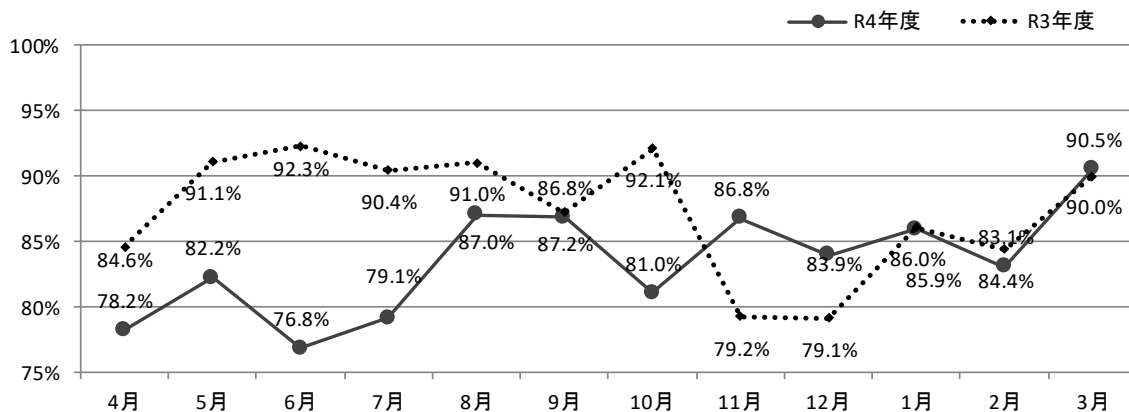
(2) 委員会開催記録

回	開催日	内容
1	令和4年5月26日	・退院サマリについて ・通名登録について ・R4年度診療録監査について
2	令和4年7月15日	・コ・メディカルの処方入力支援について
3	令和4年9月27日	・R4年度診療録廃棄について
4	令和4年11月28日	・診療科別コメントについて
5	令和5年1月23日	・R5年度診療録監査について
6	令和5年3月17日	・診療録監査について ・同意書の新規作成・変更について ・外来カルテ廃棄について ・通名登録について

(3) 活動要約

- ・退院時サマリー記載率報告
- ・診療録(質的・量的)監査結果報告
- ・診療記録記載マニュアル・診療記録管理規定の改正
- ・その他診療録等に関する事項の協議

(4) 退院後14日以内のサマリー記載率



17. 褥瘡対策委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

褥瘡対策に関する運営を適正に遂行する。

(2) 褥瘡対策委員会(定例委員会)

第1回委員会(4月15日) 第2回委員会(5月20日) 第3回委員会(6月17日)
 第4回委員会(7月15日) 第5回委員会(8月19日) 第6回研修会(9月16日)
 第7回委員会(10月21日) 第8回委員会(11月18日) 第9回委員会(12月16日)
 第10回委員会(1月22日) 第11回委員会(2月17日) 第12回委員会(3月17日)

※第4回から第7回の委員会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、資料の配付をもって開催とした。

(3) 褥瘡対策の体制整備

1. 褥瘡回診の実施

- ・毎週火曜日14時30分より褥瘡ハイリスク患者・褥瘡回診カンファレンスを開催。その後、15時より対象患者の褥瘡回診を行っている。
- ・褥瘡回診チームは、褥瘡対策の専任の医師・褥瘡管理者・専任看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、医師事務作業補助者、栄養サポートチームメンバーで構成する。
- ・褥瘡発生状況の把握、要因分析、対策を検討し現場へフィードバックしている。
- ・カンファレンスと褥瘡回診について記録する。
- ・D3以上の重度褥瘡発生について、病棟と褥瘡チームの合同カンファレンス実施。

	令和3年度 <small>(令和3年4月1日～令和4年3月31日)</small>	令和4年度 <small>(令和4年4月1日～令和5年3月31日)</small>
【院内褥瘡発生数報告】		
院内褥瘡発生数	106 件	114 件
院内褥瘡発生率	1.28%	1.40%

※院内褥瘡発生率 = 年間院内褥瘡発生数 / 年間実入院患者数

	令和3年度 <small>(令和3年4月1日～令和4年3月31日)</small>	令和4年度 <small>(令和4年4月1日～令和5年3月31日)</small>
【MDRPU(医療関連機器圧迫創傷)発生数報告】		
MDRPU発生数	51 件	64 件
MDRPU発生率	0.62%	0.79%

※MDRPU発生率 = 年間MDRPU発生数 / 年間実入院患者数

2. 褥瘡対策研修会の実施

- ・ラダー I 研修(全3回)

コロナウイルス感染拡大防止のためe-ラーニング研修を実施。

- ①令和5年1月11日～2月1日 テーマ「DESIGN-R2020」
- ②令和5年2月6日～2月28日 テーマ「褥瘡予防のための体位変換とポジショニング」
- ③令和5年3月6日～3月31日 テーマ「褥瘡に使用される外用薬について」、「褥瘡と栄養管理」

3. 体圧分散マットレスやポジショニング枕の積極的活用

患者の状態に応じて、褥瘡発生予防に重点を置いた褥瘡対策を実施している。
OHスケールを用いてリスクアセスメントし、対象に適した体圧分散寝具(ピュアレックス、ストレッチフィット、エバーフィットC3、エバープラウド、ラグーナ、オスカー、グランデ)やポジショニングピローを使用している。車椅子用クッションαプロも装備し、必要な患者に使用し予防に努めている。

4. 褥瘡ハイリスク患者ケア加算

褥瘡ハイリスク患者ケアとは、褥瘡予防・管理が難しく重点的な褥瘡ケアが必要な患者に対し、適切な褥瘡予防・治療のための予防治療計画に基づく総合的な褥瘡対策を行うことである。

	令和3年度 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)	令和4年度 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)
【算定数報告】		
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	1,141 件	1,092 件

(4) 地域貢献

- ・院外施設への褥瘡対策研修会の実施(皮膚・排泄ケア認定看護師)

18. 臨床検査適正化委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

臨床検査に関する管理、運営が適切に実施される事を目的とする。

(2) 活動内容

回	開催日	主要案件	新規試薬・診療材料承諾
1	令和4年 5月31日	名簿確認 令和3年度 秋田県臨床検査精度管理調査結果	生化学 LD 遠心機のチューブラック スクイズチューブ&滴下チップ 輸血 VISION用洗浄液 血液 インセパックII-D(血液採血管) 微生物 コパンUTM3ml
2	7月	新型コロナウイルス感染症感染拡大のため書面開催とする	病理 ポリプロピレン染色バット 10枚用 生化学 免疫測定装置e801用消耗品 3件 スクイズチューブ&滴下チップ
3	令和4年 9月29日	採血時記録用紙について 検査項目変更申請 生化学 血中セレン	病理 ヘモグロビンF抗体 サイトケラチン(CAM5.2)抗体 カルレチニン抗体 プレアルブミン抗体 生化学 MSカップ
4	令和4年 12月2日	令和4年度 日臨技臨床検査精度管理調査結果	微生物 トリプトソイブイオン培地 ネオ綿棒2号 病理 CD68抗体 自動免疫染色装置専用試薬 9件 Jキャップ 自動免疫染色装置専用消耗品11件
5	令和5年 1月13日	委員会の開催回数について	洗浄室 6%ピューラックス 病理 CD8抗体 CD15抗体

(3) 活動要約

- ・令和4年度は臨床検査適正化委員会を5回開催した。
- ・新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、第2回は書面開催となった。
- ・外部精度管理(日本臨床衛生検査技師会、秋田県臨床衛生検査技師会、日本医師会)に参加。
- ・今年度は採血管などで入荷出来ないものがあり、代替品で対応している。
- ・採血時に異常があった患者の様子を記入する用紙を作成し、運用を開始した。
- ・病理検査の免疫染色装置が機器更新となったが、消耗品類が揃わず稼働が遅れる。
- ・今後、委員会を年6回開催するのではなく、審議事項があった場合に開催するようにする。

(4) 外部精度管理の動向

	令和4年度 件数 (%)	令和3年度 件数 (%)	令和2年度 件数 (%)	令和元年度 件数 (%)	平成30年度 件数 (%)
日本臨床衛生検査技師会					
項目数	247	244	232	224	211
評価 A+B (○)	243 (98.4)	241 (99.8)	231 (99.6)	222 (99.1)	207 (98.1)
評価 C (△)	0	0	0	0	1 (0.5)
評価 D (×)	4 (1.6)	3 (1.2)	1 (0.4)	2 (0.9)	3 (1.4)
秋田県臨床衛生検査技師会					
項目数	149	148	143	142	146
評価 A+B (○)	146 (98.0)	140 (94.6)	142 (99.3)	137 (96.5)	144 (98.6)
評価 C (△)	0	1 (0.7)	0	1 (0.7)	0
評価 D (×)	3 (2.0)	7 (4.7)	1 (0.7)	4 (2.8)	2 (1.4)
日本医師会					
項目数	49	49	49	49	43
総合評点	94.4	95.6	96.2	95.9	95.1
評価 D (×)	0	0	0	1	0

19. 栄養管理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

給食業務の改善・向上並びに患者の栄養管理の徹底等、疾病治療を促進するための病院給食に関する基本的な事項を協議する。

(2) 委員会開催記録

回	開催日	内容
1	令和4年5月25日	<ol style="list-style-type: none">1. 大腸検査食の変更2. 日本食品標準成分表2020版(8訂)の改訂ポイント3. 約束食事箋の改定4. R4年度 栄養科体制5. 委託業務について6. 給食業務内容の見直し7. R4年度 第1回嗜好調査結果8. その他
2	令和4年11月30日	<ol style="list-style-type: none">1. R4年度 第2回、3回嗜好調査結果2. 委託会社の感染報告3. 業務移行後について4. 食事のコメント対応5. R5年度秋田県病院給食協議会第74回総会の当番について6. その他
3	令和5年3月3日	<ol style="list-style-type: none">1. R4年度 第4回嗜好調査結果2. R4年度 嗜好調査まとめ3. 食材費について4. 食事のコメント対応5. R5年度秋田県病院給食協議会第74回総会の当番について6. 食種変更、栄養指導依頼について7. その他

20. 勤務医負担軽減対策委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

勤務医の負担軽減計画等に関する事項を協議し、医師の処遇改善を図る。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和4年9月21日	・令和4年度勤務医負担軽減計画の見直しについて ・看護職員に対する負担軽減計画(令和4年度)の見直しについて ・その他
2	令和5年1月25日	・医師の働き方改革について ・その他

(3) 活動要約

○令和4年度の勤務医負担軽減計画の見直し等

・医師に「労働時間管理方法」、「宿日直許可の有無を踏まえた時間管理」、「医師の研鑽の労働時間該当性を明確化するための手続き等」、「労使の話し合い、36協定の締結」、「衛生委員会、産業医等の活用、面接指導の実施体制」、「追加的健康確保措置の実施」の働き方改革関連の項目を追加。

・薬剤師による処方代行入力支援プロトコルを運用。

○令和5年度の医師労働時間短縮計画の策定

・労働時間と組織管理に関して「労務管理・健康管理」「意識改革・啓発」、労働時間短縮に向けた取組に「タスク・シフト/シェア」を大項目にした計画を策定。

○看護職員に対する負担軽減計画の見直し等

・連携病院等とのカンファレンス、地域連携相互ラウンドの日程調整、事務連絡、議事録作成を患者サポートセンターで実施。

21. 透析液水質確保委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

関連学会が示す基準に基づく透析液の水質管理を適切に実施することで、透析患者により良い血液透析を提供する。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和5年4月28日	・委員の確認 ・水質検査報告 ・生菌検査のカビについて・委員の役割について
2	令和5年5月26日	・水質検査報告 ・今年度の活動計画 ・透析患者監視装置の老朽化による不具合について
3	令和5年6月30日	・水質検査報告 ・透析患者監視装置の不具合について ・透析液全カ所検査について
4	書面配布	・全個所水質検査報告 ・全個所水質検査結果への対応 ・人工透析室での新型コロナウイルス感染症対応について
5	令和5年8月25日	・水質検査報告 ・受水槽・高架水槽定期点検スケジュールについて
6	令和5年10月6日	・水質検査報告 ・作業停電スケジュールについて ・木製受水槽定期点検及び清掃作業報告・患者監視装置更新について
7	令和5年10月27日	・水質検査報告 ・森田泌尿器科休院への対応 ・更新機水質結果及びオンライン使用開始報告
8	令和5年11月24日	・水質検査報告 ・火木土2クール体制開始 ・連日2クールの影響について ・オーバーホール日程について
9	令和6年1月5日	・水質検査報告 ・透析液水質検査検体の前日採取について ・オーバーホール報告 ・機器点検記録について
10	令和6年1月26日	・水質検査報告 ・患者監視装置更新について ・今後の水質検査スケジュールについて
11	令和6年3月2日	・水質検査報告 ・来年度の透析液供給系装置の更新について ・森田泌尿器科受入れ患者のオンライン治療拡大について
12	令和6年3月23日	・水質検査報告 ・令和4年度の活動まとめ ・供給系装置の不具合対応について

(3) 活動要約

全般的に治療に影響が出るような水質汚染や機器トラブルは無く、安全で安定的な透析医療が提供できた。

例年どおりの3台のコンソールと個人用透析患者監視装置2台の更新を行い、オンライン治療の拡大及び新型コロナへの対応強化を行った。

供給系装置更新の準備を進めてきたが、来年度の更新が決定した。

森田泌尿器科の急な閉院に伴い、ほとんどの患者（40名）について受け入れを行い、連日の2クール体制を開始した。

森田泌尿器科からの受け入れ患者に対し、可能な限りon-line治療への移行を行い、より高度な治療の拡大を図ることができた。

最多で同時9名にも達した新型コロナ感染症患者及び濃厚接触患者の透析について、ゾーニングや時間的隔離を用いて対応し、感染拡大を防ぐことができた。

22. がん拠点病院運用会議

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

がん診療連携拠点病院として質の高いがん医療の提供を目指し、緩和ケア委員会、がん登録委員会、化学療法委員会の連携強化を図る。

(2) 活動内容

1. 緩和ケア研修会の開催

「大館市立総合病院緩和ケア研修2022」

開催場所 : 大館市立総合病院

開催日 : 令和4年11月5日(土)

修了者 : 15名(医師・歯科医師 7名、その他8名)

※ 参加者は集合研修前にeラーニングによりオンライン学習を1日受講する

※ 北秋田市民病院と共催で実施。実施運営は北秋田市民病院医師、看護師、患者サポートセンター及び緩和ケア委員会

2. がん診療市民医学講座

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況に鑑み、開催を見送った。

3. がん患者就労支援の取組み

令和元年12月24日、大館公共職業安定所と当院の間で「長期療養者就職支援事業実施協定」を締結。

●内容：大館公共職業安定所職員が総合病院に出張し、職業相談を実施するもの

※「長期療養者就労支援相談会」を月1回実施

4. 図書館連携の取組み

令和元年8月より、大館市立栗盛記念図書館内に「がん情報コーナー」を常設。

がんパンフレット(63種類)、がん関連書籍を展示するブースを設置し、定期的に補充している。

23. 化学療法放射線治療委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

本院で実施されるレジメンの有効性・安全性について評価し、その登録と管理を行う。化学療法と放射線療法の質と安全性の向上をはかり、適切な治療の実施を推進する。

(2) 活動内容

回	開催日	内容
1	令和4年6月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・新規レジメン登録について ・ホスネピツタント採用に伴う制吐療法の変更について ・外来栄養食事指導料の算定について

(3) 活動要約

令和4年度の化学療法放射線療法委員会は、計1回開催された。各科から申請された新規レジメン、変更レジメン、削除レジメンに関して審議・登録を行った。外来腫瘍化学療法診療料の算定状況の報告があり、経過措置期間が終了する2022年10月に向けて体制を整えるために協議を行った。ホスネピツタント採用に伴い、高度催吐リスクレジメンの制吐療法を変更することとなった。栄養科より2022年7月から外来化学療法室で外来栄養食事指導料の算定を開始することが報告された。

令和4年度新規登録レジメン数

科名	消血腫	小児	外科	産婦	耳鼻	泌尿	脳外	呼外	合計
第1回	1	0	5	2	0	0	0	0	8

科別登録レジメン数

科名	消血腫	小児	外科	産婦	耳鼻	泌尿	脳外	呼外	合計
登録数	123	1	46	29	17	28	2	42	288

24. がん登録委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

平成21年4月 地域がん診療連携拠点病院の指定を受けたことにより、必須事項となった院内がん登録体制の整備と円滑な運用を図る。施設におけるがん診療の実態を把握し、がん診療の質の向上とがん患者の支援を目指す。

(2) 活動要約

1. がん患者の受療状況の把握
2. がんに関する統計資料の作成
3. 予後調査、生存率の計測(国立がん研究センター「予後調査支援事業」協力)
4. 全国がん登録への届出(国立がん研究センター・秋田県がん登録室)
5. 院内がん登録全国集計への届出(国立がん研究センター)
6. 国立がん研究センター主催研修会、秋田県がん登録部会、東北がんネットワーク、その他研修会参加

(3) 令和4年度委員会開催記録

開催日	内容
令和5年2月14日	① 令和4年がん登録データ報告 ② 2015年5年相対生存率

(4) 令和4年度データ提出内容

回	提出日	データ内容	件数	提出先
1	令和4年6月27日	2011-10年予後調査支援事業	131	国立がん研究センター
2	令和4年7月28日	2010-10・2015-5年予後情報付データ	554+795	国立がん研究センター
3	令和4年7月28日	2021年拠点病院全国集計データ(1件あたり99項目登録)	857	国立がん研究センター「院内がん登録室」
4	令和4年7月28日	2021年全国がん登録データ(1件あたり26項目登録)	857	国立がん研究センター「全国がん登録室」
5	令和4年8月3日	2021年院内がん登録データ(1件あたり26項目)	857	秋田県総合保健事業団 疾病登録室
6	令和4年8月9日	2021年院内がん登録データ(1件あたり99項目登録)	857	秋田大学医学部附属病院腫瘍センター

※国立がん研究センターの指定により、データは年間の数値で提出している。

(5) 令和4年度研修会への参加

	開催日	研修名(参加人数)	場所
県外	令和4年9月15日	国立がん研究センター主催 がん登録実務中級認定者研修(1名)	当院(webサイトにて)
県外	令和4年9月20日	国立がん研究センター主催 がん登録実務中級認定者研修(1名)	当院(webサイトにて)
県外	令和4年11月16日	東北がんネットワーク主催 Zoom研修会(1名)	当院(webサイトにて)

(6) 当院のがん登録実務者の認定状況

中級:2名 初級:2名 (がん登録実務 中級2名)

(7) 電子カルテ更新によるがん登録システム変更について

令和3年11月1日より富士通がん登録システムに代わり、九州イシズシステムのがん登録システムを導入し、がん登録を開始、令和4年7月国立がん研究センターに令和3年分のデータを提出した。

(8) がん診療連携協議会PDCAサイクル評価(がん登録室)

※秋田県内のがん診療連携病院は、毎年協議会に目標と評価などを報告している(目標・実施・評価・改善)

Plan(評価項目)	Check(点検・評価)(I-IV)
1. がん登録実務者を育成・増員する	評価Ⅱ・中級実務者のがん登録の精度向上に努めた。がん登録実務者の増員は未定。
2. がん登録の精度を高める	評価Ⅲ・国がん中級実務者研修会・東北がんネットワーク研修会参加。
3. 当院がん登録データ解析	評価Ⅱ・イシズシステムでは使用できるテンプレートが少なかったため、ほとんど富士通システムを使用して各種統計を作成し解析した。

25. 緩和ケア委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

緩和ケア委員会は、がんと診断された方、これからがん治療を始める方、がん以外の疾患で治療中の方及びその家族が、がん等による身体や心などの様々なつらさを和らげ、豊かな人生を送ることができるように支えることを目的として活動している。また、当地域における緩和ケア発展を目的として、緩和ケアの啓発、緩和ケアの周知、新たな緩和ケアニーズの開拓等活動している。

(2) 活動内容

1. 定期委員会

毎月定期委員会を開催、各委員からの報告に基づき緩和ケアに関する情報共有を図るとともに、各委員より提示された緩和ケアに関する課題を協議・検討している。

I. 緩和ケア事例報告

緩和ケアチームの活動状況を委員内で共有するため、定期委員会において緩和ケア認定看護師による事例報告・事例検討を行い、緩和ケアの質の向上を図った。

II. 苦痛のスクリーニング実施報告

がん患者の身体的苦痛や精神的苦痛等を早期に把握し、苦痛の緩和に繋げることを目的として、各病棟において苦痛のスクリーニングを実施した。

2. 緩和ケアチームによる患者支援

I. 緩和ケアチーム介入

今年度は12月までに、外来10名、入院28名、計38名(実数)の依頼を受けており、緩和ケアチームでは、毎週緩和ケアカンファレンスを開催して支援方法を検討するとともに、身体的苦痛の緩和、精神的苦痛の緩和、在宅移行支援、意思決定支援、家族関係調整等、患者やその家族が抱える様々つらさや悩みに対する緩和ケアを実施した。

3. 研修会等の開催

I. 緩和ケア研修会2023の共催

がん診療連携拠点病院の指針に基づく地域の医療従事者向けの研修会であり、今年度は北秋田市民病院と共催した。

開催日：令和5年11月25日(金) 8:30～17:00

開催場所：北秋田市民病院 3階大会議室

参加者はe-learningによる事前学習を修了した上、上記のとおり開催された集合研修に参加した。当院からの参加者は13名(医師9名、看護師4名)。また、講師・ファシリテーターとして大石副院長、木村認定看護師、ファシリテーターとして高杉看護師長、三澤主任看護師が参加し、研修会を円滑かつ効率的に運営することができた。

II. 院内緩和ケア研修会

当院のがん診療体制、その他要件に関連する取り組みのために必要な人材の確保や育成を目的として、毎年度1回を目途に開催している。

①医療用ウィッグの勉強会

開催日：令和5年9月8日(金) 17:30～18:30

開催場所：大館市立総合病院 管理棟4階 第1会議室

演者：株式会社スヴェンソン

講義内容：『アピアランスケアってどうしたらいい?』

研修会参加者18名(薬剤師1名、看護師17名)。アピアランスケアへの理解を深めた。

②院内緩和ケア研修会2023

開催日 : 令和5年10月27日(金) 17:30 ~ 19:10

開催場所: 大館市立総合病院 管理棟4階 第1会議室

演者 : 秋田大学医学部附属病院地域医療患者支援センター 納富 理絵 先生

講義内容: 『遺伝性腫瘍と意思決定支援』

研修会参加者33名(医師2名、薬剤師3名、看護師24名、管理栄養士1名、理学療法士1名、その他職員2名)。講義及びグループワークを通じて、遺伝性腫瘍と意思決定支援の基礎を学んだ。

③大館市立総合病院口腔ケア研修会2023

開催日 : 令和5年11月15日(水) 17:30 ~ 19:00

開催場所: 大館市立総合病院 管理棟4階 第1会議室

演者 : 歯科口腔外科 鈴木 兼一郎 先生

講義内容: 『病棟や施設における口腔ケア』

研修会参加者21名(医師1名、歯科・口腔外科医1名、看護師18名、理学療法士1名)。口腔ケア・機能維持により、フレイル予防や全身疾患への予防に繋がることを学んだ。

Ⅲ. 地域住民向け講演会『もともと知ろう緩和ケア2023』活動

現在治療中の患者とその家族を対象とした講演会。緩和ケアをより知っていただくことを目的とし、緩和ケアの専門的知識を有する委員が、年1クール(計6回)を目安に開催している。

9月1日～9月15日 『緩和ケアって何?』・『家族のつらさを和らげよう』

9月16日～9月30日 『身体のつらさを和らげよう』・『医療用麻薬って何?』

10月1日～10月15日 『気持ちのつらさを和らげよう』・『がん療養における社会保障』

10月16日～10月31日 『がん患者の口腔ケア』・『がん療養における食事について』

11月1日～11月15日 『心不全の緩和ケア』・『がんリハビリテーションについて』

11月16日～11月30日 『放射線治療について』・『化学療法について』

今年度はコロナ禍のため対面での講演は控え、講義スライドを掲示して講演に代えた。

Ⅳ. 緩和ケア・教育研修部会

県内の苦痛のスクリーニング実施状況の確認等といった継続活動、拠点病院等の緩和ケアチーム間の連携強化を図るといった新規活動について推進を図るため、TVカンファレンスシステムにより行われた年2回の秋田県がん診療連携協議会 緩和ケア・教育研修部会へ出席した。また、緩和ケア・教育研修部会の取り組みとして下記の活動も行った。

①緩和ケアチームZoomカンファレンス

緩和ケアチームで秋田県緩和ケアチームZoomカンファレンスに参加し、症例検討を行った。

②緩和ケアマップの更新

『医療者が患者やその家族に対し常に地域の緩和ケア提供体制について情報提供できること』を目的として、緩和ケアマップを更新し、秋田大学医学部附属病院を通じて周知する体制を整えた。

4. 広報活動について

Ⅰ. 印刷物による広報活動

院内各所に緩和ケアポスターを掲示したほか、緩和ケアリーフレットを院内各部署に配置、印刷物による広報活動により緩和ケア普及を目指した。また、院外においては大館市立栗盛記念図書館へ緩和ケアリーフレット・冊子の設置する等して、広報に努めた。

Ⅱ. ホームページによる広報活動

病院ホームページを随時更新し、緩和ケア委員会の活動周知及び緩和ケア研修会等の広報に努めた。また、更新した緩和ケアマップについては、秋田大学医学部附属病院のホームページ等に掲載された。

Ⅲ. その他の広報活動

①緩和ケア研修会修了者の情報公開

北秋田市民病院と協力を得て、緩和ケア研修の修了者を秋田県健康福祉部健康づくり推進課へ報告し、患者へ情報公開できる体制を整えた。

5. その他の活動について

・ 緩和ケアマニュアルの改訂

今年度、緩和ケアマニュアルを見直しの上、これを改訂し、マニュアルを院内各部署へ配布した。

26. NST委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

患者さんの栄養評価及び栄養管理と、適切な栄養管理を行うことで合併症の予防や早期発見及び治療を行い、早期回復と社会復帰をサポートする。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容	NSTたより担当
1	令和4年4月22日	・昨年度活動報告 ・今年度活動計画(案) ・4月介入件数、科報告	
2	令和4年5月27日	・5月介入件数、科報告 ・今年度活動計画 ・カンファレンス、回診日変更について	栄養科
3	令和4年6月24日	・6月介入件数、科報告 ・NST経管スケジュール表改定について	9病棟
4	令和4年7月22日	感染対応のため中止(資料配布) ・7月介入件数、科報告	10病棟
5	令和4年8月26日	感染対応のため中止(資料配布) ・8月介入件数、科報告	11病棟
6	令和4年9月30日	感染対応のため中止(資料配布) ・9月介入件数、科報告	精神科病棟
7	令和4年10月28日	感染対応のため中止(資料配布) ・10月介入件数、科報告	医事課
8	令和4年11月25日	・11月介入件数、科報告 ・エネフリードオーダー時の注意点 *NST院内Web勉強会	薬剤科
9	令和4年12月23日	・12月介入件数、科報告 ・摂食機能件数報告 ・エンシュアの院内処方選択 ・NSTオーダー及びNST記録入力の仕方確認	リハビリテーション科
10	令和5年1月27日	・1月介入件数、科報告 ・摂食機能件数報告 ・NST回診後の情報共有、カルテ確認方法など	臨床検査科
11	令和5年2月24日	・2月介入件数、科報告 ・摂食機能件数報告 ・栄養サポートマニュアル:脂肪乳剤改定(案)	5病棟
12	令和5年3月24日	・3月介入件数、科報告 ・薬審～低セレン血症治療薬について ・栄養サポートマニュアル:介入の流れ改定(案)	6病棟

(3) 報告・体制整備

平成25年8月1日付で東北厚生局より、NST加算が受理され、活動を行っています。

NST回診メンバーは栄養に関する研修を修了した専任医師、専任看護師、専任薬剤師、専任管理栄養士を中心とし、歯科医師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、病棟看護師、管理栄養士等で構成されています。

令和元年7月より歯科医師もカンファレンス・回診に参加し歯科医師連携加算を算定しています。

褥瘡対策委員会と連携し、褥瘡ハイリスク患者への栄養評価、早期栄養介入を行っています。

令和2年度に摂食嚥下チームを立ち上げ摂食機能療法の取り組みを行っています。

今年度は感染対応あり委員会を7月～10月の期間を中止し資料配布、院内研修会はWebにて対応、カンファレンス・回診は予定通り実施しました。

(4) NSTたより発行

毎月NSTたよりを発行し、診療報酬改定、栄養素や栄養によって起こりうる疾患の対応など情報提供をしています。

(5) NST委員会研修会・勉強会等

○ 令和4年11月25日（院内Web勉強会）【会場参加12名】

「看護師がおさえておきたい口腔ケアの基本と実践」 歯科博士 松尾 浩一郎先生

「口腔ケアの実際と実践のコツ」 歯科衛生士 中田 悠先生

(6) 令和4年度NST介入数報告

診療科	介入件数
循環器内科	71
内分泌代謝神経内科	41
外科	115
呼吸器外科	2
整形外科	102
神経精神科	20
消化器血液腫瘍内科	38
耳鼻咽喉科	6
脳神経外科	29
産婦人科	1
泌尿器科	23
小児科	7
合計	455

栄養サポートチーム加算:382件、非加算:73件

歯科医師連携加算 :375件

摂食機能療法:112件

27. クリニカルパス委員会

1. 委員会活動記録

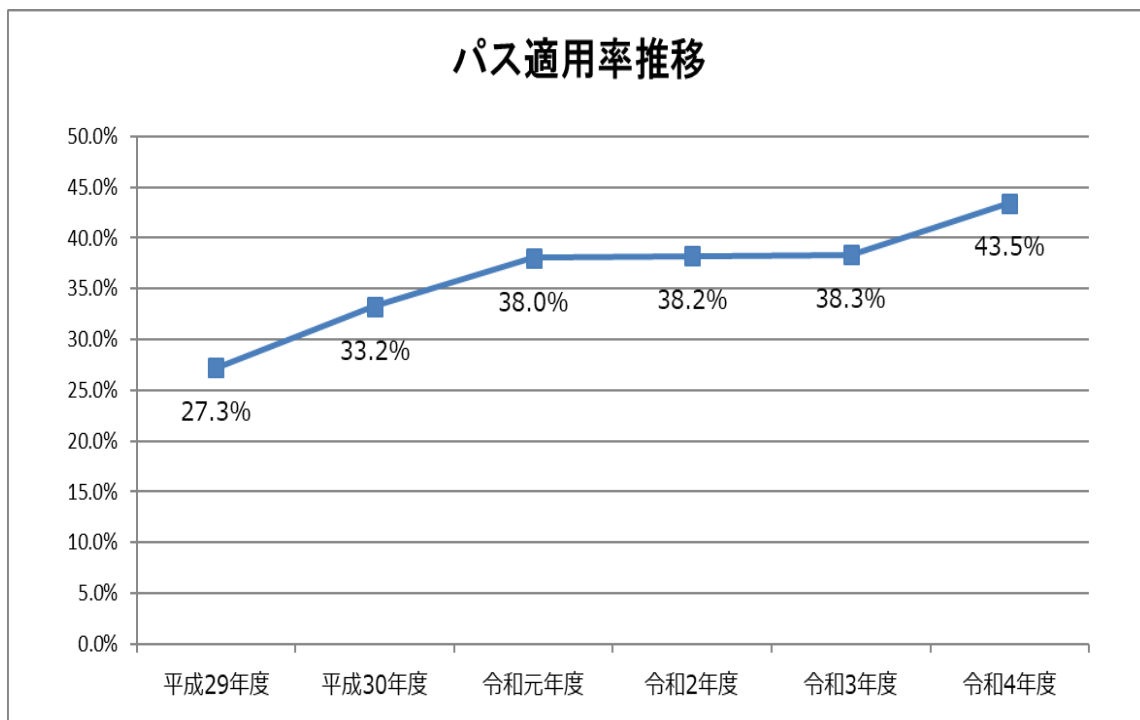
(1) 活動目的

クリニカルパスの整備と円滑な推進を図る。

(2) 活動内容

- 第1回委員会・・・令和4年4月28日
- 第2回委員会・・・令和4年6月23日
- 第3回委員会・・・令和4年8月25日
- 第4回委員会・・・令和4年10月27日
- 第5回委員会・・・令和4年12月22日
- 第6回委員会・・・令和5年3月30日

(3) パス適用率の推移



28. 情報システム運用委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

情報システム運用委員会は、医療情報システム(電子カルテシステム等)の円滑な運用を図るため、病院職員と電子カルテシステムベンダー担当者と構成され、院内からの要望やベンダーからの提案についての検討を行うことで、より使いやすいものとなることを目指しています。

(2) 委員会開催記録 ※開催回数については令和3年11月の医療情報システム更新後からの通算

回	開催日	主な検討内容
第11回	令和4年4月19日	・食事アレルギー「なし」の登録方法について ・令和4年度診療報酬改定対応について
第12回	5月17日	・インターネット、メールのネットワーク障害について ・放射線技師によるカルテ記載について
第13回	6月21日	・サイバーセキュリティ対策オンラインセミナーについて ・ノート端末故障の頻発について
第14回	7月19日	・医療情報システム更新に係る他病院からの見学受入について ・医療情報システム安全管理責任者の配置について
第15回	8月16日	・医療情報システムにおける緊急時の連絡体制について ・受付番号での患者呼出について
第16回	9月20日	・作業停電について ・データセンター(遠隔地バックアップ)について
第17回	10月18日	・作業停電について ・ノート端末の充電器について
第18回	11月15日	・ノート端末の充電器について ・物流管理システムで使用するハンディ端末の故障について
第19回	12月20日	・年末年始期間のセキュリティ対策及び業務処理について ・診療情報提供書の当院医師名の印字位置変更について
第20回	令和5年1月17日	・ノート端末の充電器取換状況について ・予約患者一覧の機能入替について
第21回	2月21日	・診療科名変更の対応状況について ・病院USBメモリ取扱要綱の一部改訂について
第22回	3月24日	・要望申請について ・電子カルテシステムのレスポンスについて

(3) 主な活動内容等

- ・令和4年度は、12回委員会を開催した。
- ・医療情報システムの安定稼働のため、院内からの要望や意見等について方針を決定し、システム対応を行っている。

29. 薬事委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

薬剤管理及び医薬品採用等、薬事業務の円滑な運営を図る。

(2) 活動内容

回	開催日	内容
1	令和4年4月28日	・新規購入, 採用区分変更, 中止, 市販後調査医薬品等について ・0.5%アトロピン点眼液(院内製剤)について ・リフィル処方箋への対応について
2	令和4年5月26日	・新規購入, 採用区分変更, 中止, 市販後調査医薬品等について ・期限切れ廃棄見込み医薬品について ・医療用医薬品の供給状況に関する用語の定義について
3	令和4年6月23日	・新規購入, 採用区分変更, 中止, 市販後調査医薬品等について ・院外処方箋の様式変更: 別紙の記載内容の修正について
4	令和4年7月28日	・新規購入, 採用区分変更, 中止, 市販後調査医薬品等について ・1%塩化亜鉛溶液(院内製剤)について ・経腸・経口栄養剤: フレーバー指定無しの院外処方マスタ追加のご提案
5	令和4年9月22日	・新規購入, 採用区分変更, 中止, 市販後調査医薬品等について ・試用医薬品の結果申請 ・期限切れ廃棄見込み医薬品について ・ドライブスルーPCR、発熱外来で使用するために緊急購入した医薬品 ・ラゲブリオカプセル200mg: 一般流通開始について ・救急室常備よりパキロビッドパックを投薬する場合のフローについて
6	令和4年10月27日	・新規購入, 採用区分変更, 中止, 市販後調査医薬品等について ・ウログラフィン注60%: 一部適応削除の予定に関するお知らせ
7	令和4年11月24日	・新規購入, 採用区分変更, 中止, 市販後調査医薬品等について ・ウログラフィン注60%: 一部適応削除予定への対応について ・タゾピペ静注: ニプロ社からMeiji Saika ファルマ社への切り替えについて
8	令和5年1月26日	・新規購入, 採用区分変更, 中止, 市販後調査医薬品等について ・期限切れ廃棄見込み医薬品について ・ウログラフィン注60%: 一部適応削除予定への対応について ・ツムラ漢方製剤エキス顆粒(医療用)の供給に関して
9	令和5年2月16日	・新規購入, 採用区分変更, 中止, 市販後調査医薬品等について ・試用医薬品の結果申請
10	令和5年3月23日	・新規購入, 採用区分変更, 中止, 市販後調査医薬品等について ・メーカー担当者管理: MONITAROの導入について

(3) 活動要約

- ・令和4年度は薬事委員会を10回開催した。
- ・専門委員会の抗生物質委員会を令和5年3月9日に開催した。
- ・期限切れ廃棄見込み医薬品のアナウンスを3回行い利用の促進を図った。
- ・令和5年3月の後発医薬品数量割合は78.5%であった。
- ・令和5年3月末の品目数は医薬品総計1901品目であった。
- ・令和5年度も品目数削減、後発医薬品使用促進について継続して取り組んでいきたい。

30. 患者サービス委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

患者サービスの充実を図り、患者さんが安心と満足の得られる医療を展開する。

(2) 委員会(定例委員会)

第1回委員会…4月21日、第2回委員会…5月19日、第3回委員会…6月16日、
第4回委員会…7月21日、第5回委員会…8月18日、第6回委員会…9月15日、
第7回委員会…10月20日、第8回委員会…11月17日、第9回委員会…12月15日、
第10回委員会…1月19日、第11回委員会…2月16日、第12回委員会…3月16日

(3) 各担当の実績

① 投書担当

「相談苦情申立/投書等の取扱」手順に定める投書・苦情の受付状況

● 投書 令和4年4月～令和5年3月 109件(外来ホール・病棟に投書箱を設置)

● 苦情 令和4年4月～令和5年3月 13件(患者サポートセンターで受付)

改善事例 ・外来呼び出しの番号呼び出し制への切り替え

・化学療法室トイレへの物置の設置

② ボランティア担当

令和4年度登録ボランティア 0名

(4) 外来患者さんアンケート調査の実施

当院に通院する外来患者さんの当院に対する満足度を調査することにより、对患者サービス、接遇、病院機能の向上を図ることを目的として実施した。

○調査日 : 令和4年11月24日～11月30日(平日5日間)

○回収数 : 500枚(500枚配布中) 回収率100%

○調査結果 : 集計、分析結果を院長に報告した。

(5) 「患者さんの権利」見直しについて

平成29年に制定された「患者さんの権利」について、患者の権利擁護の変化に対応させるため、令和3年度中に検討を行い、令和4年5月1日に改正した。

(6) 職員向け研修会の実施

令和4年10月3日から12月2日までの間、全国自治体病院協議会の医療接遇オンラインセミナーを活用し、院内向けの接遇研修会を行った。医療における接遇や信頼される身だしなみ、安心と信頼の関係づくりを学んだ。

参加人数42人

31. 地域医療連携推進委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

地域の一次医療機関、老人保健施設及び保健所等関係機関との医療連携について、適正かつ円滑な推進を図る。

(2) 活動内容

第1回委員会 4月27日、第2回委員会 5月、第3回委員会 6月、第4回委員会 7月、第5回委員会 8月、第6回委員会 9月、第7回委員会 10月、第8回委員会 11月、第9回委員会 12月、第10回委員会 1月、第11回委員会 2月
(第2回～第11回 書面開催)

(3) 活動要約

①医療従事者・福祉関係者向け勉強会の開催

糖尿病サポーター養成講座基礎コース(全3回、5講座)

- ・第1回 糖尿病サポーター・糖尿病の概念

開催日時:令和4年6月28日(火) 19:00～20:00

開催場所:大館市立中央公民館 視聴覚ホール 参加者数:18名

- ・第2回 糖尿病の薬物指導、糖尿病の運動療法

開催日時:令和4年7月27日(水) 19:00～20:30

開催場所:大館市立中央公民館 視聴覚ホール 参加者数:18名

- ・第3回 糖尿病の食事指導、糖尿病の生活指導

開催日時:令和4年8月23日(火) 19:00～20:00

開催場所:大館市立中央公民館 視聴覚ホール 参加者数:19名

②糖尿病サポーター勉強会(全2回)

- ・第1回 最新の糖尿病治療について

開催日時:令和4年9月28日(水) 19:00～20:00

開催場所:大館市立中央公民館 視聴覚ホール 参加者数:28名

- ・第2回 糖尿病患者の訪問栄養指導について

開催日時:令和4年11月22日(火) 19:00～20:00

開催場所:大館市立中央公民館 視聴覚ホール 参加者数:30名

③大館市立総合病院 患者サポートセンターだよりの発行

発行回数 2回(4月号、8月号)

発行部数 各360部×2回

32. 医療器材管理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

院内における医療器械備品及び診療材料の購入、採用及び管理に関する業務の円滑な運営を図ることを目的とする。

(2) 活動内容

回	開催日	協議事項
1	令和4年8月3日	新規診療材料等使用の審議等
2	令和4年12月19日	翌年度医療機器購入要望の検討①(一覧の説明等) 新規診療材料等使用の審議等
3	令和5年1月10日	翌年度医療機器購入要望の検討②(各部署ヒアリング①)
4	令和5年1月11日	翌年度医療機器購入要望の検討③(各部署ヒアリング②)
5	令和5年1月31日	翌年度医療機器購入要望の検討④(各部署ヒアリング③)
6	令和5年2月1日	翌年度医療機器購入要望の検討⑤(各部署ヒアリング④)
7	令和5年2月3日	翌年度医療機器購入要望の検討⑥(各部署ヒアリング⑤)
8	令和5年2月7日	翌年度医療機器購入要望の検討⑦(ヒアリング結果について)
9	令和5年2月10日	翌年度医療機器購入要望の検討⑧(最終案について)

33. 保険診療委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

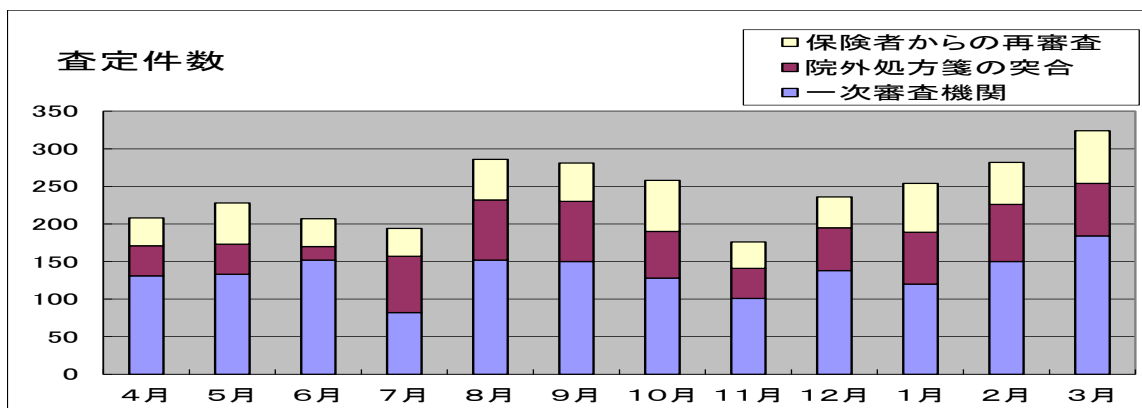
適切な診療による保険請求を確立少させ適正な収入確保を図る。

(2) 活動概要

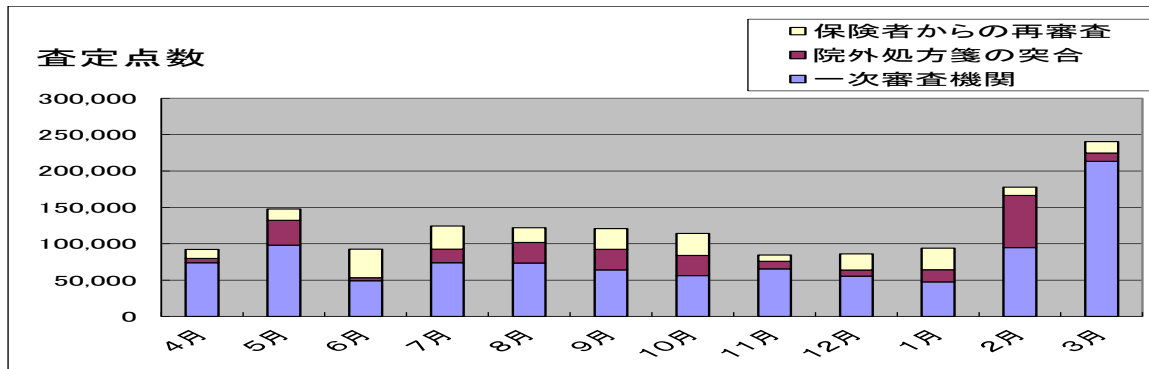
保険診療委員会は、適正な診療報酬請求業務を行うため、各月ごと年間12回開催している。委員会では査定を受けた各診療行為について調査・分析を行い、主治医に対し査定情報を還元している。

令和3年度における査定点数の合計は、2,904件、1,570,741点となり前年比690件の増、513,803点の増となった。うち一時審査機関による査定は、2,028件、806,153点、院外処方箋の突合査定は、384件、319,655点、保険者による査定は、492件、444,933点となった。また、再審査請求の可否についても本委員会で判断し、主治医へ再審査請求書の作成を依頼している。令和3年度に報告を受けた再審査の結果は、復活したものが12件、164,447点であった。

件数	一次審査機関			院外処方箋の突合	保険者からの再審査			査定合計
	医学的査定	事務的査定	合計		国保	社保	合計	
4月	85	46	131	40	7	30	37	208
5月	73	60	133	40	26	29	55	228
6月	100	52	152	18	12	25	37	207
7月	45	37	82	75	18	19	37	194
8月	90	62	152	80	26	28	54	286
9月	88	62	150	80	26	25	51	281
10月	61	67	128	62	45	23	68	258
11月	51	50	101	40	18	17	35	176
12月	88	50	138	57	19	22	41	236
1月	79	41	120	69	34	31	65	254
2月	88	62	150	76	22	34	56	282
3月	138	46	184	70	30	40	70	324
合計	986	635	1,621	707	283	323	606	2,934



点数	一次審査機関			院外処方箋の突合	保険者からの再審査			査定合計
	医学的査定	事務的査定	合計		国保	社保	合計	
4月	61,641	12,314	73,955	5,729	2,197	10,216	12,413	92,097
5月	74,538	23,524	98,062	34,201	3,989	11,452	15,441	147,704
6月	37,662	11,444	49,106	4,209	31,167	8,078	39,245	92,560
7月	55,641	18,313	73,954	18,616	2,980	28,905	31,885	124,455
8月	54,120	19,361	73,481	28,294	5,985	14,350	20,335	122,110
9月	48,983	15,096	64,079	28,294	18,136	10,347	28,483	120,856
10月	38,409	17,703	56,112	27,741	24,990	5,226	30,216	114,069
11月	52,789	12,724	65,513	10,345	4,270	4,447	8,717	84,575
12月	45,367	9,998	55,365	8,586	8,804	13,336	22,140	86,091
1月	34,560	12,913	47,473	16,695	22,814	6,961	29,775	93,943
2月	66,668	28,054	94,722	71,684	6,540	4,775	11,315	177,721
3月	181,130	32,248	213,378	11,438	4,614	10,974	15,588	240,404
合計	751,508	213,692	965,200	265,832	136,486	129,067	265,553	1,496,585



34. 広報委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

- ①「病院ホームページ」の運営、企画、内容に関するすべての事項の審議
- ②「病院広報紙(おおだて病院だより)」の企画に関する審議(広報内容の審議は「広報誌編集委員会」で行う。)
- ③ その他、広報一般に関わることの審議であり、隔月で開催。

(2) 活動内容

回	開催日	協議事項
1	令和4年5月30日	・ホームページについて セキュリティ対策としてURL変更、各部署へ内容確認の依頼 ・病院広報について (第37号編集日程等)
2	令和4年6月17日	(広報誌編集委員会) ・病院広報について(第37号掲載内容の決定等)
3	令和4年6月30日	(広報誌編集委員会) ・病院広報について(第37号掲載内容の確認等)
4	令和4年9月28日	(広報誌編集委員会) ・病院広報について(第38号編集日程等)
5	令和4年10月20日	(広報誌編集委員会) ・病院広報について(第38号掲載内容の決定等)
6	令和5年1月30日	・ホームページについて 看護部通信(看護部)、外来での番号呼び出しについて(外来のご案内)、 リニューアルについて ・病院広報について (第39号編集日程等)
7	令和5年2月20日	(広報誌編集委員会開催せず文書配布) ・病院広報について(第38号掲載内容の決定等)

(3) 活動要約

○ホームページに関する事項

- (1) 病院ホームページの更新や、掲載内容について検討を行う。
- (2) 委員からの意見・要望について管理委託業者へ依頼する。

○病院広報誌に関する事項

(1) 令和4年8月 第37号発行

主な記事 総合 : 患者さんの権利見直し、レスパイト入院、医師紹介、NP紹介、
感染対策チーム(ICT)紹介、熱中症対策レシピ

扇田 : マイナ保険証利用、退院支援紹介

(2) 令和4年12月 第38号発行

主な記事 総合 : 呼吸ケアサポートチーム(RST)紹介、外来待合での番号呼び出し、
医療安全推進室紹介、コミュニケーション補助カード、看護師奨学生募集、
CT装置更新

扇田 : アルツハイマー月間、新型コロナウイルス感染症よくある質問

(3) 令和5年4月 第39号発行

主な記事 総合 : 呼吸器外科外来場所変更、患者さんの声、患者満足度調査、
健診室紹介、臨時駐車場、臨床研修を振り返って、マイナ保険証利用、
薬のQ&A

扇田 : 実習生の取り組み、健診のお知らせ

35. 救急室運営委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

大館市立総合病院救急室及び地域救急全体の円滑な運営を行う。

(2) 活動内容

第1回委員会…4月28日、第2回委員会…5月26日、第3回委員会…6月23日
第4回委員会…9月29日、第5回委員会…11月24日、第6回委員会…12月22日
第7回委員会…1月26日、第8回委員会…2月24日、第9回委員会…3月23日

(3) 活動要約

① 研修会

講師(医師)を招き、救急診療での様々な場面で求められる対応について研修を行った。

- ・6/27 院内急変時の対応について 参加者48名

② MET(蘇生専門チーム)打合せ・MET訓練

- ・5/31 METメンバーによる打合せを開催。役割、活動手順について確認した。

36. 図書室運営委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

図書室の整備・運営方法及び図書の有効活用等について協議する。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和5年3月7日	・令和4年度購入図書一覧 ・オンライン文献検索システムアクセス状況 ・令和5年度予算(図書費) ・その他

(3) 活動要約

- ・図書購入費の予算と購入状況の報告
(令和4年度:340冊、購入額 7,328,520円)
- ・各部署で蔵書の在庫確認、整理、利用促進の呼びかけ

37. 手術室運営委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

手術室の適正な運営と安全管理体制の確立。

(2) 活動内容

回	開催日	内容
1	令和4年4月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・前月の手術件数、全麻件数の報告(定例報告事項) ・前月のインシデントレポート報告(定例報告事項) ・手術室の勤務体制と手術日の確認について
2	令和4年5月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・定例報告 ・ホルムアルデヒドの作業記録について
3	令和4年7月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・定例報告 ・病院の手術制限について
4	令和4年9月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・定例報告
5	令和4年10月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・定例報告 ・周術期禁煙プラクティカルガイドについて
6	令和4年11月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・定例報告 ・年末年始の手術調整について
7	令和4年12月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・定例報告 ・手術室の血液製剤保管庫の故障について
8	令和5年1月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・定例報告 ・手術室の血液製剤保管庫の新規購入について ほか
9	令和5年2月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・定例報告 ・リブレの使用について ・輸血オーダーについて
10	令和5年3月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・定例報告 ・ウログラフィンの採用中止について ・ホルムアルデヒドの作業記録について ほか

【令和4年度全身麻酔件数】

667件

38. 臨床工学科運営委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

臨床工学科の円滑な運営を行うため、運営に係わる諸関連事項について審議する。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和4年5月18日	・部署名変更について ・臨床工学科1名増員 (ME機器管理業務)
2	令和4年7月20日	・血液浄化業務及びME室業務報告 ・輸液関連機器の不足について
3	令和4年9月21日	・血液浄化業務及びME室業務報告 ・今年度購入機器納品について ・間欠式空気圧迫装置バージョンアップについて
4	令和4年11月16日	・血液浄化業務及びME室業務報告 ・院内作業停電対応について ・森田泌尿器科休院の影響について
5	令和5年1月18日	・中止 (資料配布) ・血液浄化業務及びME室業務報告 ・森田患者受入れ後の業務について
6	令和5年3月15日	・血液浄化業務及びME室業務報告 ・新型輸液ポンプの運用について

- ・「ME室」から「臨床工学科」に部署名称を変更した。
- ・臨床工学技士の通称を「CE」に統一した。
- ・ME機器管理業務の増員としてCE 1名が採用となった。
- ・社会情勢による消耗品納品遅れに対応した。
- ・透析室における新型コロナウイルス感染症対策を強化した。
- ・森田泌尿器科の突然の休院に対し、38名の透析患者を受入れる体制を整えた。
- ・輸液関連機器の慢性的不足への対策を図った。

39. 教育委員会

1. 委員会活動記録

- ・令和4年度は、活動無し。

40. 機能評価委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

- ① 医療機能全般にわたる認定期間中の質の維持・改善に関すること
- ② 医療機能各領域の自己評価に関すること
- ③ その他、医療機能評価全般についての重要事項に関すること

(2) 委員会活動内容

回	開催日	内 容
1	令和4年7月22日	・病院機能評価更新への取り組みについて
2	令和5年3月8日	・受審スケジュールの変更について ・改善事項について

(3) 日本医療機能評価機構による病院機能評価の審査結果

- ・ 前回審査を行った日 2017年8月24～25日
- ・ 認定番号 第JC1891-2号
- ・ 主たる機能 一般病院2
- ・ 副機能 精神科病院
- ・ 機能種別版評価項目 3rdG Ver.1.1
- ・ 認定期間 2018年1月18日～2023年1月17日
- ・ 認定団体 公益財団法人 日本医療機能評価機構
- ・ 認定回数 2回

(4) 期中の確認に関する事項

- ・ 書類提出期限 2020年1月
- ・ 確認方法 自己評価実施シート(様式1)
 - ・各項目の自己評価S～C(必須)
 - ・各項目に関する現状報告(S及びAは任意、B及びCは必須)質改善活動事例報告(様式2)
 - ・質改善のために行った活動内容と成果ほか(任意)

41. 排泄ケア委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

ストーマを造設する患者の周術期から退院後の日常生活におけるQOLの低下を防ぐべき事象を検討し、院内のストーマケアの充実と医療者の知識習得および士気向上、地域と連携できる体勢の構築を図り、入院前から退院後ストーマ外来において継続的かつ長期的なサポートを提供する。

(2) 排泄ケア委員会(定例委員会)

第1回委員会(5月6日) 第2回委員会(7月1日) 第3回委員会(中止)
第4回委員会(休止) 第5回委員会(1月6日) 第6回委員会(3月3日)

(3) 排泄ケアの体制整備

① 排泄ケア研修会の実施

- ・(院内職員対象)研修会
- 排尿自立チーム主催

令和5年1月6日 参加者14名 テーマ「排尿自立加算介入依頼について」

② 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

人工肛門・人工膀胱造設術前処置とは、人工肛門等造設後の合併症等の予防のため、術前の画像診断や触診等により、腹直筋の位置を確認した上で、適切な造設部位に術前に印をつけるなどの処置を行うことをいう。人工肛門又は人工膀胱のケアに従事した経験を5年以上有する看護師等であって、人工肛門又は人工膀胱のケアにかかる適切な研修を終了したものが、手術を実施する医師とともに、術前に実施した場合に算定する。

当院では上記に該当する看護師が8名いる他、日本ストーマ排泄リハビリテーション学会のストーマ認定士である看護師1名がおり、ストーマ認定施設となっている。

	令和3年度 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)	令和4年度 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)
【算定数報告】		
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	24 件	26 件
ストーマ処置(1個、2個以上 の合計)	1,015 件	811 件

③ 排尿自立支援加算

排尿自立支援とは、排尿に関するケアに係る専門的知識を有した多職種からなるチーム(以下、排尿ケアチーム)を設置し、当該患者の診療を担う医師、看護師等が、排尿ケアチームと連携して、当該患者の排尿自立の可能性及び下部尿路機能を評価し、排尿誘導等の保存療法、リハビリテーション、薬物療法等を組み合わせるなど、下部尿路機能の回復のための包括的なケアを行うことをいう。排尿ケアチームが当該患者の状況を評価するなどの関与を行うと共に、病棟の看護師等が、包括的排尿ケアの計画に基づいて患者に対し直接的な指導・援助を実施した場合に算定する。

	令和3年度 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)	令和4年度 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)
【算定数報告】		
排尿自立支援加算	64 件	40 件

42. 呼吸ケアサポートチーム委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

呼吸ケアの向上と人工呼吸器からの早期離脱・安全管理、病院スタッフへの呼吸ケアに関する助言・教育・標準化を目的として設置する。

(2) 活動内容

回	開催日	内容
1	令和4年4月8日	<ul style="list-style-type: none"> 人工呼吸器装着患者について(定期報告事項) インシデントレポート報告(定期報告事項) ME室情報、呼吸療法認定士より(定期報告事項) 今年度の活動内容について
2	令和4年5月13日	<ul style="list-style-type: none"> 定期報告 RST介入依頼について 研修会、勉強会について
3	令和4年6月10日	<ul style="list-style-type: none"> 定期報告 吸引できる療法士の育成について
4	令和4年7月8日	<ul style="list-style-type: none"> 定期報告 勉強会の予定について
5	令和4年8月12日	<ul style="list-style-type: none"> 定期報告
6	令和4年10月14日	<ul style="list-style-type: none"> 定期報告 挿管後の腹臥位呼吸について
7	令和4年12月16日	<ul style="list-style-type: none"> 定期報告 NPPV初期設定について
8	令和5年1月13日	<ul style="list-style-type: none"> 定期報告 人工呼吸器患者に対してのマニュアルについて
9	令和5年2月10日	<ul style="list-style-type: none"> 定期報告 今年度の反省と来年度に向けて
10	令和5年3月10日	<ul style="list-style-type: none"> 定期報告 NPPVの加湿器の電源入れ忘れ、切り忘れについて

(3) 活動要約

1.専任の医師・看護師等からなるRSTコアチームを設置し、入院患者の人工呼吸器管理(人工呼吸器装着患者の安全管理、合併症予防、人工呼吸器離脱計画、呼吸リハビリテーション)を行なう。

- 各部署における人工呼吸器装着患者の情報交換
- 人工呼吸器に関するインシデントレポート報告、情報共有
- ME室、呼吸療法認定士からの情報
- 呼吸ケア・人工呼吸器に関する勉強会およびマニュアル作成について計画・実施

2.呼吸ケアチーム加算

呼吸ケアチーム加算は、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める患者に対して、当該保健医療機関の保険医、看護師、臨床工学技士、理学療法士等が共同して、人工呼吸器離脱のために必要な診療を行なった場合に、当該患者について、週1回に限り所定点数に加算する(150点)。

IV. 臨床統計

1. 年度別患者数

(入院)

年度	入院延べ患者数	1日平均 入院患者数	前年比較	対前年比率
平成30年度	107,000	293.2	2,194	102.1%
令和元年度	105,366	287.9	▲ 1,634	98.5%
令和2年度	95,373	261.3	▲ 9,993	90.5%
令和3年度	97,162	266.2	1,789	101.9%
令和4年度	96,191	263.5	▲ 971	99.0%

(外来)

年度	外来延べ患者数	1日平均 外来患者数	前年比較	対前年比率
平成30年度	237,417	973.0	7,431	103.2%
令和元年度	238,672	994.5	1,255	100.5%
令和2年度	226,760	933.2	▲ 11,912	95.0%
令和3年度	236,182	976.0	9,422	104.2%
令和4年度	234,630	965.6	▲ 1,552	99.3%

2. 診療科別・月別外来患者数(新患・再来計)

診療日数 243 日

単位:人

科別 診療月	呼循環内	消血腫	内代神	小児科	神経 精神科	外科	産婦人 科	眼科	耳鼻 咽喉科	整形 外科	泌尿器 科	皮膚科	脳神経 外科	放射線 科	麻酔科	呼吸器 外科	歯科口 腔外科	計	前年度	前年 比較
R4. 4月	1,412	2,211	2,638	962	1,087	1,020	1,551	698	578	2,229	2,038	1,092	487	290	0	302	572	19,167	20,303	▲ 1,136
R4. 5月	1,281	2,036	2,411	991	1,069	1,015	1,576	659	569	2,205	2,048	1,203	434	329	0	248	590	18,664	17,911	753
R4. 6月	1,578	2,445	2,436	1,013	1,037	1,157	1,668	913	614	2,555	2,271	1,176	573	211	1	293	658	20,599	20,904	▲ 305
R4. 7月	1,483	2,221	2,665	990	1,059	1,116	1,455	619	643	2,187	2,112	1,201	499	382	18	291	666	19,607	20,111	▲ 504
R4. 8月	1,469	2,139	2,480	1,178	1,124	1,731	1,622	651	569	2,068	2,362	1,224	528	248	0	335	641	20,369	19,974	395
R4. 9月	1,526	2,436	1,984	1,019	1,065	1,123	1,588	754	593	2,125	2,243	1,243	530	281	0	351	540	19,401	20,073	▲ 672
R4. 10月	1,460	2,179	2,042	1,082	972	1,240	1,506	685	578	2,171	2,187	1,172	550	287	1	395	603	19,110	20,110	▲ 1,000
R4. 11月	1,401	2,227	1,898	1,109	1,040	1,197	1,588	728	603	1,985	2,506	1,084	510	274	1	319	551	19,021	19,248	▲ 227
R4. 12月	1,517	2,309	2,061	1,172	1,036	1,094	1,525	676	562	2,226	2,971	1,143	517	393	0	311	504	20,017	20,062	▲ 45
R5. 1月	1,382	2,047	1,980	1,025	1,014	1,162	1,462	604	544	2,170	2,748	1,121	545	305	0	300	442	18,851	18,659	192
R5. 2月	1,388	1,983	1,873	1,030	1,019	1,028	1,412	622	551	1,973	2,630	1,088	481	277	0	271	489	18,115	17,524	591
R5. 3月	1,627	2,476	2,040	1,238	1,088	1,217	1,617	769	691	2,627	3,110	1,313	614	362	2	330	588	21,709	21,303	406
合 計	17,524	26,709	26,508	12,809	12,610	14,100	18,570	8,378	7,095	26,521	29,226	14,060	6,268	3,639	23	3,746	6,844	234,630	236,182	▲ 1,552

1月当たりの 外来患者数	1,460.3	2,225.8	2,209.0	1,067.4	1,050.8	1,175.0	1,547.5	698.2	591.3	2,210.1	2,435.5	1,171.7	522.3	303.3	1.9	312.2	570.3	19,552.5	19,681.8	▲ 129.3
1日当たりの 外来患者数	72.1	109.9	109.1	52.7	51.9	58.0	76.4	34.5	29.2	109.1	120.3	57.9	25.8	15.0	0.1	15.4	28.2	965.6	976.0	▲ 10.4

3. 診療科別外来患者数(新患)

診療日数 243 日

単位:人

診療月	科別	呼循環	消血腫	内代神	小児科	神経精神科	外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	整形外科	泌尿器科	皮膚科	脳神経外科	放射線科	麻酔科	呼吸器外科	歯科口腔外科	計	前年度	前年比較
R4. 4月		81	93	540	155	23	41	163	27	64	85	26	104	45	16	0	8	90	1,561	1,144	417
R4. 5月		71	103	579	211	22	48	183	22	68	113	31	132	33	8	0	15	96	1,735	1,066	669
R4. 6月		84	103	354	176	19	50	212	28	62	100	47	131	47	4	0	13	95	1,525	1,220	305
R4. 7月		77	92	718	170	18	54	173	18	70	87	32	134	35	8	1	16	96	1,799	1,308	491
R4. 8月		70	97	329	264	16	429	193	19	40	96	115	142	41	5	0	28	72	1,956	1,527	429
R4. 9月		81	110	128	219	23	64	192	31	56	60	43	115	53	13	0	36	68	1,292	1,311	▲ 19
R4. 10月		80	110	61	195	21	59	184	19	45	78	47	94	48	10	0	32	94	1,177	1,174	3
R4. 11月		82	116	45	203	18	51	185	23	49	72	100	78	41	10	1	23	84	1,181	1,172	9
R4. 12月		72	110	54	177	20	52	183	11	57	94	96	95	47	8	0	21	91	1,188	1,220	▲ 32
R5. 1月		104	116	53	161	21	52	189	17	45	86	64	113	55	8	0	17	68	1,169	1,405	▲ 236
R5. 2月		70	102	36	182	28	35	158	16	50	84	59	88	41	8	0	14	91	1,062	1,429	▲ 367
R5. 3月		76	96	34	186	20	54	193	23	66	78	68	97	49	13	2	12	119	1,186	1,853	▲ 667
合計		948	1,248	2,931	2,299	249	989	2,208	254	672	1,033	728	1,323	535	111	4	235	1,064	16,831	15,829	1,002
1月当たりの 外来患者数		79.0	104.0	244.3	191.6	20.8	82.4	184.0	21.2	56.0	86.1	60.7	110.3	44.6	9.3	0.3	19.6	88.7	1,402.6	1,319.1	83.5
1日当たりの 外来患者数		3.9	5.1	12.1	9.5	1.0	4.1	9.1	1.0	2.8	4.3	3.0	5.4	2.2	0.5	0.0	1.0	4.4	69.3	65.4	3.9

4. 診療科別外来患者数(再来)

診療日数 243 日

単位:人

診療月	科別	呼循環内	消血腫	内代神	小児科	神経精神科	外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	整形外科	泌尿器科	皮膚科	脳神経外科	放射線科	麻酔科	呼吸器外科	歯科口腔外科	計	前年度	前年比較
R4. 4月		1,331	2,118	2,098	807	1,064	979	1,388	671	514	2,144	2,012	988	442	274	0	294	482	17,606	19,159	▲ 1,553
R4. 5月		1,210	1,933	1,832	780	1,047	967	1,393	637	501	2,092	2,017	1,071	401	321	0	233	494	16,929	16,845	84
R4. 6月		1,494	2,342	2,082	837	1,018	1,107	1,456	885	552	2,455	2,224	1,045	526	207	1	280	563	19,074	19,684	▲ 610
R4. 7月		1,406	2,129	1,947	820	1,041	1,062	1,282	601	573	2,100	2,080	1,067	464	374	17	275	570	17,808	18,803	▲ 995
R4. 8月		1,399	2,042	2,151	914	1,108	1,302	1,429	632	529	1,972	2,247	1,082	487	243	0	307	569	18,413	18,447	▲ 34
R4. 9月		1,445	2,326	1,856	800	1,042	1,059	1,396	723	537	2,065	2,200	1,128	477	268	0	315	472	18,109	18,762	▲ 653
R4. 10月		1,380	2,069	1,981	887	951	1,181	1,322	666	533	2,093	2,140	1,078	502	277	1	363	509	17,933	18,936	▲ 1,003
R4. 11月		1,319	2,111	1,853	906	1,022	1,146	1,403	705	554	1,913	2,406	1,006	469	264	0	296	467	17,840	18,076	▲ 236
R4. 12月		1,445	2,199	2,007	995	1,016	1,042	1,342	665	505	2,132	2,875	1,048	470	385	0	290	413	18,829	18,842	▲ 13
R5. 1月		1,278	1,931	1,927	864	993	1,110	1,273	587	499	2,084	2,684	1,008	490	297	0	283	374	17,682	17,254	428
R5. 2月		1,318	1,881	1,837	848	991	993	1,254	606	501	1,889	2,571	1,000	440	269	0	257	398	17,053	16,095	958
R5. 3月		1,551	2,380	2,006	1,052	1,068	1,163	1,424	746	625	2,549	3,042	1,216	565	349	0	318	469	20,523	19,450	1,073
合計		16,576	25,461	23,577	10,510	12,361	13,111	16,362	8,124	6,423	25,488	28,498	12,737	5,733	3,528	19	3,511	5,780	217,799	220,353	▲ 2,554
1月当たりの 外来患者数		1,381.3	2,121.8	1,964.8	875.8	1,030.1	1,092.6	1,363.5	677.0	535.3	2,124.0	2,374.8	1,061.4	477.8	294.0	1.6	292.6	481.7	18,149.9	18,362.8	▲ 212.9
1日当たりの 外来患者数		68.2	104.8	97.0	43.3	50.9	54.0	67.3	33.4	26.4	104.9	117.3	52.4	23.6	14.5	0.1	14.4	23.8	896.3	910.5	▲ 14.2

5. 診療科別時間外・休日受付入院患者数

診療月	科別	呼循環内	消血腫	小児科	神 経 精神科	外科	産婦人 科	眼科	耳 鼻 咽喉科	整形外 科	泌尿器 科	皮膚科	脳神経 外 科	放射線 科	内代神	呼吸器 外 科	歯科口 腔外科	計
4月		20	15	3	6	9	31	0	3	4	5	0	25	0	8	2	0	131
5月		20	22	5	5	15	26	0	3	11	10	0	14	0	8	1	0	140
6月		16	19	4	3	10	33	0	2	13	5	0	15	0	4	5	0	129
7月		18	19	5	2	12	26	0	1	11	14	0	14	0	12	6	0	140
8月		16	25	3	1	11	17	0	2	8	9	0	16	0	8	0	0	116
9月		20	26	4	4	10	23	0	2	5	9	0	13	0	3	4	0	123
10月		14	27	7	5	14	24	0	2	7	5	0	18	0	7	0	0	130
11月		13	17	6	1	10	21	0	3	10	8	0	23	0	7	5	0	124
12月		18	24	7	2	15	29	0	3	15	17	0	21	0	5	2	0	158
1月		27	24	6	3	9	21	0	0	14	8	0	19	0	7	4	0	142
2月		11	14	1	6	3	28	0	4	10	11	0	18	0	2	4	0	112
3月		20	12	4	1	8	16	0	7	6	7	0	19	0	1	2	0	103
合計		213	244	55	39	126	295	0	32	114	108	0	215	0	72	35	0	1,548
1月当たりの 入院患者数		17.8	20.3	4.6	3.3	10.5	24.6	0.0	2.7	9.5	9.0	0.0	17.9	0.0	6.0	2.9	0.0	129.0
1日当たりの 入院患者数		0.6	0.7	0.2	0.1	0.3	0.8	0.0	0.1	0.3	0.3	0.0	0.6	0.0	0.2	0.1	0.0	4.2

6. 診療科別時間外・休日受付外来患者数

科別 診療月	呼循環内	消血腫	小児科	神 経 精神科	外科	産婦人 科	眼科	耳 鼻 咽喉科	整形外科	泌尿器 科	皮膚科	脳神経 外 科	放射線 科	内代神	呼吸器 外 科	歯科口 腔外科	計
4月	51	45	37	9	22	9	18	33	68	31	17	26	0	243	6	2	617
5月	48	59	57	8	21	30	11	44	98	35	17	30	0	209	2	7	676
6月	38	60	37	14	15	27	18	28	78	18	11	23	0	93	0	1	461
7月	41	48	56	11	34	22	14	44	59	37	44	30	0	289	6	2	737
8月	36	48	59	21	180	22	5	29	76	83	29	31	1	169	5	6	800
9月	45	41	54	9	23	18	15	34	69	31	25	31	0	94	3	1	493
10月	37	43	57	7	21	13	9	32	83	30	24	24	0	51	4	2	437
11月	31	43	55	7	24	10	12	39	56	19	20	21	0	32	1	1	371
12月	62	54	59	17	17	11	8	31	75	27	12	29	0	51	4	2	459
1月	38	43	48	12	23	24	7	32	82	31	13	37	0	54	1	0	445
2月	31	36	33	7	20	24	4	35	62	22	8	25	0	15	3	2	327
3月	41	39	52	5	20	13	10	22	66	25	8	27	0	18	1	1	348
合計	499	559	604	127	420	223	131	403	872	389	228	334	1	1,318	36	27	6,171
1月当たりの 外来患者数	41.6	46.6	50.3	10.6	35.0	18.6	10.9	33.6	72.7	32.4	19.0	27.8	0.1	109.8	3.0	2.3	514.3
1日当たりの 外来患者数	2.1	2.3	2.5	0.5	1.7	0.9	0.5	1.7	3.6	1.6	0.9	1.4	0.0	5.4	0.1	0.1	25.5

7. 診療科別入院患者取扱状況

診療日数 (365日)

単位：人

診療月	科別	呼吸内	消血腫	内代神	小児科	神経精神科	外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	整形外科	泌尿器科	皮膚科	脳神経外科	呼吸器外科	放射線科	歯科口腔外科	計	前年度	前年比較
R4. 4月		890	1,400	400	179	571	908	676	0	71	1,111	591	0	1,044	268	0	4	8,113	8,293	▲ 180
R4. 5月		831	1,590	359	169	658	802	656	0	97	1,346	638	0	978	275	0	11	8,410	8,663	▲ 253
R4. 6月		804	1,370	342	128	731	941	862	0	94	1,397	540	0	785	302	0	38	8,334	7,815	519
R4. 7月		908	1,653	422	118	961	994	680	0	74	1,313	539	0	654	386	0	9	8,711	8,373	338
R4. 8月		965	1,415	442	158	816	623	598	0	119	755	566	0	590	256	0	0	7,303	8,320	▲ 1,017
R4. 9月		898	1,491	247	136	805	573	532	0	94	551	737	0	576	241	0	0	6,881	7,414	▲ 533
R4. 10月		752	1,670	278	196	795	798	602	0	126	856	673	0	659	365	0	0	7,770	7,899	▲ 129
R4. 11月		727	1,252	385	220	720	814	615	0	163	1,120	754	0	851	315	0	3	7,939	7,509	430
R4. 12月		978	1,494	284	126	611	853	637	0	177	1,407	823	0	857	220	0	16	8,483	8,313	170
R5. 1月		1,019	1,535	428	146	536	607	568	0	153	1,602	634	0	771	280	0	5	8,284	8,650	▲ 366
R5. 2月		738	1,485	518	112	740	728	566	0	156	1,287	506	0	725	256	0	14	7,831	7,725	106
R5. 3月		738	1,542	306	106	874	885	503	0	208	1,193	591	0	829	343		14	8,132	8,188	▲ 56
計		10,248	17,897	4,411	1,794	8,818	9,526	7,495	0	1,532	13,938	7,592	0	9,319	3,507	0	114	96,191	97,162	▲ 971
前年度同期累計		8,179	17,143	4,353	2,588	8,038	9,940	7,705	0	1,668	16,592	7,520	0	8,527	4,348	0	561	97,162		
比較増減		2,069	754	58	▲ 794	780	▲ 414	▲ 210	0	▲ 136	▲ 2,654	72	0	792	▲ 841	0	▲ 447	▲ 971		
科構成 %		10.6	18.6	4.6	1.9	9.2	9.9	7.8	0.0	1.6	14.5	7.9	0.0	9.7	3.6	0.0	0.1	100.0		

8. 診療科別外来患者取扱状況

診療日数 (243日)

単位：人

診療月	科別	呼吸内	消血腫	内代神	小児科	神経精神科	外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	整形外科	泌尿器科	皮膚科	脳神経外科	放射線科	麻酔科	呼吸器外科	歯科口腔外科	計	前年度	前年比較
R4. 4月		1,412	2,211	2,638	962	1,087	1,020	1,551	698	578	2,229	2,038	1,092	487	302	290	0	572	19,167	20,303	▲ 1,136
R4. 5月		1,281	2,036	2,411	991	1,069	1,015	1,576	659	569	2,205	2,048	1,203	434	248	329	0	590	18,664	17,911	753
R4. 6月		1,578	2,445	2,436	1,013	1,037	1,157	1,668	913	614	2,555	2,271	1,176	573	293	211	1	658	20,599	20,904	▲ 305
R4. 7月		1,483	2,221	2,665	990	1,059	1,116	1,455	619	643	2,187	2,112	1,201	499	291	382	18	666	19,607	20,111	▲ 504
R4. 8月		1,469	2,139	2,480	1,178	1,124	1,731	1,622	651	569	2,068	2,362	1,224	528	335	248	0	641	20,369	19,974	395
R4. 9月		1,526	2,436	1,984	1,019	1,065	1,123	1,588	754	593	2,125	2,243	1,243	530	351	281	0	540	19,401	20,073	▲ 672
R4. 10月		1,460	2,179	2,042	1,082	972	1,240	1,506	685	578	2,171	2,187	1,172	550	395	287	1	603	19,110	20,110	▲ 1,000
R4. 11月		1,401	2,227	1,898	1,109	1,040	1,197	1,588	728	603	1,985	2,506	1,084	510	319	274	1	551	19,021	19,248	▲ 227
R4. 12月		1,517	2,309	2,061	1,172	1,036	1,094	1,525	676	562	2,226	2,971	1,143	517	311	393	0	504	20,017	20,062	▲ 45
R5. 1月		1,382	2,047	1,980	1,025	1,014	1,162	1,462	604	544	2,170	2,748	1,121	545	300	305	0	442	18,851	18,659	192
R5. 2月		1,388	1,983	1,873	1,030	1,019	1,028	1,412	622	551	1,973	2,630	1,088	481	271	277	0	489	18,115	17,524	591
R5. 3月		1,627	2,476	2,040	1,238	1,088	1,217	1,617	769	691	2,627	3,110	1,313	614	330	362	2	588	21,709	21,303	406
計		17,524	26,709	26,508	12,809	12,610	14,100	18,570	8,378	7,095	26,521	29,226	14,060	6,268	3,746	3,639	23	6,844	234,630	236,182	▲ 1,552
前年度同期累計		16,466	26,685	25,956	12,241	15,879	13,314	17,398	9,025	6,564	29,093	25,980	14,118	6,371	4,288	3,659	84	9,061	236,182		前年比 99.3%
比較増減		1,058	24	552	568	▲ 3,269	786	1,172	▲ 647	531	▲ 2,572	3,246	▲ 58	▲ 103	▲ 542	▲ 20	▲ 61	▲ 2,217	▲ 1,552		
科構成 %		7.5	11.4	11.3	5.5	5.4	6.0	7.9	3.6	3.0	11.3	12.4	6.0	2.7	1.6	1.5	0.0	2.9	100.0		

9. 診療科別1日平均入院患者数

診療日数 (365日)

単位：人

診療月	科別	呼循環内	消血腫	内代神	小児科	神 経 精神科	外科	産婦人科	眼科	耳 鼻 咽喉科	整形外科	泌尿器科	皮膚科	脳神経 外 科	呼吸器 外 科	放射線科	齒科口腔 外科	計	前年度	前年 比較
R4. 4月		29.7	46.7	13.3	6.0	19.0	30.3	22.5	0.0	2.4	37.0	19.7	0.0	34.8	8.9	0.0	0.1	270.4	276.4	▲ 6.0
R4. 5月		26.8	51.3	11.6	5.5	21.2	25.9	21.2	0.0	3.1	43.4	20.6	0.0	31.5	8.9	0.0	0.4	271.3	279.5	▲ 8.2
R4. 6月		26.8	45.7	11.4	4.3	24.4	31.4	28.7	0.0	3.1	46.6	18.0	0.0	26.2	10.1	0.0	1.3	277.8	260.5	17.3
R4. 7月		29.3	53.3	13.6	3.8	31.0	32.1	21.9	0.0	2.4	42.4	17.4	0.0	21.1	12.5	0.0	0.3	281.0	270.1	10.9
R4. 8月		31.1	45.6	14.3	5.1	26.3	20.1	19.3	0.0	3.8	24.4	18.3	0.0	19.0	8.3	0.0	0.0	235.6	268.4	▲ 32.8
R4. 9月		29.9	49.7	8.2	4.5	26.8	19.1	17.7	0.0	3.1	18.4	24.6	0.0	19.2	8.0	0.0	0.0	229.4	247.1	▲ 17.8
R4. 10月		24.3	53.9	9.0	6.3	25.6	25.7	19.4	0.0	4.1	27.6	21.7	0.0	21.3	11.8	0.0	0.0	250.6	254.8	▲ 4.2
R4. 11月		24.2	41.7	12.8	7.3	24.0	27.1	20.5	0.0	5.4	37.3	25.1	0.0	28.4	10.5	0.0	0.1	264.6	250.3	14.3
R4. 12月		31.5	48.2	9.2	4.1	19.7	27.5	20.5	0.0	5.7	45.4	26.5	0.0	27.6	7.1	0.0	0.5	273.6	268.2	5.5
R5. 1月		32.9	49.5	13.8	4.7	17.3	19.6	18.3	0.0	4.9	51.7	20.5	0.0	24.9	9.0	0.0	0.2	267.2	279.0	▲ 11.8
R5. 2月		26.4	53.0	18.5	4.0	26.4	26.0	20.2	0.0	5.6	46.0	18.1	0.0	25.9	9.1	0.0	0.5	279.7	275.9	3.8
R5. 3月		23.8	49.7	9.9	3.4	28.2	28.5	16.2	0.0	6.7	38.5	19.1	0.0	26.7	11.1	0.0	0.5	262.3	264.1	▲ 1.8
計		28.1	49.0	12.1	4.9	24.2	26.1	20.5	0.0	4.2	38.2	20.8	0.0	25.5	9.6	0.0	0.3	263.5	266.2	▲ 2.7
前年度同期累計		22.4	47.0	11.9	7.1	22.0	27.2	21.1	0.0	4.6	45.5	20.6	0.0	23.4	11.9	0.0	1.5	266.2		
前年比較		5.7	2.1	0.2	▲ 2.2	2.1	▲ 1.1	▲ 0.6	0.0	▲ 0.4	▲ 7.3	0.2	0.0	2.2	▲ 2.3	0.0	▲ 1.2	▲ 2.7		

10. 診療科別1日平均外来患者数

診療日数 (243日)

単位：人

診療月	科別	呼循環内	消血腫	内代神	小児科	神 経 精神科	外科	産婦人科	眼科	耳 鼻 咽喉科	整形外科	泌尿器科	皮膚科	脳神経 外 科	放射線科	麻酔科	呼吸器 外 科	齒科口腔 外科	計	前年度	前年 比較
R4. 4月		70.6	110.6	131.9	48.1	54.4	51.0	77.6	34.9	28.9	111.5	101.9	54.6	24.4	15.1	14.5	0.0	28.6	958.4	966.8	▲ 8.5
R4. 5月		67.4	107.2	126.9	52.2	56.3	53.4	82.9	34.7	29.9	116.1	107.8	63.3	22.8	13.1	17.3	0.0	31.1	982.3	995.1	▲ 12.7
R4. 6月		71.7	111.1	110.7	46.0	47.1	52.6	75.8	41.5	27.9	116.1	103.2	53.5	26.0	13.3	9.6	0.0	29.9	936.3	950.2	▲ 13.9
R4. 7月		74.2	111.1	133.3	49.5	53.0	55.8	72.8	31.0	32.2	109.4	105.6	60.1	25.0	14.6	19.1	0.9	33.3	980.4	1,005.6	▲ 25.2
R4. 8月		66.8	97.2	112.7	53.5	51.1	78.7	73.7	29.6	25.9	94.0	107.4	55.6	24.0	15.2	11.3	0.0	29.1	925.9	951.1	▲ 25.3
R4. 9月		76.3	121.8	99.2	51.0	53.3	56.2	79.4	37.7	29.7	106.3	112.2	62.2	26.5	17.6	14.1	0.0	27.0	970.1	1,003.7	▲ 33.6
R4. 10月		73.0	109.0	102.1	54.1	48.6	62.0	75.3	34.3	28.9	108.6	109.4	58.6	27.5	19.8	14.4	0.1	30.2	955.5	957.6	▲ 2.1
R4. 11月		70.1	111.4	94.9	55.5	52.0	59.9	79.4	36.4	30.2	99.3	125.3	54.2	25.5	16.0	13.7	0.1	27.6	951.1	962.4	▲ 11.4
R4. 12月		75.9	115.5	103.1	58.6	51.8	54.7	76.3	33.8	28.1	111.3	148.6	57.2	25.9	15.6	19.7	0.0	25.2	1,000.9	1,003.1	▲ 2.3
R5. 1月		72.7	107.7	104.2	53.9	53.4	61.2	76.9	31.8	28.6	114.2	144.6	59.0	28.7	15.8	16.1	0.0	23.3	992.2	982.1	10.1
R5. 2月		73.1	104.4	98.6	54.2	53.6	54.1	74.3	32.7	29.0	103.8	138.4	57.3	25.3	14.3	14.6	0.0	25.7	953.4	973.6	▲ 20.1
R5. 3月		74.0	112.5	92.7	56.3	49.5	55.3	73.5	35.0	31.4	119.4	141.4	59.7	27.9	15.0	16.5	0.1	26.7	986.8	968.3	18.5
計		72.1	109.9	109.1	52.7	51.9	58.0	76.4	34.5	29.2	109.1	120.3	57.9	25.8	15.4	15.0	0.1	28.2	965.6	976.0	▲ 10.4
前年度同期累計		68.0	110.3	107.3	50.6	65.6	55.0	71.9	37.3	27.1	120.2	107.4	58.3	26.3	15.1	0.4	17.7	37.4	976.0		
前年比較		4.1	▲ 0.4	1.8	2.1	▲ 13.7	3.0	4.5	▲ 2.8	2.1	▲ 11.1	12.9	▲ 0.5	▲ 0.5	0.3	14.6	▲ 17.6	▲ 9.3	▲ 10.4		

11. 年度別外来紹介患者数・紹介率

< 許可病床数が400床以上である病院 >

令和3年度までは外来初診患者数により算出

患者数	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	過去5年間の合計	過去5年間の平均
①初診患者の数		15,564	15,084	12,721	14,919	18,103	76,391	15,278
②再診患者の数						217,376	217,376	217,376
③救急自動車での搬送患者の数						2,722	2,722	2,722
④③のうち初診に限る患者数		1,069	1,138	1,135	1,289	1,386	6,017	1,203
⑤休日・夜間受診の救急患者数						6,402	6,402	6,402
⑥⑤のうち初診に限る患者数						2,809	2,809	2,809
⑦文書により紹介された患者数		5,449	4,136	3,602	3,190	3,245	19,622	3,924
紹介率		41.9%	35.0%	37.2%	30.0%	33.3%		35.5%
参考: 初診患者数に占める	文書紹介の割合	35.0%	27.4%	28.3%	21.4%	17.9%		26.0%
	救急搬送の割合	6.9%	7.5%	8.9%	8.6%	7.7%		7.9%
⑧診療情報提供料		3,265	4,819	4,230	3,563	5,076	20,953	4,191
逆紹介率		21.0%	31.9%	33.3%	23.9%	22.4%		26.5%

$$\text{紹介率算出式} = \frac{\text{④} + \text{⑦}}{\text{①} - (\text{④} + \text{⑥})} \times 100$$

$$\text{逆紹介率算出式} = \frac{\text{⑧}}{\text{①} + \text{②} - (\text{③} + \text{⑤})} \times 1000$$

12. 紹介率・逆紹介率

〈許可病床数が400床以上である病院〉

患者数		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
①	初診患者の数	(外来)	1,560	1,757	1,553	1,799	1,956	1,292	1,177	1,181	1,188	1,169	1,062	1,186	16,880	1,407
		(入院)	100	99	111	106	83	95	102	104	115	121	92	95	1,223	102
	計	1,660	1,856	1,664	1,905	2,039	1,387	1,279	1,285	1,303	1,290	1,154	1,281	18,103	1,509	
②	再診の患者の数		17,607	16,929	19,028	17,808	18,109	18,035	17,933	17,840	18,829	17,682	17,053	20,523	217,376	
③	救急自動車での搬送患者の数(全体)(初診に限る)		100	101	111	133	126	129	88	104	161	135	91	107	1,386	116
④	休日又は夜間に受診した救急患者数(初診に限る)		227	299	310	314	253	266	227	138	154	232	193	196	2,809	234
⑤	救急自動車での搬送患者の数(全体)(再診に限る)		91	107	93	120	140	111	126	102	132	130	84	100	1,336	111
⑥	休日又は夜間に受診した救急患者数(再診に限る)		313	386	315	339	338	278	218	189	358	356	247	256	3,593	299
⑦	文書により紹介された患者の数	(外来)	228	223	243	230	176	216	228	268	249	244	229	258	2,792	233
		(入院)	51	41	34	29	19	39	50	36	38	38	32	46	453	38
	計	279	264	277	259	195	255	278	304	287	282	261	304	3,245	270	
紹介率			28.4%	25.1%	31.2%	26.9%	19.3%	38.7%	38.0%	39.1%	45.3%	45.2%	40.5%	42.0%	33.3%	
逆紹介率			20.8‰	22.1‰	22.5‰	22.2‰	22.2‰	22.9‰	22.4‰	23.2‰	20.5‰	21.6‰	26.5‰	22.3‰	22.4‰	
参考: 初診患者数に占める	文書紹介の割合		16.8%	14.2%	16.6%	13.6%	9.6%	18.4%	21.7%	23.7%	22.0%	21.9%	22.6%	23.7%	17.9%	
	救急搬送の割合		6.0%	5.4%	6.7%	7.0%	6.2%	9.3%	6.9%	8.1%	12.4%	10.5%	7.9%	8.4%	7.7%	
⑧	診療情報提供料 (外来)		386	395	447	418	428	426	416	432	397	392	467	472	5,076	423
情報提供数/紹介患者数			138.4%	149.6%	161.4%	161.4%	219.5%	167.1%	149.6%	142.1%	138.3%	139.0%	178.9%	155.3%	156.4%	

$$\text{紹介率算出式(地域医療支援病院)} = \frac{\text{紹介患者(⑦)} + \text{救急患者(③)}}{\text{初診の患者数(①-(③+④))}} \times 100$$

$$\text{逆紹介率算出式} = \frac{\text{⑧}}{\text{(①-(③+④))+再来の患者数(②-(⑤+⑥))}} \times 1000$$

13. 病棟稼働状況及び病床利用率

		5病棟	6病棟	7病棟	8病棟	9病棟	11病棟	地域包括 ケア病棟	結核	精神科	合計	一般病棟	感染症	
	稼働日数	有効病床数	52	54	53	55	56	48	59	6	60	443	316	2
4月	30	患者延日数	985.0	1,237.0	1,327.0	1,291.0	1,339.0	10.0	1,273.0	80.0	571.0	8,113.0	6,189.0	0.0
		病床利用率	63.1%	76.4%	83.5%	78.2%	79.7%	0.7%	71.9%	44.4%	31.7%	61.0%	65.3%	0.0%
5月	31	患者延日数	873.0	1,212.0	1,398.0	1,248.0	1,438.0	50.0	1,435.0	98.0	658.0	8,410.0	6,219.0	0.0
		病床利用率	54.2%	72.4%	85.1%	73.2%	82.8%	3.4%	78.5%	52.7%	35.4%	61.2%	63.5%	0.0%
6月	30	患者延日数	1,054.0	1,288.0	1,451.0	1,131.0	1,292.0	13.0	1,328.0	46.0	731.0	8,334.0	6,229.0	0.0
		病床利用率	67.6%	79.5%	91.3%	68.5%	76.9%	0.9%	75.0%	25.6%	40.6%	62.7%	65.7%	0.0%
7月	31	患者延日数	881.0	1,346.0	1,423.0	1,067.0	1,522.0	64.0	1,382.0	65.0	961.0	8,711.0	6,303.0	0.0
		病床利用率	54.7%	80.4%	86.6%	62.6%	87.7%	4.3%	75.6%	34.9%	51.7%	63.4%	64.3%	0.0%
8月	31	患者延日数	882.0	872.0	584.0	1,112.0	1,323.0	347.0	1,231.0	161.0	791.0	7,303.0	5,120.0	0.0
		病床利用率	54.7%	52.1%	35.5%	65.2%	76.2%	23.3%	67.3%	86.6%	42.5%	53.2%	52.3%	0.0%
9月	30	患者延日数	849.0	1,198.0	0.0	1,306.0	1,221.0	364.0	1,002.0	136.0	805.0	6,881.0	4,938.0	0.0
		病床利用率	54.4%	74.0%	0.0%	79.2%	72.7%	25.3%	56.6%	75.6%	44.7%	51.8%	52.1%	0.0%
10月	31	患者延日数	924.0	1,321.0	862.0	1,075.0	1,452.0	157.0	1,082.0	102.0	795.0	7,770.0	5,791.0	0.0
		病床利用率	57.3%	78.9%	52.5%	63.0%	83.6%	10.6%	59.2%	54.8%	42.7%	56.6%	59.1%	0.0%
11月	30	患者延日数	832.0	1,217.0	1,060.0	1,218.0	1,151.0	221.0	1,396.0	124.0	720.0	7,939.0	5,699.0	0.0
		病床利用率	53.3%	75.1%	66.7%	73.8%	68.5%	15.3%	78.9%	68.9%	40.0%	59.7%	60.1%	0.0%
12月	31	患者延日数	849.0	1,052.0	1,403.0	1,352.0	1,282.0	347.0	1,465.0	122.0	611.0	8,483.0	6,285.0	0.0
		病床利用率	52.7%	62.8%	85.4%	79.3%	73.8%	23.3%	80.1%	65.6%	32.8%	61.8%	64.2%	0.0%
1月	31	患者延日数	800.0	1,309.0	1,440.0	1,199.0	1,383.0	75.0	1,424.0	118.0	536.0	8,284.0	6,206.0	0.0
		病床利用率	49.6%	78.2%	87.6%	70.3%	79.7%	5.0%	77.9%	63.4%	28.8%	60.3%	63.4%	0.0%
2月	28	患者延日数	767.0	1,196.0	1,275.0	1,190.0	1,331.0	6.0	1,257.0	69.0	740.0	7,831.0	5,765.0	0.0
		病床利用率	0.5	79.1%	85.9%	77.3%	84.9%	0.4%	76.1%	41.1%	44.0%	63.1%	65.2%	0.0%
3月	31	患者延日数	648.0	1,284.0	1,316.0	1,270.0	1,369.0	15.0	1,318.0	38.0	874.0	8,132.0	5,902.0	0.0
		病床利用率	40.2%	76.7%	80.1%	74.5%	78.9%	1.0%	72.1%	20.4%	47.0%	59.2%	60.2%	0.0%
合計	延べ 稼働日数	患者延日数	10,344.0	14,532.0	13,539.0	14,459.0	16,103.0	1,669.0	15,593.0	1,159.0	8,793.0	96,191.0	70,646.0	0.0
		病床利用率	54.5%	73.7%	70.0%	72.0%	78.8%	9.5%	72.4%	52.9%	40.2%	59.5%	61.3%	0.0%

14. 年度別科別平均在院日数

診療科名	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
呼循内	14.3	15.3	13.0	12.9	13.2
消血腫	11.3	9.7	12.8	12.3	14.3
内代神	18.1	15.9	13.8	14.6	17.8
小児科	5.8	5.4	5.8	7.1	5.0
神経精神科	56.1	50.1	50.7	44.9	49.9
外科	13.5	14.5	14.5	13.3	13.3
産婦人科	6.4	6.5	5.7	5.6	6.0
眼科	4.9	5.3	—	—	—
耳鼻咽喉科	7.7	6.8	7.8	8.9	6.7
整形外科	29.7	25.3	26.8	25.9	28.0
泌尿器科	9.8	10.8	10.3	11.0	10.5
皮膚科	—	—	—	—	—
脳神経外科	14.6	15.6	15.0	16.5	17.5
放射線科	—	—	—	—	—
麻酔科	—	—	—	—	—
呼吸器外科	9.9	9.0	7.3	7.6	7.5
歯科口腔外科	4.8	6.2	6.4	3.7	3.1

※地域包括ケア病棟を除いた一般病棟における診療科別の実績(眼科は除く)

15. 年齢別入院患者分析表

入院患者数(延べ患者数)

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	比率
0～2歳未満	177	185	250	164	173	124	194	186	165	146	155	121	2,040	170	2.1%
2歳～6歳未満	12	26	14	9	9	18	49	63	31	40	27	25	323	27	0.3%
6歳～10歳未満	14	23	6	31	12	19	1	28	18	30	5	13	200	17	0.2%
10歳代	88	46	54	45	16	18	48	57	65	45	83	24	589	49	0.7%
20歳代	195	209	229	236	151	201	127	153	251	243	184	137	2,316	193	2.4%
30歳代	323	378	523	407	420	411	463	387	413	284	334	291	4,634	386	4.8%
40歳代	296	369	325	291	203	173	239	275	296	322	450	361	3,600	300	3.7%
50歳代	580	652	401	528	508	451	626	499	442	468	423	401	5,979	498	6.2%
60歳代	1,019	1,011	1,018	919	931	798	742	784	868	1,019	1,158	1,258	11,525	960	12.0%
70歳代	1,919	1,823	2,117	2,428	1,762	1,789	2,201	2,159	2,054	1,958	1,670	2,043	23,923	1,994	24.9%
80歳代	2,679	2,714	2,618	2,865	2,431	2,182	2,267	2,542	2,957	2,630	2,586	2,717	31,188	2,599	32.4%
90歳代	807	916	746	787	675	669	768	764	903	1,066	740	705	9,546	796	9.9%
100歳以上	4	58	33	1	12	28	45	42	20	33	16	36	328	27	0.3%
合計	8,113	8,410	8,334	8,711	7,303	6,881	7,770	7,939	8,483	8,284	7,831	8,132	96,191	8,016	100.0%

入院患者数(実患者数)

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	比率
0～2歳未満	34	38	42	38	28	29	30	34	31	29	55	26	387	35	4.1%
2歳～6歳未満	4	9	6	3	1	5	6	11	5	6	7	9	72	6	0.8%
6歳～10歳未満	5	4	2	7	3	5	0	4	3	7	3	6	49	4	0.4%
10歳代	8	7	8	9	3	4	7	5	9	7	8	8	83	7	0.9%
20歳代	37	37	34	36	20	28	23	25	27	28	27	26	348	29	3.7%
30歳代	49	50	67	56	58	46	46	47	53	37	43	39	591	49	6.2%
40歳代	61	64	72	61	65	71	70	103	97	85	46	83	909	73	9.6%
50歳代	58	66	46	53	49	36	54	44	52	54	48	45	605	50	6.4%
60歳代	119	103	109	84	84	84	72	96	95	95	104	126	1,171	98	12.3%
70歳代	180	176	194	200	163	153	186	203	174	174	186	194	2,183	182	23.0%
80歳代	213	211	202	197	190	160	166	179	232	191	194	215	2,350	196	24.8%
90歳代	54	64	69	56	57	42	63	60	66	68	61	54	714	60	7.5%
100歳以上	1	3	2	1	2	2	4	3	1	2	1	2	24	2	0.3%
合計	823	832	853	801	723	665	727	814	845	783	783	833	9,486	790	100.0%

16. 年齢別外来患者分析表

外来患者数(延べ患者数)

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	比率
0～2歳未満	338	417	419	367	399	347	351	414	422	362	357	408	4,601	383	2.0%
2歳～6歳未満	320	393	313	333	419	332	315	328	342	288	304	378	4,065	339	1.7%
6歳～10歳未満	246	268	270	281	327	204	223	240	266	220	209	257	3,011	251	1.3%
10歳代	601	588	571	704	781	565	572	483	568	603	546	734	7,316	610	3.1%
20歳代	590	705	674	696	828	639	611	599	589	602	542	636	7,711	643	3.3%
30歳代	1,170	1,218	1,278	1,136	1,240	1,095	1,025	1,087	1,042	997	974	1,094	13,356	1,113	5.7%
40歳代	1,361	1,319	1,375	1,326	1,467	1,307	1,310	1,303	1,355	1,283	1,290	1,446	16,142	1,345	6.9%
50歳代	1,898	1,849	1,971	2,044	2,072	1,919	1,877	1,917	2,078	1,975	1,860	2,083	23,543	1,962	10.0%
60歳代	3,263	2,986	3,432	3,219	3,188	3,228	3,154	3,130	3,277	3,100	2,947	3,741	38,665	3,222	16.5%
70歳代	4,874	4,524	5,351	4,949	5,091	5,053	5,099	5,067	5,169	4,941	4,899	5,692	60,709	5,059	25.9%
80歳代	3,760	3,716	4,154	3,798	3,896	3,948	3,860	3,794	4,118	3,773	3,533	4,369	46,719	3,893	19.9%
90歳代	742	676	784	747	647	752	702	649	781	699	644	863	8,686	724	3.7%
100歳以上	4	5	7	8	14	12	11	10	10	8	10	8	107	9	0.0%
合計	19,167	18,664	20,599	19,608	20,369	19,401	19,110	19,021	20,017	18,851	18,115	21,709	234,631	19,553	100.0%

外来患者数(実患者数)

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	比率
0～2歳未満	216	271	248	233	286	248	239	259	259	241	246	255	3,001	250	2.4%
2歳～6歳未満	214	261	218	227	279	215	213	229	232	187	198	226	2,699	225	2.1%
6歳～10歳未満	169	186	182	199	239	148	155	160	194	158	152	186	2,128	177	1.7%
10歳代	435	425	399	487	565	408	395	345	412	436	384	515	5,206	434	4.1%
20歳代	361	441	419	431	549	387	384	374	348	362	342	390	4,788	399	3.8%
30歳代	690	718	730	697	777	655	602	630	624	605	605	646	7,979	665	6.3%
40歳代	852	817	827	808	913	783	805	772	799	772	774	814	9,736	811	7.7%
50歳代	1,060	1,019	1,085	1,078	1,105	1,057	1,057	1,015	1,079	1,046	981	1,079	12,661	1,055	10.0%
60歳代	1,739	1,591	1,752	1,682	1,691	1,709	1,687	1,637	1,680	1,600	1,474	1,700	19,942	1,662	15.7%
70歳代	2,523	2,311	2,592	2,507	2,411	2,501	2,505	2,484	2,534	2,385	2,338	2,696	29,787	2,482	23.4%
80歳代	1,995	1,875	2,098	1,955	2,018	2,047	2,004	1,970	2,083	1,951	1,777	2,165	23,938	1,995	18.8%
90歳代	436	401	460	429	395	448	436	388	462	419	376	472	5,122	427	4.0%
100歳以上	3	5	4	5	9	7	7	7	6	5	7	7	72	6	0.1%
合計	10,693	10,321	11,014	10,738	11,237	10,613	10,489	10,270	10,712	10,167	9,654	11,151	127,059	10,588	100.0%

17. 診療科別・病棟別平均在院日数

R3年度平均在院日数

[科別在院日数]一般病床

科別	呼循環内	消血腫	内代神	小児科	外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	整形外科	泌尿器科	皮膚科	脳神経外科	呼吸器外科	歯科口腔外科	一般病床+結核病床	精神
在院数	6,975	15,239	3,241	1,472	6,821	6,418	0	1,266	9,743	5,966	0	6,256	3,048	86	66,531	8,641
新入院	585	1,122	198	267	523	1,101	0	190	415	593	0	429	405	28	5,856	169
退院	471	1,009	167	322	503	1,050	0	186	281	541	0	288	403	28	5,249	177
平均在院日数	13.2	14.3	17.8	5.0	13.3	6.0		6.7	28.0	10.5		17.5	7.5	3.1	12.0	49.9

[科別在院日数]地域包括ケア病床

科別	呼循環内	消血腫	内代神	小児科	外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	整形外科	泌尿器科	皮膚科	脳神経外科	呼吸器外科	歯科口腔外科	地域包括ケア病床	合計
在院数	2,662	1,248	949	0	1,988	29	0	67	3,748	1,013	0	2,636	53	0	14,393	89,565
新入院	15	320	29	0	165	0	0	11	42	14	0	3	0	0	599	6,624
退院	140	401	54	0	212	0	0	13	166	72	0	139	3	0	1,200	6,626
平均在院日数	34.3	3.5	22.9		10.5			5.6	36.0	23.6		37.1	35.3		16.0	13.5

[病棟別在院日数]

病棟別	第5病棟	第6病棟	第7病棟	第8病棟	第9病棟	第11病棟一般	一般病棟合計	地域包括ケア病棟	結核病棟	精神科病棟	合計	第11病棟合計	一般病棟+ドック
在院数	8,921	13,392	13,002	13,477	15,095	1,584	65,471	14,393	1,085	8,616	89,565	2,669	65,471
新入院	1,431	1,312	645	1,155	1,117	117	5,777	599	79	169	6,624	196	5,777
退院	1,423	1,140	537	982	1,008	85	5,175	1,200	74	177	6,626	159	5,175
平均在院日数	6.3	10.9	22.0	12.6	14.2	15.7	12.0	16.0	14.2	49.8	13.5	15.0	12.0

18. 分娩件数

年月	分娩形				分娩件数	出生数	双子数	うち死産
	自然分娩	吸引分娩 鉗子分娩	骨盤位分娩 (経膣)	帝王切開				
4月	34	4	0	7	45	44	0	1
5月	30	0	0	6	36	36	0	0
6月	38	1	0	11	50	48	0	2
7月	32	1	0	6	39	39	0	0
8月	23	3	0	4	30	31	1	0
9月	31	1	0	4	36	35	0	1
10月	31	2	0	3	36	37	1	0
11月	24	1	0	7	32	32	0	0
12月	31	3	0	2	36	35	0	1
1月	29	2	0	3	34	49	0	1
2月	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	23	1	0	6	30	29	0	1
合計	326	19	0	59	404	415	2	7

19. 外来化学療法件数

区分 診療月	外来腫瘍化学療法診療料1 (抗悪性腫瘍材を投与した場合)	外来腫瘍化学療法診療料1 (抗悪性腫瘍材の投与その他必要 な治療管理を行った場合)	外来化学療法加算1 (15歳以上の患者の場合)
令和4年4月	224	15	30
令和4年5月	242	41	28
令和4年6月	283	74	24
令和4年7月	260	86	28
令和4年8月	302	127	29
令和4年9月	279	132	27
令和4年10月	262	125	24
令和4年11月	253	132	24
令和4年12月	248	115	25
令和5年1月	262	109	25
令和5年2月	245	113	23
令和5年3月	285	149	26
合計	3,145	1,218	313
1月あたりの 算定件数	262.1	101.5	26.1
1日あたりの 算定件数 (診療日数243日)	12.9	5.0	1.3

20. 年度別麻酔件数

年度	全身麻酔	全身麻酔+ 硬膜外麻酔	硬膜外 麻酔	脊椎麻酔	伝達麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	その他	麻酔実施 件数	1日平均麻 酔実施件数	診療日 実日数
平成26年度	970	0	0	294	54	1	1,514	3	2,836	7.8	365
平成27年度	973	12	2	280	61	0	1,422	2	2,752	7.5	366
平成28年度	921	7	1	267	61	0	1,454	0	2,711	7.4	365
平成29年度	941	14	1	277	102	3	1,392	1	2,731	7.5	365
平成30年度	919	4	2	280	100	2	1,537	10	2,854	7.8	365
令和元年度	999	3	0	323	101	10	1,602	6	3,044	8.3	366
令和2年度	925	3	2	327	89	3	1,383	3	2,731	7.5	365
令和3年度	836	0	4	334	77	15	1,240	11	2,517	6.9	365
令和4年度	672	16	0	382	74	1	630	0	1,775	4.9	365

21. 月別麻酔件数

診療月	区分								
	全身麻酔	全身麻酔＋ 硬膜外麻酔	硬膜外 麻酔	脊椎麻酔	伝達麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	その他	麻酔実施 件数
4月	61	2	0	34	5	0	53	0	155
5月	52	0	0	33	6	0	56	0	147
6月	85	0	0	49	6	0	58	0	198
7月	52	0	0	25	6	0	41	0	124
8月	31	0	0	21	5	0	21	0	78
9月	41	0	0	20	4	0	47	0	112
10月	45	1	0	32	5	0	49	0	132
11月	55	3	0	39	8	0	59	0	164
12月	60	2	0	34	8	0	61	0	165
1月	57	1	0	28	8	1	67	0	162
2月	64	3	0	32	7	0	59	0	165
3月	69	4	0	35	6	0	59	0	173
合計	672	16	0	382	74	1	630	0	1,775
1月あたりの算定件数	56.0	1.3	0.0	31.8	6.2	0.1	52.5	0.0	147.9
1日あたりの算定件数 (診療日数365日)	1.8	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	1.7	0.0	4.9

22. 診療科別麻酔件数

診療月	区分						
	全身麻酔	脊椎麻酔	伝達麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	その他	麻酔実施 件数
外科	313	53	0	0	186	27	579
産婦人科	89	85	0	0	13	7	194
整形外科	84	131	52	1	77	18	363
脳神経外科	7	0	0	1	54	1	63
泌尿器科	21	84	7	0	99	11	222
耳鼻咽喉科	63	0	0	0	11	1	75
眼科	0	0	0	0	116	25	141
歯科口腔外科	24	0	0	0	1	0	25
神経精神科	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器外科	64	0	0	0	1	0	65
その他	0	0	0	0	1	0	1
合計	665	353	59	2	559	90	1,728

※「21. 月別麻酔件数」とは集計方法が異なるため合計件数が一致しません。

23. 救急患者来院数

診療月	救急 患者数	救急患者取扱い時間帯							
		平日時間内		時間外		休日		深夜	
4月	609	93	15.3%	260	42.7%	134	22.0%	122	20.0%
5月	708	100	14.1%	244	34.5%	243	34.3%	121	17.1%
6月	625	129	20.6%	272	43.5%	112	17.9%	112	17.9%
7月	791	139	17.6%	325	41.1%	205	25.9%	122	15.4%
8月	725	142	19.6%	288	39.7%	154	21.2%	141	19.4%
9月	646	102	15.8%	227	35.1%	202	31.3%	115	17.8%
10月	628	107	17.0%	250	39.8%	164	26.1%	107	17.0%
11月	548	82	15.0%	206	37.6%	168	30.7%	92	16.8%
12月	673	119	17.7%	237	35.2%	187	27.8%	130	19.3%
1月	638	114	17.9%	202	31.7%	203	31.8%	119	18.7%
2月	478	82	17.2%	168	35.1%	136	28.5%	92	19.2%
3月	543	81	14.9%	246	45.3%	102	18.8%	114	21.0%
計	7,612	1,290	16.9%	2,925	38.4%	2,010	26.4%	1,387	18.2%
1月あたりの 来院数	634.3	107.5		243.8		167.5		115.6	
1日あたりの 来院数	20.9	3.5		8.0		5.5		3.8	

24. 救急車搬入件数及び転送件数

診療月	救急車搬入数	うち時間内搬送数	うち時間外・休日搬送数	うち深夜搬送数(再掲)	救急車転送数
4月	192	61	131	40	2
5月	207	63	144	37	1
6月	200	79	121	33	2
7月	251	92	159	36	2
8月	265	104	161	49	3
9月	239	82	157	45	1
10月	213	81	132	30	0
11月	204	66	138	25	1
12月	294	94	200	49	1
1月	261	81	180	46	4
2月	173	63	110	35	1
3月	207	81	126	41	3
計	2,706	947	1,759	466	21
1月あたりの 来院数	225.5	78.9	146.6	38.8	1.8
1日あたりの 来院数	7.4	2.6	4.8	1.3	-

25. 来院方法別救急患者数

診療月	独歩・ 自家用車	救急車	ヘリコプター
4月	417	192	0
5月	501	207	0
6月	425	200	0
7月	540	251	0
8月	460	265	0
9月	407	239	0
10月	415	213	0
11月	344	204	0
12月	379	294	0
1月	377	261	0
2月	305	173	0
3月	336	207	0
計	4,906	2,706	0

26. 人間ドック受診者数

	受入 可能数(人)	受入数(人)	稼働率	半日ドック(人) (しっかりコース)	半日ドック(人) (標準コース)	比率	
						しっかり	標準
4月	23	23	100.0%	3	20	13.0%	87.0%
5月	33	33	100.0%	3	30	9.1%	90.9%
6月	39	39	100.0%	5	34	12.8%	87.2%
7月	35	35	100.0%	6	29	17.1%	82.9%
8月	38	36	94.7%	8	28	22.2%	77.8%
9月	36	35	97.2%	11	24	31.4%	68.6%
10月	36	36	100.0%	8	28	22.2%	77.8%
11月	36	36	100.0%	11	25	30.6%	69.4%
12月	35	35	100.0%	6	29	17.1%	82.9%
1月	34	34	100.0%	5	29	14.7%	85.3%
2月	34	34	100.0%	4	30	11.8%	88.2%
3月	23	23	100.0%	2	21	8.7%	91.3%
計	402	399	99.3%	72	327	18.0%	82.0%

27. 診療情報開示請求件数

申請者別

診療月	申請者	
	本人	家族・親族
4月	8	1
5月	3	0
6月	6	0
7月	5	0
8月	13	0
9月	6	0
10月	6	0
11月	9	0
12月	4	0
1月	5	0
2月	7	0
3月	5	1
合計	77	2

使用目的別

診療月	使用目的					
	B型肝炎訴訟	保険金・年金請求	労災認定	訴訟準備	診断の確認	がん補装具申請
4月	4	4	0	0	1	0
5月	1	2	0	0	0	0
6月	1	3	2	0	0	0
7月	1	3	0	0	0	1
8月	2	6	3	1	1	0
9月	0	5	0	1	0	0
10月	0	2	0	3	1	0
11月	2	4	1	0	2	0
12月	0	3	1	0	0	0
1月	2	2	0	1	0	0
2月	0	6	1	0	0	0
3月	3	3	0	0	0	0
合計	16	43	8	6	5	1

提供種類

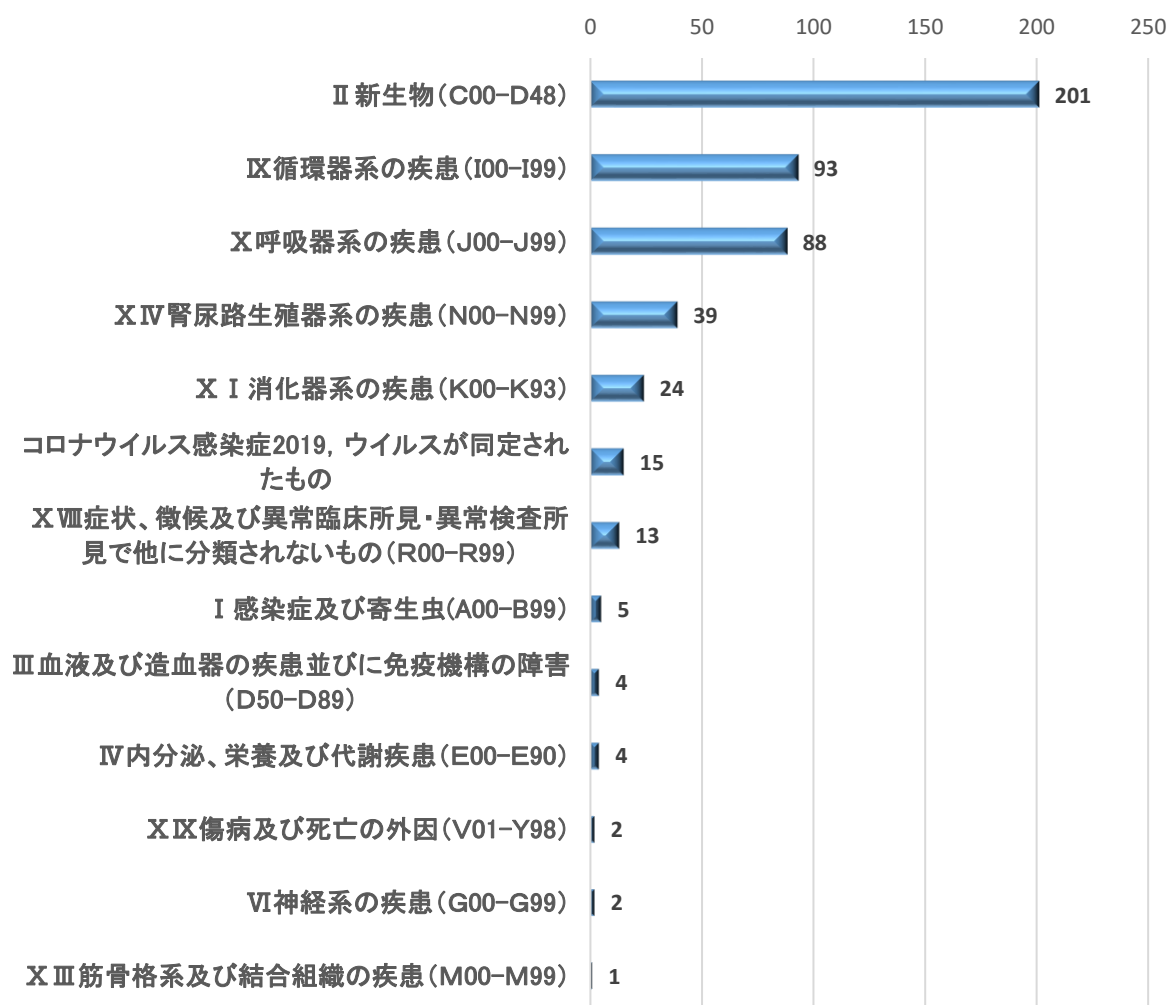
診療月	提供種類			
	検査記録	診療録	画像記録	その他
4月	1	7	4	2
5月	0	1	2	0
6月	1	3	3	0
7月	1	0	3	1
8月	3	7	9	1
9月	0	1	5	1
10月	0	3	4	0
11月	1	3	7	0
12月	0	0	4	0
1月	2	1	3	0
2月	2	1	6	0
3月	3	5	0	2
合計	14	32	50	7

※その他に診療報酬明細書、検査試薬名、検査資料、紹介カード、紹介状、同意書を含む

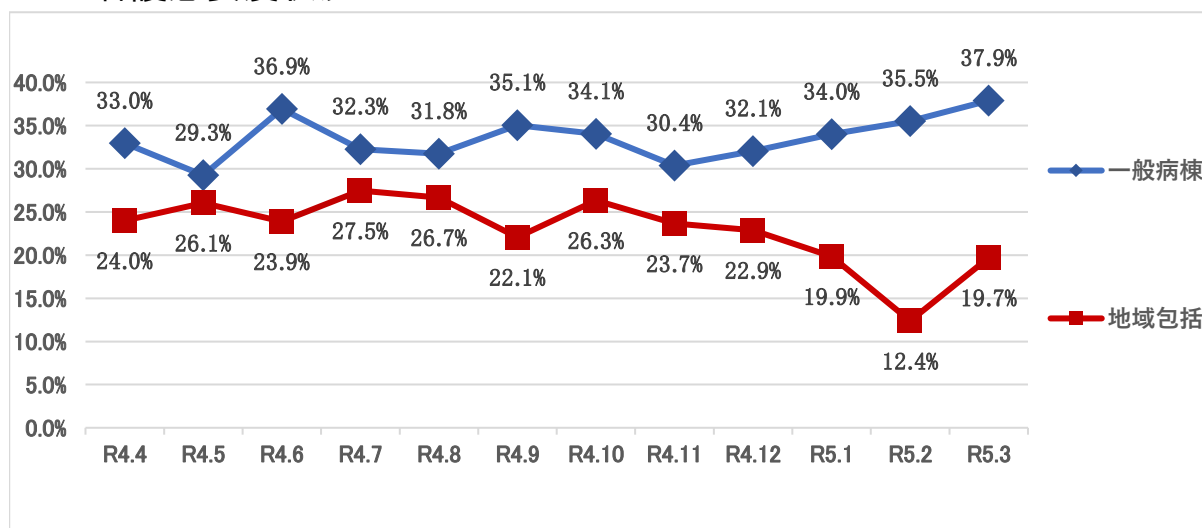
28. 診療科別疾病統計

	ICD10コード	1位		2位		3位		4位		5位		6位		7位		8位		9位		10位		その他		総数
		人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	
呼吸内	ICD10コード	I50		I20		I21		U07		J69		J18		I44		I71		T82		I25				
	疾患名	心不全		狭心症		急性心筋梗塞		コロナウイルス感染症2019、ウイルスが同定されたもの		固形物及び液状物による肺炎		肺炎、病原体不詳		房室ブロック及び左脚ブロック		大動脈瘤及び解離		心臓及び血管のプロステシス、挿入物及び移植片の合併症		慢性虚血性心疾患				
消血腫	ICD10コード	D12		C16		C18		K80		C25		C24		C83		C15		C22		C20				
	疾患名	結腸、直腸、肛門及び肛門管の良性新生物		胃の悪性新生物		結腸の悪性新生物		胆石症		膵の悪性新生物		その他及び部位不明の胆道の悪性新生物		びまん性非ホジキン(non-Hodgkin)リンパ腫		食道の悪性新生物		肝及び肝内胆管の悪性新生物		直腸の悪性新生物				
小児	ICD10コード	P59		T78		J20		U07		A08		P07		J02		P00		G93		R56				
	疾患名	その他及び詳細不明の原因による新生児黄疸		有害作用、他に分類されないもの		急性気管支炎		コロナウイルス感染症2019、ウイルスが同定されたもの		ウイルス性及びその他の明示された腸管感染症		妊娠期間短縮及び低出生体重に関連する障害、他に分類されないもの		急性咽頭炎		現在の妊娠とは無関係の場合もありうる母体の病態により影響を受けた胎児及び新生児		脳のその他の障害		けいれん(痙攣)、他に分類されないもの				
精神	ICD10コード	F20		G30		F43		F32		F10		F22		F05		F31		G40		F06				
	疾患名	統合失調症		アルツハイマー<Alzheimer>病		重度ストレスへの反応及び適応障害		うつ病エピソード		アルコール使用(飲酒)による精神及び行動の障害		持続性妄想性障害		せん妄、アルコールその他の精神作用物質によらないもの		双極性感情障害<躁うつ病>		てんかん		脳の損傷及び機能不全並びに身体疾患によるその他の精神障害				
外	ICD10コード	C50		K40		K56		C18		C16		C20		C78		K80		K35		K57				
	疾患名	乳房の悪性新生物		そけい(鼠径)ヘルニア		麻痺性イレウス及び腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの		結腸の悪性新生物		胃の悪性新生物		直腸の悪性新生物		呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物		胆石症		急性虫垂炎		腸の憩室性疾患				
産婦人	ICD10コード	O80		P00		O24		P70		C56		C54		O60		O42		D25		O48				
	疾患名	単胎自然分娩		現在の妊娠とは無関係の場合もありうる母体の病態により影響を受けた胎児及び新生児		妊娠中の糖尿病		胎児及び新生児に特異的な一過性糖質代謝障害		卵巣の悪性新生物		子宮体部の悪性新生物		早産		前期破水		子宮平滑筋腫		遷延妊娠				
耳鼻	ICD10コード	H81		G47		C32		J32		R04		G51		C12		J38		J36		D11				
	疾患名	前庭機能障害		睡眠障害		喉頭の悪性新生物		慢性副鼻腔炎		気道からの出血		顔面神経障害		梨状陥凹(洞)の悪性新生物		声帯及び喉頭の疾患、他に分類されないもの		扁桃周囲膿瘍		大唾液腺の良性新生物				
整形外	ICD10コード	S72		S32		S82		S22		S42		M48		L03		M51		S52		M16				
	疾患名	大腿骨骨折		腰椎及び骨盤の骨折		下腿の骨折、足首を含む		肋骨、胸骨及び胸椎骨折		肩及び上腕の骨折		その他の脊椎障害		蜂巣炎<蜂窩織炎>		その他の椎間板障害		前腕の骨折		股関節症[股関節部の関節症]				
泌尿器	ICD10コード	C61		N18		N10		C67		U07		N30		N20		C65		N17		N39				
	疾患名	前立腺の悪性新生物		慢性腎不全		急性尿細管間質性腎炎		膀胱の悪性新生物		コロナウイルス感染症2019、ウイルスが同定されたもの		膀胱炎		腎結石及び尿管結石		腎盂の悪性新生物		急性腎不全		尿路系のその他の障害				
脳外	ICD10コード	I63		I61		I62		S06		I60		G40		C79		I66		G45		J69				
	疾患名	脳梗塞		脳内出血		その他の非外傷性頭蓋内出血		頭蓋内損傷		くも膜下出血		てんかん		その他の部位の続発性悪性新生物		脳動脈の閉塞及び狭窄、脳梗塞に至らなかったもの		一過性脳虚血発作及び関連症候群		固形物及び液状物による肺炎				
内代神	ICD10コード	E11		U07		J69		E86		E87		J18		I63		N39		E10		E83				
	疾患名	インスリン非依存性糖尿病(NIDDM)		コロナウイルス感染症2019、ウイルスが同定されたもの		固形物及び液状物による肺炎		体液量減少(症)		その他の体液、電解質及び酸塩基平衡障害		肺炎、病原体不詳		脳梗塞		尿路系のその他の障害		インスリン依存性糖尿病(IDDM)		ミネラル<鈣質>代謝障害				
呼吸外	ICD10コード	C34		J93		S27		C78		J86		C37		C45		D14		J85		J84				
	疾患名	気管支及び肺の悪性新生物		気胸		その他及び詳細不明の胸腔内臓器の損傷		呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物		膿胸(症)		胸腺の悪性新生物		中皮腫		中耳及び呼吸器系の良性新生物		肺及び縦隔の膿瘍		その他の間質性肺疾患				
歯口外	ICD10コード	K01		K07		K10		D16		D10		K09		S02		Q37		K02		L02				
	疾患名	埋伏歯		歯顎顔面(先天)異常[不正咬合を含む]		顎骨のその他の疾患		骨及び関節軟骨の良性新生物		口腔及び咽頭の良性新生物		口腔部のう<蓋>胞、他に分類されないもの		頭蓋骨及び顔面骨の骨折		唇裂を伴う口蓋裂		う<齶>蝕		皮膚膿瘍、せつ<フンケル>及びよう<カルファンケル>				
	人数	割合%		人数		割合%		人数		割合%		人数		割合%		人数		割合%		人数		割合%		
		8 28.6%		8 28.6%		2 7.1%		2 7.1%		2 7.1%		2 7.1%		1 3.6%		1 3.6%		1 3.6%		1 3.6%		0 0.0%		28

29. 原死因統計



30. 看護必要度状況



V. 臨床指標

<<全国自治体病院協議会 臨床指標（一般）>>

※類似病院:病床数400以上の病院

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	類似病院 4年度平均値
入院患者満足度	なし	96.7%	97.5%	なし	97.9%
外来患者満足度	なし	95.2%	94.5%	96.4%	94.9%
紹介率【一般】	56.2%	49.2%	57.0%	61.7%	69.7%
逆紹介率【一般】	29.1%	25.1%	19.0%	22.2%	57.7%
新入院患者紹介率	29.1%	27.9%	26.8%	27.0%	36.2%
在宅復帰率	88.8%	93.6%	94.7%	92.6%	88.2%
地域医療機関サポート率	92.9%	88.3%	95.7%	92.3%	69.7%
地域分娩貢献率	112.2%	113.8%	113.8%	109.4%	36.8%
地域救急貢献率	58.7%	58.5%	58.9%	60.8%	34.0%
転倒・転落レベル2以上発生率	0.00044	0.00051	0.00125	0.00101	0.00136
褥瘡推定発生率	0.000	0.009	0.005	0.005	0.017
手術開始前1時間以内予防的抗菌薬投与率	93.6%	92.7%	92.1%	88.4%	82.6%
肺血栓塞栓症予防対策実施率	89.5%	95.0%	93.1%	93.9%	93.5%
クリニカルパス使用率【患者数】	39.4%	42.5%	47.9%	57.1%	53.7%
クリニカルパス使用率【日数】	16.3%	19.7%	25.7%	26.3%	32.6%
脳卒中連携パス使用率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	17.1%
大腿骨地域連携パス使用率	なし	0.0%	0.0%	0.0%	20.2%
精神科病院入院からの身体疾患受入れ頻度	1.5	1.0	0.8	0.8	1.0
院内他科入院中の精神科診察依頼頻度	18.5	19.1	21.1	23.5	33.7
脳梗塞入院1週間以内リハビリ強度	14.2	9.5	9.7	9.3	12.2
脳梗塞ADL改善度	23.0	17.8	22.0	16.8	20.1
誤嚥性肺炎摂食指導実施率	6.2%	3.4%	0.0%	0.0%	16.0%
誤嚥性肺炎再入院率	14.6%	4.4%	1.9%	1.7%	4.3%
急性心筋梗塞バイアスピリン処方率	46.7%	63.6%	96.7%	89.6%	87.9%
急性心筋梗塞急性期PCI実施率	なし	0.0%	76.7%	79.2%	76.2%
急性心筋梗塞急性期PCI実施患者死亡率	なし	なし	8.7%	5.3%	4.0%
糖尿病入院栄養指導実施率	83.3%	74.4%	67.9%	41.5%	74.0%
脳梗塞急性期t-PA治療施行率【地域医療計画】	なし	0.0%	0.0%	0.0%	89.8%
急性心筋梗塞PCI doortoballoon 90分施行率	なし	なし	95.5%	74.3%	71.7%
胃癌低侵襲手術率(内視鏡)	73.9%	60.9%	72.2%	66.7%	64.3%
胃癌低侵襲手術率(腹腔鏡)	5.8%	0.0%	6.7%	53.8%	80.1%
がん患者サポート率	19.0%	23.9%	13.0%	13.5%	11.9%
迅速細胞診実施率(胃癌)	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	26.3%
放射線専門医診断寄与率	44.8%	53.7%	49.0%	54.1%	56.4%
安全管理薬剤指導率	42.4%	45.3%	47.1%	48.4%	40.9%
術後せん妄推定発生率	6.9%	7.0%	6.4%	6.6%	9.0%
HBV再活性化スクリーニング実施率	なし	19.9%	19.2%	21.5%	47.1%
警告薬剤定期検査実施率	なし	62.0%	94.4%	94.3%	87.1%

<<全国自治体病院協議会 臨床指標（精神）>>

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	総合病院精神科 有床 4年度平均値
入院患者満足度【精神科再掲】	なし	100.0%	92.9%	なし	93.9%
紹介率【一般精神科再掲】	78.8%	72.4%	82.4%	89.5%	63.8%
逆紹介率【一般精神科再掲】	5.3%	60.3%	74.4%	82.3%	105.3%
新入院頻度【精神科】	84.2	72.9	68.8	70.4	85.7
緊急措置件数【精神科】	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
措置入院件数【精神科】	0.0	0.0	0.0	0.3	0.9
退院患者頻度【精神科】	92.1	75.0	77.1	73.8	93.8
在院3か月以内の退院率【精神科】	87.8%	88.9%	95.1%	87.6%	81.6%
退院後3か月以内の再入院率【精神科】	13.4%	12.0%	6.1%	10.1%	16.7%
在宅復帰率【精神科再掲】	76.5%	81.6%	80.8%	78.9%	71.6%
救急車来院件数【精神科】	25.5	25.0	21.5	29.0	11.9
警察関係車両来院件数【精神科】	25.5	1.0	0.3	1.0	3.0
転倒・転落レベル2以上発生率【精神科再掲】	0.00038	0.00100	0.00249	0.00182	0.00151
褥瘡推定発生率【精神科再掲】	0.000	0.000	0.000	0.000	0.018
臨床パス使用率【患者数精神科再掲】	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.5%
クロザピン処方実人数【入院】	1.3	1.3	1.5	なし	2.6
クロザピン処方実人数【外来】	27.5	17.0	16.0	16.0	8.4
電気痙攣療法延べ人数【入院:全麻】	0.0	2.0	5.0	なし	28.7
作業療法延べ人数【入院】	730.8	848.8	749.3	628.8	925.8
作業療法延べ人数【外来】	0.0	なし	なし	なし	96.0
訪問看護延べ人数【外来】	91.3	112.3	107.7	107.0	192.5
アルコール依存症患者数【外来】	3.5	4.0	2.0	0.5	3.2
アルコール依存症患者数【入院】	1.8	4.0	3.3	0.8	1.4
薬物依存症患者数【外来】	0.0	0.8	0.0	0.0	0.5
薬物依存症患者数【入院】	0.0	0.5	0.0	0.0	0.2

大館市立総合病院年報第12号編集にあたって

大館市立総合病院年報第12号（令和4年度）をお届けします。病院年報という形式としては12回目の刊行となりました。論文発表が主な内容であった業績集に、各診療科、各部門の臨床統計が加わったものを、現在、病院年報として発行しております。毎年、委員会で掲載内容を検討して内容の充実を図り、現在のページ数は200ほどとなっております。

今年度の病院年報では、昨年度に引き続き「全国自治体病院協議会 医療の質評価・公表等事業」における臨床指標を掲載しております。掲載内容は簡易的ではありますが、今後も、さらなる検討を重ね、内容を充実させていきたいと考えております。もちろん、臨床指標のみでなく、病院年報全体としても、内容の充実に加えて読みやすさも追求できるよう努めてまいりますのでよろしく申し上げます。

最後になりますが、第12号の発行にご協力いただいた原稿担当者の皆さまに感謝申し上げます。

院内年報編集委員会
令和6年3月18日 記

院内年報編集委員会

委員長	橋本 浩	(副院長)
委員	丹代 諭	(小児科部長)
	石田 和子	(看護部長)
	佐々木 藍	(臨床検査科)
	千葉 さやか	(放射線科)
	畑中 祐磨	(薬剤科)
	松田 真美子	(栄養科)
	豊口 卓	(リハビリテーション科)
	畠山 隆司	(経営企画課)
	中村 太陽	(経営企画課)
	木下 諭	(経営企画課)

大館市立総合病院年報

令和4年4月～令和5年3月 第12号
令和6年3月19日 発行

発行所 大館市立総合病院
〒017-8550 秋田県大館市豊町3-1
TEL (0186) 42-5370